

(様式第 10)

名大医総第56号
令和3年10月1日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人東海国立大学機構
機構長 松尾 清一

名古屋大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒464-8601 名古屋市千種区不老町
氏 名	国立大学法人 東海国立大学機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

名古屋大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地	電話 (052) 741-2111
-----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

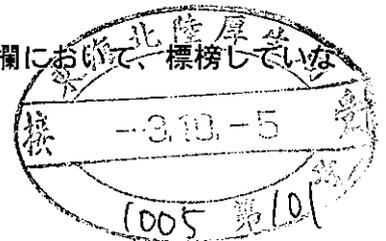
4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
<p>1 呼吸器内科</p> <p>5 神経内科</p> <p>9 感染症内科</p>	<p>2 消化器内科</p> <p>6 血液内科</p> <p>10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科</p>	<p>3 循環器内科</p> <p>7 内分泌内科</p> <p>4 腎臓内科</p> <p>8 代謝内科</p> <p>11 ウマチ科</p>
診療実績		
<p>神経内科：脳神経内科にて医療を提供している</p> <p>内分泌内科、代謝内科：糖尿病・内分泌内科にて医療を提供している。</p> <p>感染症内科：内科全般にて医療を提供している。</p> <p>アレルギー疾患内科またはアレルギー科：内科全般と小児科にて医療を提供している。</p>		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない



い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 (1)呼吸器外科 (2)消化器外科 3乳腺外科 (4)心臓外科 (5)血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 (8)小児外科	
診療実績 乳腺外科、内分泌外科：乳腺・内分泌外科にて医療を提供している。 心臓血管外科：心臓外科、血管外科にて医療を提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)脳神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 (7)産婦人科 8産科 9婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 (12)放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 (15)麻酔科 (16)救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 (3)口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 児童精神科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科 4 糖尿病・内分泌内科 5 老年内科 6 移植外科 7 形成外科 8 乳腺・内分泌外科 9 脳神経内科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
50床	床	床	床	1,030床	1,080床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	402人	352人	680人	看 護 補 助 者	60人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	30人	35人	理 学 療 法 士	36人	臨床検査技師	87人
薬 剤 師	85人	12人	95.1人	作 業 療 法 士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	13人	そ の 他	0人
助 産 師	40人	2人	41.4人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	3人
看 護 師	1112人	36人	1135.1人	臨 床 工 学 士	40人	医療社会事業従事者	11人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	104人
歯科衛生士	7人	0人	7人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	338人
管理栄養士	10人	0人	10人	診 療 放 射 線 技 師	73人	そ の 他 の 職 員	11人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	100人	眼 科 専 門 医	12人
外 科 専 門 医	101人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12人
精 神 科 専 門 医	16人	放 射 線 科 専 門 医	27人
小 児 科 専 門 医	26人	脳 神 経 外 科 専 門 医	26人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	48人
泌 尿 器 科 専 門 医	9人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	28人	救 急 科 専 門 医	7人
		合 計	434人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(小寺 泰弘) 任命年月日 平成31年4月1日

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院材料部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

平成29年4月1日から平成31年3月31日まで、名古屋大学医学部附属病院医療機器総合管理部長を務め、医療機器安全管理責任者であった。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	718.6人	7.3人	725.9人
1日当たり平均外来患者数	2005.8人	80.8人	2086.6人
1日当たり平均調剤数			726.2 剤
必要医師数			190.1人
必要歯科医師数			5人
必要薬剤師数			24人
必要(准)看護師数			433人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	2,113m ²	鉄筋コンクリート	病床数	52床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	291 m ²	病床数	27 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	54 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬歴管理室、高度医療薬剤支援室			
化学検査室	559 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)生化学自動分析装置、免疫自動分析装置			
細菌検査室	128 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)バクテアラート3D、マイクロスキャン			
病理検査室	341 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)検体検査装置クリオスタット、自動脱水包埋装置			
病理解剖室	66 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)解剖台、クリーンベンチ、臓器撮影台			
研究室	142 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)次世代シーケンサー、質量分析装置			
講義室	55 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	35人
図書室	41 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	8,400冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	72.9%	逆紹介率	67.9%
算出根拠	A：紹介患者の数		13,211人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,706人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		441人
	D：初診の患者の数		18,706人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会 会長		愛知県医師会 長を務めており、 医療安全に精通し ているため。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
三島 信彦	A01名古屋病院 病院長		A01名古屋病院 病院長を務めて おり、医療安全に 精通しているた め。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
長谷川 ふ き子	成田・長谷川法 律事務所 弁 護士		医療安全管理を 得意とする弁 護士であり、法 律に関する高い 識見を有してい るため。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
芦田 豊	全国健康保険 協会 愛知支 部 支部長		全国健康保険協 会愛知支部長を 務めており、医 療を受ける者 として、医療に 係る高い見識 を有している ため。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
中東 正文	名古屋大学 副総長		総長が指名する 理事・副総長	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 本院ホームページ上に公表。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	21人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	1人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	4人
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 特になし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	73	56	ベーチェット病	64
2	筋萎縮性側索硬化症	63	57	特発性拡張型心筋症	78
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	23
4	原発性側索硬化症	3	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	37
6	パーキンソン病	259	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	64
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	20
11	重症筋無力症	99	66	IgA腎症	54
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	24
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	97	68	黄色靭帯骨化症	13
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	64	69	後縦靭帯骨化症	63
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	102
17	多系統萎縮症	25	72	下垂体性ADH分泌異常症	26
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	93	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	12
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	62	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	61
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	110
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	28	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	97
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	50
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	64
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	106
34	神経線維腫症	84	89	リンパ脈管筋腫症	11
35	天疱瘡	11	90	網膜色素変性症	33
36	表皮水疱症	5	91	バッド・キアリ症候群	8
37	膿疱性乾癬(汎発型)	2	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	40
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	18
40	高安動脈炎	27	95	自己免疫性肝炎	30
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	351
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	398
43	顕微鏡的多発血管炎	20	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	9	102	ルピンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	196	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	81	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	83	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
52	混合性結合組織病	12	107	若年性特発性関節炎	3
53	シェーグレン症候群	22	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	5	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	2
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	8
113	筋ジストロフィー	11	168	エーラス・ダンロス症候群	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	3
117	脊髄空洞症	0	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	1	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガスター症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	6	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
160	先天性魚鱗癬	3	215	ファロー四徴症	1
161	家族性良性慢性性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	0	218	アルポート症候群	1
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	1	220	急速進行性糸球体腎炎	5

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	274	骨形成不全症	1
222	一次性ネフローゼ症候群	51	275	タナトフォリック骨異形成症	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	276	軟骨無形成症	2
224	紫斑病性腎炎	2	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
225	先天性腎性尿崩症	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
227	オスラー病	2	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
228	閉塞性細気管支炎	1	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
230	肺胞低換気症候群	0	283	後天性赤芽球癆	2
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
232	カーニー複合	0	285	ファンコニ貧血	0
233	ウォルフラム症候群	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	287	エプスタイン症候群	1
235	副甲状腺機能低下症	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	292	総排泄腔反症	0
240	フェニルケトン尿症	0	293	総排泄腔遺残	0
241	高チロシン血症1型	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
242	高チロシン血症2型	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
243	高チロシン血症3型	0	296	胆道閉鎖症	10
244	メープルシロップ尿症	0	297	アラジール症候群	0
245	プロピオン酸血症	0	298	遺伝性膀胱炎	0
246	メチルマロン酸血症	0	299	嚢胞性線維症	0
247	イソ吉草酸血症	0	300	IgG4関連疾患	11
248	グルコーストランスporter-1欠損症	0	301	黄斑ジストロフィー	12
249	グルタル酸血症1型	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
250	グルタル酸血症2型	0	303	アッシャー症候群	0
251	尿素サイクル異常症	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	306	好酸球性副鼻腔炎	2
254	ボルフィリン症	0	307	カナパン病	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	308	進行性白質脳症	0
256	筋型糖原病	0	309	進行性ミオクロームスてんかん	0
257	肝型糖原病	0	310	先天異常症候群	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
260	シトステロール血症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
261	タンジール病	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
263	脳腫黄色腫症	0	316	カルニチン回路異常症	0
264	無リポタンパク血症	0	317	三頭酵素欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	318	シトリン欠損症	0
266	家族性地中海熱	6	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
267	高IgD症候群	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	322	ケトチオラーゼ欠損症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
271	強直性脊椎炎	14	324	メチルグルタコン酸尿症	0
272	進行性骨化性線維異形成症	1	325	遺伝性自己炎症疾患	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	326	大理石骨病	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	7
328	前眼部形成異常	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
329	無虹彩症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
330	先天性気管狭窄症 / 先天性声門下狭窄症	0			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 後発医薬品使用体制加算3
・ 歯科外来診療環境体制加算2	・ 病棟薬剤業務実施加算1
・ 特定機能病院入院基本料	・ 病棟薬剤業務実施加算2
一般病棟 7対1入院基本料	・ データ提出加算
精神病棟 7対1入院基本料	・ 入退院支援加算2
・ 救急医療管理加算	・ 入退院支援加算3
・ 超急性期脳卒中加算	・ 認知症ケア加算
・ 診療録管理体制加算1	・ せん妄ハイリスク患者ケア加算
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 精神疾患診療体制加算
・ 急性期看護補助体制加算	・ 精神科急性期医師配置加算
・ 看護職員夜間配置加算	・ 地域医療体制確保加算
・ 療養環境加算	・ 地域歯科診療支援病院入院加算
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 特定集中治療室管理料1
・ 無菌治療室管理加算1	・ 総合周産期特定集中治療室管理料
・ 無菌治療室管理加算2	・ 小児入院医療管理料2
・ 緩和ケア診療加算	・ 小児入院医療管理料4
・ 精神科身体合併症管理加算	・
・ 精神科リエゾンチーム加算	・
・ 摂食障害入院医療管理加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊娠管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 呼吸ケアチーム加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 入院時食事療養/生活療養()	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ ウイルス疾患指導料	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ 外来栄養食事指導料の注2	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 糖尿病合併症管理料	・ 乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ がん患者指導管理料イ	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ がん患者指導管理料ロ	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ がん患者指導管理料ハ	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ がん患者指導管理料ニ	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 外来緩和ケア管理料	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)

・ 小児運動器疾患指導管理料	・ 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 腎代替療法指導管理料	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・ 院内トリアージ実施料	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 外来放射線照射診療料	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ ニコチン依存症管理料	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ がん治療連携計画策定料	・ 胸腔鏡下弁置換術
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・ 薬剤管理指導料	・ 両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・ 医療機器安全管理料1	・ 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ 医療機器安全管理料2	・ 植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術

<ul style="list-style-type: none"> 在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペースング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペースング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 両室ペースング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
<ul style="list-style-type: none"> 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 	<ul style="list-style-type: none"> 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
<ul style="list-style-type: none"> 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
<ul style="list-style-type: none"> 遺伝学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> 補助人工心臓
<ul style="list-style-type: none"> 睡眠時歯科筋電図検査 	<ul style="list-style-type: none"> 植込型補助人工心臓(非拍動流型)
<ul style="list-style-type: none"> 骨髄微小残存病変量測定 	<ul style="list-style-type: none"> 同種心移植術
<ul style="list-style-type: none"> BRC A 1 / 2 遺伝子検査 	<ul style="list-style-type: none"> 骨格筋由来細胞シート心表面移植術
<ul style="list-style-type: none"> がんゲノムプロファイリング検査 	<ul style="list-style-type: none"> 経皮的下肢動脈形成術
<ul style="list-style-type: none"> 先天性代謝異常症検査 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
<ul style="list-style-type: none"> 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
<ul style="list-style-type: none"> HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算() 	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
<ul style="list-style-type: none"> 検体検査管理加算() 	<ul style="list-style-type: none"> バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
<ul style="list-style-type: none"> 国際標準検査管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外衝撃波胆石破碎術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下胆道閉鎖症手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下肝切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 胎児心エコー法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体部分肝移植術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同種死体肝移植術
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヘッドアップティルト試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工膵臓検査、人工膵臓療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期継続頭蓋内脳波検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期脳波ビデオ同時記録検査1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳波検査判断料1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経学的検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 補聴器適合検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同種死体腎移植術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 黄斑局所網膜電図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体腎移植術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全視野精密網膜電図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膀胱水圧拡張術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内服・点滴誘発試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・ 画像診断管理加算3	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ ポジトロン断層撮影	・ 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 尿道形成手術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 陰茎形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 血流予備量比コンピューター断層撮影	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ 心臓MRI撮影加算	・ 陰茎全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 乳房MRI撮影加算	・ 精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 小児鎮静下MRI撮影加算	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ 頭部MRI撮影加算	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 全身MRI撮影加算	・ 会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 造脘術、脘閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 外来化学療法加算1	・ 腹腔鏡下仙骨脘固定術
・ 連携充実加算	・ 子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ 無菌製剤処理料	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(性同一性障害患者に対して行う場合に限る。)
・ 心大血管疾患リハビリテーション料()	・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・ 脳血管疾患等リハビリテーション料()	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 運動器リハビリテーション料()	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・ 呼吸器リハビリテーション料()	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・ がん患者リハビリテーション料	・ 子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・ リンパ浮腫複合的治療料	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 歯科口腔リハビリテーション料2	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
・ 児童思春期精神科専門管理加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
・ 精神科作業療法	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1
・ 認知療法・認知行動療法1	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・ 医療保護入院等診療料	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・ 口腔粘膜処置	・ 輸血管管理料
・ レーザー機器加算	・ コーディネート体制充実加算
・ 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・ 自己生体組織接着剤作成術
・ 導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・ 同種クリオプレシペート作製術
・ CAD/CAM冠	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科技工加算1及び2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ センチネルリンパ節加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
<ul style="list-style-type: none"> ・ 四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔管理料()
<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔管理料()
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線治療専任加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来放射線治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高エネルギー放射線治療
<ul style="list-style-type: none"> ・ 椎間板内酵素注入療法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回線量増加加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腫瘍脊椎骨全摘術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強度変調放射線治療(IMRT)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導放射線治療(IGRT)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体外照射呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像誘導密封小線源治療加算
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入手術(プレートのあるもの)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病理診断管理加算2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入手術) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル病理画像による病理診断

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画 (頭蓋顎顔面領域の骨変形、欠損若しくは骨折 又は骨盤、四肢骨若しくは脊椎の骨格に変形を 伴う疾患に係るものに限る。)	・
・ 悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネル リンパ節の同定と転移の検索	・
・ 腹腔鏡下前立腺摘除術	・
・ 膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	・
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ インプラント義歯	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査 (HDRA法又はCD - DST法)	・
・ 泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔 鏡下リンパ節郭清術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	18回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 22 例 / 剖検率 7.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
分子トレーシングを基盤としたがんと神経の細胞標的分子の創製	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	19,500,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳溝形成の個人差に着目した早産児神経発達予後予測モデルの開発	城所 博之	小児科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
レット症候群におけるマルチスケール精神病態の構成的理解	辻村 啓太	精神医学	3,900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
デスモイド型線維腫症の病態に基づく診断、新規治療開発への学際的・国際的共同研究	西田 佳弘	整形外科(リハビリテーション科)	8,450,000	補 独立行政法人日本学術振興会
精神障害の神経・グリアネットワーク病態解明:病態に基づく診断体系構築を目指して	尾崎 紀夫	精神医学	4,940,000	補 独立行政法人日本学術振興会
分散型制御による麻痺治療を実現するサイバネティクス技術開発	平田 仁	手の外科学	12,090,000	補 独立行政法人日本学術振興会
超早期ライフステージに着目した神経変性疾患の時空間特異性の解明	勝野 雅央	神経内科学	19,370,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マイオカインを標的とした運動による加齢関連疾患の制御機構の解明と創薬への応用	大内 乗有	循環器内科学(分子循環器寄附講座)	13,520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
進行期神経芽腫に対するKiRRリガンド不一致臍帯血移植における分子学的基盤の解析	高橋 義行	小児科学	3,900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
グルカゴン関連蛋白と毛細血管機能にフォーカスした糖尿病性心筋症の病態に関する研究	室原 豊明	循環器内科学	5,850,000	補 独立行政法人日本学術振興会
表皮脂質の異常による魚鱗癬発症メカニズムの解明と新規治療薬開発への展開	秋山 真志	皮膚科学	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肺移植後の慢性拒絶撲滅を目指す、自然免疫を温存した選択的免疫抑制療法の創出	芳川 豊史	呼吸器外科	5,200,000	補 独立行政法人日本学術振興会
発達期遺伝子制御の異常に基づいた運動ニューロン変性機序の解明	佐橋 健太郎	神経内科	4,940,000	補 独立行政法人日本学術振興会
グルカゴン依存性交感神経制御機構の解明と心血管病での役割－心事故予防を目指して	坂東 泰子(暮石泰子)	循環器内科	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
大動脈瘤に対する新規バイオ医薬の開発	碓氷 章彦	心臓外科学	4,160,000	補 独立行政法人日本学術振興会
敗血症性多臓器不全におけるSTAT3の遺伝子治療による創薬科学医療イノベーション	松田 直之	救急・集中治療医学	4,680,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Wnt/カテニン・ADAM10阻害による新規作用機序の変性関節症治療薬の開発	石黒 直樹	整形外科	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腹膜中皮との相互作用による卵巣がんの悪性化・腹膜播種・進展機序の解明	吉川 史隆	産婦人科学	5,460,000	補 独立行政法人日本学術振興会
可変培養環境下で合目的に調製した細胞外小胞によるカスケード的骨再生法の開発	日比 英晴	顎顔面外科学	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
On the Job Training回避のための小児内視鏡手術前訓練の研究	内田 広夫	小児外科学	6,240,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム解析に基づく抗精神病薬の開発を指向した大脳基底核回路の神経薬理学的研究	山田 清文	薬剤部	7,540,000	補 独立行政法人日本学術振興会
がん関連線維芽細胞の多様性による免疫チェックポイント阻害薬の効果予測の機序解明	安藤 雄一	化学療法部	6,110,000	補 独立行政法人日本学術振興会
悪液質に伴うサルコペニア治療の新たな標的としてのカテプシンKに関する研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	7,800,000	補 独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を活用した腎血漿流量とより正確な糸球体濾過量推算式の開発	安田 宜成	循環器・腎臓・糖尿病(CKD)先進医療	9,750,000	補 独立行政法人日本学術振興会
孤発性ALSにおける凝集型TDP-43の生体内伝播メカニズムの解明	井口 洋平	脳神経内科	7,540,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心臓の硬化を制御するG蛋白質共役受容体の機能解明と心不全治療薬シーズの探索	竹藤 幹人	循環器内科学	7,540,000	補 独立行政法人日本学術振興会
悪性中皮腫におけるオキシトシン受容体を標的とした新規治療法の開発	田中 一大	呼吸器内科	6,630,000	補 独立行政法人日本学術振興会
CHRN2を標的とした革新的がん抗体医薬とコンパニオン診断技術の創出研究	神田 光郎	消化器外科学	3,900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
癌細胞の早期転移とdormancyに関する機序解明とその治療法の検討	山口 淳平	消化器外科一	7,150,000	補 独立行政法人日本学術振興会
神経膠腫における腫瘍進化的トラジェクションの解明と次世代個別化医療の探索	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	7,540,000	補 独立行政法人日本学術振興会
アディポベリトクストークに基づく卵巣癌腹膜進展に関する学際的研究基盤の創成	梶山 広明	産婦人科学	6,630,000	補 独立行政法人日本学術振興会
致死性血栓症の克服を目指した補体3型受容体の機能解明	長野 文彦	腎臓内科	900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性熱帯皮膚病におけるマイクロバイオーム解析	村瀬 千晶	皮膚科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
中枢神経系におけるTwintin-1の機能解明	中井 剛	薬剤部	480,000	補 独立行政法人日本学術振興会
IoTを活用した手指衛生モニタリング	山下 佳子	メディカルITセンター	480,000	補 独立行政法人日本学術振興会
双極性障害の運転適性を判断する臨床指標の探索	岩本 邦弘	精神医学	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
SNRIの疼痛緩和メカニズム探索に関する基礎および臨床の連携研究	木村 宏之	精神医学	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
小児肝移植後持続性高EBウイルス血症の病態及びグラフト肝における線維化機序の解明	亀井 秀弥	移植外科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
スコットランドと日本における糖尿病、認知症とソーシャルキャピタルとの関連性	末松 三奈	地域医療教育学寄附講座	130,000	補 独立行政法人日本学術振興会
MECP2を起点とした精神神経疾患の共通分子病態の解明	辻村 啓太	精神医学	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
中性脂質蓄積制御からの脂肪肝/脂肪肝炎の予防治療薬の開拓	大城 太一	消化器内科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ALS/FTLDおよびタウオパチーに共通する病態基盤の解明	石垣 診祐	新学術領域	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
高齢者がん治療におけるQOL情報の有用性に関する研究	安藤 昌彦	先端医療開発部	390,000	補 独立行政法人日本学術振興会
球脊髄性筋萎縮症に対するリュープリロレリン酢酸塩長期投与時の有効性評価	橋詰 淳	脳神経内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳血管奇形に対するフレイムレス光子線高精度照射法の精度向上と低侵襲化の検討	大宝 和博	量子医学(量子介入治療学)	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた若年性骨髄単球性白血病のメチル化解析法の開発	村松 秀城	小児科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
急性肝不全モデル動物におけるMCP-1, sSiglec9の有用性	石上 雅敏	消化器内科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
好塩基球の慢性気道炎症難治化因子およびバイオマーカーとしての可能性	若原 恵子	呼吸器内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腹膜組織解析による腹膜硬化症から被覆性腹膜硬化症への進展機序とリスク因子の検討	鈴木 康弘	腎不全システム治療学寄附講座	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腹膜透析による補体系への影響と、腹膜傷害進展への機序の解明及びその制御	水野 正司	腎不全システム治療学寄附講座	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性腎臓病における2つのフルクトース代謝酵素の役割の解明とその治療応用	石本 卓嗣	腎臓内科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
日本の一性膜性腎症における責任抗原ごとの病態理解と新規診断法の確立	秋山 真一	腎臓内科学(特任研究プロジェクト)	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
移植前にGVHD関連T細胞を推定するヒト急性GVHDにおけるT細胞応答の解析	村田 誠	血液・腫瘍内科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
T細胞レセプター遺伝子導入T細胞における細胞内シグナルの増強	寺倉 精太郎	血液内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳神経内分泌腫瘍自然発生マウスモデルを用いた腫瘍免疫療法の研究開発	菊森 豊根	乳腺・内分泌外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
局所切除可能な十二指腸乳頭部癌の新規診断方法の開発	川嶋 啓揮	消化器内科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肝切除のためのリアルタイムナビゲーションシステムの開発	伊神 剛	消化器外科一	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
深紫外線による新規癌治療法の開発	宮田 一志	消化器外科一	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Trefoil Factorを軸としたBarrett食道発癌機序の解明	深谷 昌秀	消化器外科一	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Xa阻害剤をターゲットとした新しい血管病治療の探索研究	坂野 比呂志	血管外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
補体活性化制御によるSTEC-HUSの治療を目指した基盤研究	尾崎 将之	救急科(救急・内科系集中治療部)	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
バスウェイ異常の同定によるもやもや病発症メカニズムの解明	荒木 芳生	脳神経外科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規自己集合体ペプチドゲルを足場とした骨再生	安藤 圭	整形外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
R-spondin2を通じた変形性関節症の分子機構の解明とその治療薬の応用開発	竹上 靖彦	整形外科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
高齢者運動器疾患の全身網羅的長期縦断解析と健康寿命延伸のための介入プログラム策定	今釜 史郎	整形外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
炎症性サイトカインからみた内耳性難聴の病態解明と個別化医療への応用	寺西 正明	耳鼻咽喉科学	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
網膜疾患関連遺伝子の機能解析のための新規CRISPR-Cas9ベクターの開発	藤田 幸輔	眼科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
メカトランスダクションと幹細胞体内移動メカニズムを応用した組織再生法の開発	藤尾 正人	顎顔面外科学	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経損傷後の加齢に伴う機能回復阻害因子を克服する薬理学的アプローチ	栗本 秀	手の外科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
超音波内視鏡下エラストグラフィによる組織硬度測定による肺癌の臨床病理学的病態解析	大野 栄三郎	消化器内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
異常タンパク分解系を標的とした運動ニューロン疾患治療薬の開発	藤内 玄規	脳神経内科(祖父江研)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
がん薬物療法における抗がん薬曝露に対する科学的エビデンスの創出	満間 綾子	化学療法部(がんプロ)	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
リーリン欠失統合失調症患者モデルマウスを用いた発症メカニズムの解明	森 大輔	脳とこころの研究センター	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
呼吸器悪性腫瘍における血管新生阻害治療の低侵襲な効果予測法を確立をめざす研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
頭部MRIによる多系統萎縮症の進展様式の解明	原 一洋	脳神経内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
候補遺伝子アプローチによる筋萎縮性側索硬化症病態関連遺伝子の探索	中村 亮一	脳神経内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
染色体22q11.2欠失がもたらす脳内ストレス脆弱性機構の解明	有岡 祐子	先端医療開発部	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
疾患コホートを用いた22q11.2欠失症候群の表現型の追跡とゲノムバリエーション探索	小川 しおり	精神科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
深層学習・人工知能技術を用いた音声認識システムによるうつ病重症度推定機器の開発	稲田 俊也	精神医学	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
超高精細形態画像と機能画像の統合解析による早期肺癌の次世代予後予測モデルの確立	岩野 信吾	量子医学	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
"再生"を用いた新生児/小児肺高血圧症に対する新規治療法の開発	齊藤 明子	小児科(総合周産期(新生児))	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
神経芽腫に対するGD2を標的とした新規キメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞療法の実験	西尾 信博	先端医療開発部	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マウスモデルを用いた再生不良性貧血の新規遺伝子機能解析	成田 敦	小児科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンスによる包括的な重症感染症リキッドバイオシー	伊藤 嘉規	小児科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
家族性WPW症候群における全エクソーム解析による原因遺伝子の探索	深澤 佳絵	小児科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧症候群に起因するSGAの慢性肺疾患の重症化機序解明と新規治療法開発	早川 昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
医療経済からみた経カテーテル大動脈弁置換術の適応限界の検証	徳田 順之	心臓外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAと脂肪幹細胞由来エクソソームを用いた、敗血症性AKI治療の実験	加藤 規利	腎臓内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病患者における腸内細菌叢の変化とその改善による新規治療戦略の実験	加藤 佐和子	腎臓内科学(特任研究プロジェクト)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
AKIにおける、CCR7を介したC5a経路制御機構の解明	小島 博	腎不全システム治療学寄附講座	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞治療における現在の課題点を解決する新たな細胞治療用カラムの開発	古橋 和拓	腎臓内科(血液浄化部)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性腎疾患におけるCaMK4を介した新規ボドサイト特異的治療法の実験	前田 佳哉輔	腎臓内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
急性骨髄性白血病における変異型セリンプロテアーゼの高発現とその生物学的意義の解明	石川 裕一	血液・腫瘍内科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍とその二次性白血病におけるinitiating変異の同定と機能解析	牛島 洋子	血液内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
抗PD-1抗体誘発甲状腺炎マウスモデルを用いた免疫関連有害事象の発症機序の解明	岩間 信太郎	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脂肪幹細胞を用いた術後肝障害に対する新規予防治療法の実験	尾上 俊介	消化器外科一	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
食道癌に対する新たな抗体薬とコンパニオン診断技術の開発研究	小池 聖彦	消化器外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Trefoil Factorと肝がんの関連および肝癌新規治療法開発に関する研究	江畑 智希	腫瘍外科学	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
血中循環腫瘍細胞の生着および非対称分裂・自己組織化に対する癌転移抑制法の実験	相場 利貞	消化器外科一	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Invisible肺癌に対する新規診断治療法の実験	渡辺 伸元	腫瘍外科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肺癌EMTに関するtumor-educated plateletsの応用可能性	服部 憲史	消化器外科二	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腫瘍由来エクソソームによる肺癌マルチオミクス・プロファイリングの挑戦と臨床応用	山田 豪	消化器外科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
補助人工心臓ドライライン感染制御等のための抗菌ポリマーを用いた部材の開発	寺澤 幸枝	心臓外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
クラリスロマイシンとモンテルカストによる大動脈瘤治療と閉塞性肺疾患との逆説説明	成田 裕司	心臓外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳死関連肺障害の病態解明と予防・治療法の開発ー特にNPYとVEGFと関連して	西脇 公俊	麻酔・蘇生医学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
吸入麻酔薬後のケモカインCXCL12-CXCR4発現不均衡と血管新生	平井 昂宏	麻酔科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Xenopus由来因子のエピゲノム制御による神経系細胞の系譜転換と神経再生	西村 由介	脳神経外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
スーパーエンハンサー形成が誘導する悪性脳腫瘍の異常クロマチンリモデリングの解明	大岡 史治	脳神経外科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Augmented Reality(AR)を用いた次世代型関節鏡システムの開発	山本 美知郎	手の外科学	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによるベルテス病の新規治療法の開発	三島 健一	整形外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
FGFR3インヒター-の局所投与による骨伸長促進効果の検討	長田 侃	整形外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
代謝リプログラミング制御による軟骨破壊抑制ー新規関節リウマチ治療を目指してー	小嶋 俊久	整形外科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒアルロン酸レセプターCD44の断片化阻害による、軟骨細胞の脱分化抑制効果	高橋 伸典	整形外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規軟骨無形成症治療薬開発研究	松下 雅樹	整形外科(障害児(者)寄附講座)	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳機能解析を応用した疼痛評価システムの開発	岩月 克之	手の外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性再発卵巣腫瘍を標的とした改変型腫瘍溶解性ウイルスの開発	那波 明宏	産婦人科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチン関連因子の網膜機能・形態に及ぼす影響についての検討	上野 真治	眼科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
原因不明のシリコンオイル関連視力低下(SORVL)は完全に予防できるのか？	兼子 裕規	眼科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
大気圧プラズマのケロイド・肥厚性癬痕に与える影響に関する基礎的研究	亀井 謙	形成外科学	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒト毛包原基大量培養法を用いた毛髪再生医療実現化に関する基礎的研究	蛭沢 克己	形成外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
エクソソームによる放射線性顎骨壊死の治療法開発と機序解明	岡部 一登	歯科口腔外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌に対する免疫チェックポイント阻害薬を用いた免疫温熱療法	山本 憲幸	歯科口腔外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
急性期病院におけるフレイルおよび高齢者の総合的アセスメントに関する研究	大西 丈二	老年内科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
「博物館」で施行する手術教育	藤原 道隆	クリニカルシミュレーションセンター	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
分子シミュレーション解析と数理モデルによる肺がん分子標的薬の薬効予測の研究	菅野 亜紀	メディカルITセンター	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
外来診療における慢性疼痛とオラリティ	大山 慎太郎	メディカルITセンター	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患における新規粘膜関連細菌叢検出法を用いた腸粘膜炎症プロファイルの作成	中村 正直	消化器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
免疫介在性ニューロパチーの疾患活動性を反映する新規バイオマーカーの開発	飯島 正博	神経内科学	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
非全身性血管炎性ニューロパチーの病態解明と新規治療法の開発	小池 春樹	神経内科学	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
神経性やせ症AN・回避制限型食物摂取症ARFIDの病態解明と新規治療法の開発	田中 聡	精神科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
産後に抑うつ状態を呈する要介入者を選定するツールの開発	中村 由嘉子	精神医学	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法における中性子ビーム強度変調システムの開発	加茂前 健	放射線科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肺高血圧症の閉塞性病変における平滑筋細胞形質変換のプロテオームによる網羅的解析	加藤 太一	小児科学	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
先進的MRI解析によるDuchenne型筋ジストロフィーの脳構造・機能異常の解明	夏目 淳	小児科学(障害児(者)寄附講座)	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳波・近赤外分光法同時記録を用いたサブプレート・ニューロンの脳血流動態の解明	城所 博之	小児科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
消化器がん化学療法における新規バイオマーカーとしてのDNAメチル化の探索的研究	前田 修	化学療法部(がんプロがん薬物療法学)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
HBs抗原陰性化に関わるB型肝炎ウイルス変異と腸内細菌叢が及ぼす免疫応答の解明	本多 隆	消化器内科学	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた血管新生療法の分子基盤探索	柴田 玲	循環器内科学(先進循環器寄附講座)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
重症呼吸器感染症の免疫動態解明とIL-7を含めた新規免疫療法ストラテジーの構築	進藤 有一郎	呼吸器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
特異的な間葉系幹細胞マーカーMeflinを介した腎線維化の機序解明と治療法の開発	齋藤 尚二	腎臓内科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
高温環境によるCKD発症の病態解明と細胞老化制御を介した治療標的の探索	佐藤 由香	腎臓内科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性腎・肝疾患に対する新規治療標的としてのBsgの有用性	小杉 智規	腎臓内科学	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
自己炎症性角化症におけるプレジジョンメディシンの開発	武市 拓也	皮膚科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
皮膚筋炎におけるRNA編集酵素ADAR1の自己免疫応答ともたらす病態	室 慶直	皮膚科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
血管増殖におけるVWF-HBDの同定と抑制型VEGFアイソフォームとの相互作用	松下 正	輸血部	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
TKI時代のPh+ALLにおける多角的予後因子分析	西脇 聡史	先端医療開発部	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
悪性リンパ腫の多様性から解く臓器指向性の解明と新規治療への応用	島田 和之	血液内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒトES細胞・iPS細胞を用いた視床下部神経幹細胞の創出	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
縫合不全と術後癒着防止のための自己支持性高分子超薄膜(ナノシート)の開発	横田 一樹	小児外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
亜鉛をターゲットとした閉塞性動脈硬化症に対する新しい治療戦略	古森 公浩	血管外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
生体吸収性・良操作性・骨再生能を持つ多機能骨髄止血材の開発	伊藤 英樹	心臓外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心筋梗塞後急性炎症に対する炎症制御因子介入による心筋サルベージ療法	藤本 和朗	心臓外科(重症心不全治療センター)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
認知予備力とミトコンドリア機能の脆弱性との関連を探索	三澤 知子	麻酔科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
外因性hyaluronanの軟骨細胞における役割の解明	横田 裕	整形外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
骨延長マウスモデルにおけるメロジンのFGFR3抑制効果の検討	神谷 庸成	整形外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
術中脊髄モニタリング波形解析による術後麻痺予防に向けた新たなアラームポイント策定	小林 和克	整形外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
排尿筋低活動に対する人工知能を用いた診断法の開発と非侵襲的バイオマーカーの探索	松川 宜久	泌尿器科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
顆粒膜細胞障害に着目した子宮内膜症における卵胞発育障害の解明	中村 智子	産科婦人科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
治療抵抗性絨毛癌に対する全ゲノム解析に基づいた複合的がん免疫治療の確立	新美 薫	産科婦人科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
医療技能のデジタル化で実現する卵巣腫瘍の革新的診断システムの開発	池田 芳紀	産科婦人科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
エピゲノム編集による抹消血を用いた網膜色素変性病遺伝子の発現解析法の開発	西口 康二	眼科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
深層学習を利用した血流波形解析による微小血管吻合部の開存度の判別システムの開発	中村 優	形成外科	2,990,000	補 独立行政法人日本学術振興会
人工内耳両側装用者における聴覚処理プロセスの解明	吉田 忠雄	耳鼻いんこう科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
リプロダクティブヘルスケア/ライツ啓発を組み入れた新規早発卵巣不全予測法の検証	後藤 真紀	産婦人科学	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脂質網羅的解析による睡眠障害のメタボロミクスへの影響の検討	宮田 聖子	精神医学	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
家庭用の自動血圧計に実装する動脈硬化早期診断装置の開発	宮城 英毅	メディカルITセンター	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
膀胱癌に対する超音波内視鏡検査の診断能向上を目的とした人工知能の臨床応用	石川 卓哉	消化器内科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒトES細胞・iPS細胞を用いた視床下部神経幹細胞の創出	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
多層的解析による精神疾患の脳・心臓病態解明: Diseaseomeの具現化へ	尾崎 紀夫	精神医学	11,180,000	補 独立行政法人日本学術振興会
血液脳関門透過性の再定義に向けて	長縄 慎二	量子医学	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
蛋白尿可視化透明モデル動物による特異性巣状分節性糸球体硬化症の液性病因の解明	丸山 彰一	腎臓内科学	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マルチオミクス解析による胃癌周術期化学療法の奏効度予測バイオマーカーの探索的研究	小寺 泰弘	消化器外科学	3,380,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規生分解性Mg気管内ステントの開発	内田 広夫	小児外科学	3,640,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
オルガノイドを用いた慢性呼吸不全に対する革新的治療法の開発	芳川 豊史	呼吸器外科	3,250,000	補 独立行政法人日本学術振興会
老化制御因子としての間葉系幹細胞ならびにそのexosomesに関する研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	3,900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
線維芽細胞特異的造形マイクロCTによる肺線維症の免疫病理学診断人工知能開発研究	橋本 直純	呼吸器内科	4,940,000	補 独立行政法人日本学術振興会
高機能性人工核酸を用いたアンチセンス核酸医薬による革新的消化器系癌創薬研究	神田 光郎	消化器外科学	3,250,000	補 独立行政法人日本学術振興会
抗菌性ポリマーを利用した感染制御性人工血管の開発	碓氷 章彦	心臓外科学	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
超音波併用脳内局所広範囲薬剤投与法を用いた画期的なアルツハイマー病新規治療法開発	齋藤 竜太	脳神経外科学	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
運動による健康増進に関わる分泌型microRNAの同定と病態生理機能の解明	大内 乗有	循環器内科学(分子循環器寄附講座)	3,250,000	補 独立行政法人日本学術振興会
小児漢方医学の歴史的経緯と現代小児科学への応用	川島 希	小児科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症多発家系の大规模エクソーム解析に基づく疾患脆弱性因子の同定	木村 大樹	精神医学(精神医療学寄附講座)	1,283,633	補 独立行政法人日本学術振興会
ANCA関連血管炎の病態評価に寄与する臨床検査法開発研究	菊地 良介	検査部	390,000	補 独立行政法人日本学術振興会
フレイルおよびサルコペニア予防のための骨格筋リモデリングと再生機構解明	井上 愛子	老年内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
老化関連長鎖ノンコーディングRNAの制御による肺線維症難治性の克服	阪本 考司	呼吸器内科	520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
プロトロンピン変異体による血友病治療の可能性	鈴木 伸明	輸血部(検査部)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
レプチンシグナルを介する新たなメカニズムを持つインスリン依存性糖尿病治療薬の開発	伊藤 禎浩	循環器・腎臓・糖尿病(CKD)先進医療	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
M1マクロファージからM2マクロファージへの形質転換を介した大動脈瘤治療の試み	緒方 藍歌	心臓外科学(特任研究プロジェクト)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
クラリスロマイシンの多面的効果による、大動脈解離の分子病態を正を介した治療研究	内田 亘	心臓外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
鎮痛・抗炎症薬「コルヒチン」を用いた大動脈瘤治療の基礎的検討	宗像 寿祥	心臓外科(重症心不全治療センター)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻と下垂体ホルモンとの因果関係に関する研究	西堀 正洋	脳神経外科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒアルロン酸による腱由来間葉系幹細胞の分化制御の解明と腱変性予防への応用	浅井 秀司	先端医療開発部(整形外科)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
健診システムを利用した疾患特異的cohort作成による手指変形性関節症の病態解明	中川 泰伸	手の外科(救急診療等運営本部)	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規標的蛋白LAMP-2による絨毛癌転移機構の解明	西野 公博	産科婦人科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒト体内分子状水素濃度が妊娠に与える影響に関する研究	今井 健史	産科婦人科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
分子状水素の母胎投与による早産児の後遺症低減への取り組み	中野 知子	産科婦人科	520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
小児網膜疾患における網膜形態異常に対する多角的解析	野々部 典枝	眼科(総合周産期母子医療センター)	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性における病的新生血管の成熟と血管安定化の病態の統合的解析	片岡 恵子	眼科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マクロファージ由来のエクソソームを用いた末梢神経再生研究	内堀 貴文	形成外科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
精神疾患に関わる環境要因による脳内機能形態変化のメカニズムと意義の解明	肥田 裕丈	薬剤部	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
非結核性抗酸菌に対する等温増幅法を用いたクラリスロマイシン耐性遺伝子検出法の開発	稲垣 孝行	薬剤部	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
細胞外マトリックス制御による悪性末梢神経鞘腫瘍に対する新規治療	生田 国大	整形外科(ゲノム医療センター)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
乳癌におけるYAP1の機能解明と、「YAP1阻害」による新たな治療法の開発	柴田 雅央	乳腺・内分泌外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
乳がん術後薬物療法の治療意思決定に関わるプロセス	高野 悠子	化学療法部	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
cfDNAを用いた大腸癌特異的メチル化マーカーによる大腸癌存在診断法の開発	清水 大	消化器外科二	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
凝固波形解析による血中フィブリノゲン解析を応用した新規出血リスク評価法の開発	鈴木 敦夫	検査部	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
安静時fMRIの脳内神経回路解析を用いたパーキンソン病の認知症発症リスクの解明	川畑 和也	脳神経内科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
臨床情報・ゲノム情報を活用した統合失調症神経ネットワーク形成障害の神経病理解析	鳥居 洋太	精神科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
球脊髄性筋萎縮症におけるイオンチャンネルを標的とした病態解明と革新的治療法の開発	山田 晋一郎	脳神経内科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
重度の低体重を示す神経性やせ症患者における二次性カルニチン欠乏の検討	今枝 美穂	精神科(化学療法部)	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
口腔領域の身体症状(疼痛が主症状)における治療反応性予測因子を同定する	徳倉 達也	精神科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
生体肝移植における過小グラフト症候群と門脈壁剪断応力:4DFlowとCFD解析	兵藤 良太	放射線科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Deep learningを用いたFLAIR画像の合成・新手法と従来法との比較	阿部 考志	放射線科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
血管透過性亢進抑制に着目した新生児急性肺炎患に対する新規治療法の開発	三浦 良介	総合周産期母子医療センター(新生児)	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
家族性先天性心疾患家系における全エクソーム解析による原因遺伝子の探索	山本 英範	小児科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
膵癌間質の多様性制御に基づく新規治療法の開発	水谷 泰之	消化器内科(救急診療等運営本部)	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
歯髄幹細胞産生因子による腸肝臓器相関に着目した新規NASH治療法の開発	伊藤 隆徳	消化器内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
PARD6Bを介した新たな防御機構の解明と炎症性腸疾患への治療応用	前田 啓子	消化器内科(光学医療診療部)	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性心臓病を標的とした新規リンパ管新生療法の開発研究	清水 優樹	循環器内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
酸素応答と核内受容体を介した生後心筋分化のメカニズムの解明	藤川 裕介	循環器内科(卒キヤリ)	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新しいヒスチンベースメカニクスの長期予後と刺激伝導系の解明を目指した多施設共同研究	柳澤 哲	循環器内科学(先進循環器寄附講座)	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
動脈硬化進展に伴う大動脈瘤発症のメカニズム並びに効果的な内科治療戦略の探索	田中 哲人	循環器内科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心筋疾患におけるマイオカインの病態生理学的意義解明と治療応用のための基盤研究	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
びまん性肺炎患の診断と予後予測における機械学習アルゴリズム構築に関する研究	古川 大記	メディカルITセンター	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
AgRPニューロンにおけるプロテインフォスファターゼ1Bの作用解析	杉山 摩利子	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
膵癌治療標的になり得るaxon guidance geneの機能解明への試み	田中 伸孟	消化器外科二	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規創薬に向けたN6-メチルアデノシリン修飾の肝細胞癌における意義の解明	園原 史訓	消化器外科二	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
膵癌進展を反映する尿中メチル化セルフリーDNAの臨床応用	砂川 祐輝	消化器外科二	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
開心術後癒着に対する心膜再生型癒着防止シートの開発	芦田 真一	心臓外科(重症心不全治療センター)	260,000	補 独立行政法人日本学術振興会
抗炎症性M2マクロファージ誘導による心筋梗塞後リモデリング進展抑制	西 俊彦	心臓外科	455,000	補 独立行政法人日本学術振興会
分子状水素水を用いた間質性肺炎に対する新たな治療法の開発	尾関 直樹	呼吸器外科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
仮想胸腔鏡のみによる呼吸器外科手術の実現	中村 彰太	呼吸器外科	520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
術後せん妄発症患者の神経伝達異常の解析-術後せん妄病態生理の解明に向けて-	前田 翔	麻酔科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
セボフルランと原がん遺伝子KRASの関わり	小西 裕子	麻酔・蘇生医学(周術期寄附講座)	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
受容体型チロシンキナーゼALKの神経軸索再生に対する機序解明	町野 正明	整形外科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
変形性関節症の新しい治療 - OAモデルのCD44断片化とADAM10に注目して -	鈴木 望人	整形外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧腎症妊婦から出生した児におけるDOHaD仮説の検証と早期介入への戦略	牛田 貴文	産科婦人科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
卵胞発育を自在に制御し卵巣組織培養と卵巣保護に応用する研究	邨瀬 智彦	産科婦人科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
p53変異卵巣癌の細胞外小胞を介した腹膜播種進展の病態解明と新規治療戦略	芳川 修久	産科婦人科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
320列ADCTを用いた下咽頭癌術後嚥下機能障害の解析	丸尾 貴志	耳鼻いんこう科	520,000	補 独立行政法人日本学術振興会
低酸素環境で刺激された幹細胞由来エクソソームを用いた新たな骨再生	坂口 晃平	歯科口腔外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞由来エクソソームによる新規唾腺組織再生法の開発	酒井 陽	顎顔面外科学	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
医師の服装が患者の受け取る共感に及ぼす効果に関する量的・質的研究	松久 貴晴	総合診療科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
塩分過剰摂取が高脂肪食による肥満症発症を助長する機序の解明	高木 博史	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
メガネ型ウェアラブル端末を用いた気管支鏡検査支援	岡地 祥太郎	呼吸器内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
焦点調節画像を用いた新規大腸腫瘍診断の解析と治療への応用	山村 健史	消化器内科(光学医療診療部)	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
DDS型光吸収超分子を用いた光温熱治療による難治性小児肺がん治療	牧田 智	小児外科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
直腸癌の免疫微小環境に与える術前化学療法の影響と新規治療レジメンの開発	小倉 淳司	消化器外科一	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
発生母地あるいはその周辺組織の硬度がデスマイド型線維腫症の病態に与える影響の検証	酒井 智久	整形外科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
尿中マルチ腫瘍マーカーを用いた胆道がんの早期発見	狩野 陽子	小児外科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
強力な免疫チェックポイント分子阻害能を有する新たな腫瘍溶解性ウイルスの開発	向山 宣昭	耳鼻いんこう科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
RNA結合蛋白質FUSのmRNA過結合を介した筋萎縮性側索硬化症の病態解明	横井 聡	脳神経内科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
慢性ストレス性高血圧発症機序解明: PAI-1を介した調節性T細胞の役割に関して	朴 麗梅	地域在宅医療学・老年科学	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Investigating roles of exosome microRNAs related to interactions between oligodendrocyte and neuron for ALS pathogenesis	李 佳益	神経内科学	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
副交感神経障害の検出によるパーキンソン病診断マーカーの確立	鈴木 将史	脳神経内科	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
併存する不安症を起点とした自閉スペクトラム症の新たな病態解明	石塚 佳奈子	親と子どもの心療科	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
強T2強調3D-FLAIR画像を用いた髄膜リンパ管の評価および神経疾患の病態解明	中道 玲瑛	放射線科	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
悪性神経膠腫放射線治療における高精度/高再現性標的体積決定法の開発	高瀬 裕樹	放射線科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳磁場計測による小児急性脳炎脳症後の脳神経ネットワークの解明	山本 啓之	小児科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
遺伝性骨髄不全症候群の新規原因遺伝子探求を目的とした網羅的遺伝子解析	濱田 太立	小児科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞を用いた小腸再生を標的とした新生児壊死性腸炎の治療法の開発	谷口 顕信	小児科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
神経細胞のイオンホメオスタシスに着目した新生児慢性肺疾患に伴う神経障害の病態解明	村松 友佳子	小児科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳性麻痺に対する遠隔期に行う幹細胞療法の開発	棚橋 義浩	総合周産期母子医療センター(新生児)	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腸管分泌型IgA抗体に着目したirAE腸炎発症原因を探索する研究	澤田 つな騎	消化器内科(光学医療診療部)	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
慢性血栓性肺高血圧症の治療目標設定のための重症度スケールの開発研究	足立 史郎	循環器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬関連心筋障害の治療法開発を目指した前向き臨床研究	古澤 健司	循環器内科(検査部)	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ジストロフィン異常に伴う成人期の拡張型心筋症の病態・治療法の解明	近藤 徹	循環器内科	2,340,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肺細胞脈内皮細胞に着目した肺高血圧症に対する新規治療戦略の開発を目指した病態解明	加藤 勝洋	循環器内科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Numb-EphB3/4分子間相互作用を標的とした肺線維化シグナル伝達機構の解明	松井 利憲	呼吸器内科(リニカルシミュレーションセンター)	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
MIA症候群を克服する透析法・長時間透析療法の予後改善効果の解明	今泉 貴広	先端医療開発部	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
KID症候群魚鱗癬病変に対するsiRNAを用いた新規治療戦略の開拓	滝 奉樹	皮膚科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
遺伝性角化異常症における新規細菌叢特異的治療開発への戦略	村瀬 千晶	皮膚科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
常染色体劣性先天性魚鱗癬における表皮脂質異常と分化異常のメカニズムの解明	棚橋 華奈	皮膚科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
成人T細胞白血病に対する複数抗原を標的とした新規T細胞療法の開発基盤	葉名尻 良	血液内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腹腔洗浄液中分子マーカー分析による胃癌腹膜播種再発予測法と化学療法効果判定法開発	稲垣 公太	消化器外科二(救急診療等運営本部)	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
膀胱集学的治療のモニタリングに有用なリビドームマーカーの探索	中川 暢彦	消化器外科二	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
肺原発浸潤性粘液腺癌の免疫学的微小環境の解析とネオアンチゲン探索	仲西 慶太	呼吸器外科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
微量DNA捕捉ナノワイヤと迅速SNP検出装置を用いた脳腫瘍リキッドバイオプシー	栗本 路弘	脳神経外科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
髄膜腫の局在と硬膜の発生学的背景に基づいた腫瘍進展機構と間葉系幹細胞の果たす役割	棚橋 邦明	脳神経外科	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脳室上衣繊毛ダイニン異常による非閉塞性水頭症の発症、増悪機序の分子学的解明	竹内 和人	脳神経外科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
IDH変異神経膠腫における多様なサブクローンからの治療抵抗性の識別と進化系統	青木 恒介	脳神経外科学	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
もやもや病の病変部血管の遺伝子発現解析	横山 欣也	脳神経外科	2,470,000	補 独立行政法人日本学術振興会
脊髄腫瘍の手術戦略決定に有用な術前、術中H3F3A遺伝子プロファイリング	永島 吉孝	脳神経外科	2,080,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性麻痺克服を目指した再生医療と埋込型神経刺激デバイスによる運動機能再建	徳武 克浩	手の外科(救急診療等運営本部)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Rspo2を用いた新たな骨再生治療	中島 宏彰	整形外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規ヒアルロニダーゼKIAA1199活性阻害を標的とした早期変形性関節症薬剤開発	小池 宏	整形外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
軟骨細胞における代謝リプログラミングのメカニズムと役割の解明	寺部 健哉	整形外科(救急診療等運営本部)	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
細胞分裂期キナーゼ阻害との合成致死性に基づいた新しい卵巣癌治療法の開発	玉内 学志	産科婦人科(卒キヤリ)	2,210,000	補 独立行政法人日本学術振興会
臓器連関に着目した多嚢胞性卵巣症候群の病態解析と新規治療法の開発	大須賀 智子	産科婦人科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Streptozotocinが有する聴覚障害・前庭障害の横断的な検討	杉本 賢文	耳鼻いんこう科	1,170,000	補 独立行政法人日本学術振興会
オステオカルシンの抗動脈硬化作用に関する研究	近藤 皓彦	歯科口腔外科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞が分泌するエクソソームを用いた誤嚥性肺炎の治療法の開発	椛村 有紀子	歯科口腔外科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
歯髄幹細胞由来因子と半導体レーザーを用いた皮弁再建後の治癒促進法の開発	山口 聡	歯科口腔外科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
患者レジストリにおける統計学的データエラー管理手法の構築	木下 文恵	先端医療開発部	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
地域の大規模疫学データが抗菌薬適正使用に与える影響の評価	森岡 悠	臨床感染制御学(中央感染制御部)	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
化学療法治療を有する小児血液がん患者に対する運動・認知同時課題の認知機能への影響	森 友洋	リハビリ部門	2,600,000	補 独立行政法人日本学術振興会
母親の精神的健康と児の発達や行動の関係、及びこれらに影響する心理社会的要因の検討	森川 真子	精神医学(障害児(者)寄附講座)	390,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新たな高伸張性・生分解性ポリマーを用いた軟部組織再建用医療材料の開発	村山 敦彦	リハビリテーション科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
免疫チェックポイント分子に注目した劇症型心筋炎治療法の開発	平岩 宏章	救急科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
難治性卵巣癌の微小環境が誘導する抗癌剤ホルミスとその克服へ向けての新展開	玉内 学志	産科婦人科(卒キヤリ)	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
好中球エラスターゼを標的とした再発難治性急性白血病の病態解明と新規治療開発	川島 直実	血液内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来免疫制御細胞を用いた、難治性腎疾患に対する新規治療法の開発	田中 章仁	腎臓内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
GPR34を介する疼痛発症メカニズムの多様性の解明	佐世 暁	歯科口腔外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ビタミンDの供給経路による運動機能への影響の検討ー地域住民コホート研究ー	牧田 和也	整形外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
悪性脳腫瘍のエピゲノム異常が誘導するネオアンチゲンを標的とした新規治療戦略の開発	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	4,160,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Muse細胞を用いた周産期脳障害の新規治療法開発～探索的臨床試験(医師主導試験)～	佐藤 義朗	小児科(総合周産期(新生児))	70,240,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
胃癌腹膜播種に特化したアンチセンス核酸医薬開発	神田 光郎	消化器外科学	13,000,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多施設共同研究におけるがん患者に対する適切なQOL評価法確立のための研究	安藤 昌彦	先端医療開発部	800,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
細胞外微粒子による疾患の発症メカニズムと治療法の開発	橋本 直純	呼吸器内科	13,910,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
近赤外光線免疫療法の作用機序の解明	佐藤 和秀	呼吸器内科	6,760,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
細胞外微粒子への生体応答と発がん・動脈硬化症との関連の解析(豊國:分担)	室原 豊明	循環器内科学	20,670,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+nab-パクリタキセル+ニテダニブ療法とカルボプラチン+nab-パクリタキセル療法のランダム化第III相試験(J-SONIC)	安藤 昌彦	先端医療開発部	520,000	委 特定非営利活動法人西日本がん研究機構
高齢者の認知機能低下に配慮した至適血圧域の解明:老年期にある健常者と軽度認知機能低下患者を対象とした、認知機能保持しないその改善を最終目的とした、適切な血圧管理法に関する研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
高齢者における新興・再興感染症、インフルエンザ等に関する研究	八木 哲也	臨床感染統御学	900,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
オレンジレジストリを活用した認知症予防とケアに関する研究	梅垣 宏行	地域在宅医療学・老年科学	600,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点	杉下 明隆	先端医療開発部	4,000,100	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	600,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
プレゼンティズムを予防し地域の看護師が持続して働きやすい環境づくりをIoTで実現する	白鳥 義宗	メディカルITセンター	3,198,000	委 総務省東海総合通信局
高齢者のサルコペニアに伴う固有感覚機能低下の定量的評価と治療法の開発	今釜 史郎	整形外科学	1,500,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
関節リウマチ患者および地域在住高齢者におけるロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアと心理社会的要因に関する疫学調査	小嶋 俊久	整形外科学	300,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者における下部尿路機能障害に対するガイドラインの作成に関する研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	1,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ソニサミドによるレビー小体型認知症におけるBPSD軽減効果の検証	勝野 雅央	神経内科学	700,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病におけるpreclinical/prodromal期を含めた自然歴・病態解明とレジストリ構築	勝野 雅央	神経内科学	2,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の認知症及びフレイルの発症・悪化を予防する、適切な循環器疾患(高血圧・心不全・心房細動等)の管理法を確立するための長期縦断観察研究	因田 恭也	循環器内科学	800,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の血栓性疾患、血液疾患におけるサルコペニアの実態に関する研究	松下 正	輸血部	400,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者の血栓性疾患、血液疾患におけるサルコペニアの実態に関する研究	安藤 雄一	化学療法部	300,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者における排尿障害とフレイル・サルコペニアとの関係についての研究	松川 宜久	泌尿器科	450,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
アドバンス・ケア・プランニング(ACP)人材育成研修の全国展開に向けての体制構築と研修のアウトカム評価の確立	大西 丈二	老年内科	300,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢者のサルコペニアに伴う固有感覚機能低下の定量的評価と治療法の開発	関 泰輔	整形外科	1,500,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
骨格筋量と脊柱バランスの縦断的評価-脊椎変性疾患の自然経過と治療に及ぼす影響-	伊藤 定之	整形外科	1,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
遺伝子検査の可能な血液中循環がん細胞検出装置の開発	神田 光郎	消化器外科学	4,928,000	委 公益財団法人科学技術交流財団
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	500,000	委 国立研究開発法人国際医療研究センター
SPP-004のミトコンドリア病を対象とした多施設共同長期投与試験(検証試験後)	夏目 淳	小児科学(障害児(者)寄附講座)	500,000	委 埼玉医科大学病院
胎児発育不全に対するタダラフィル母体経口投与の有効性・安全性に関する臨床試験プラセボ対照ランダム化比較第 相多施設共同研究	小谷 友美	産婦人科学(総合周産期(生殖))	616,200	委 国立大学法人三重大学
神経系難病の臨床開発促進におけるナショナルセンターの果たすべき研究基盤整備の検討	清水 忍	先端医療開発部	350,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
山間過疎地を対象とした高齢者向け屋内外包括見守りシステムに関する研究開発	大山 慎太郎	メディカルITセンター	1,499,399	委 国立研究開発法人情報通信研究機構
「量子生命技術の創製と医学・生命科学の革新」のうち「生体ナノ量子センサ」	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	7,800,000	委 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
厚生労働行政推進調査事業「C型肝炎救済のための調査研究及び安全対策等に関する研究」	石上 雅敏	消化器内科	2,000,000	委 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
希少難治性皮膚疾患に関する調査研究	秋山 真志	皮膚科学	36,000,000	補 国立保健医療科学院
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	有馬 寛	糖尿病・内分泌内科学	15,990,000	補 国立保健医療科学院
多中心性細網組織球症の疫学および治療法に関する調査研究	西田 佳弘	整形外科(リハビリテーション科)	1,495,000	補 国立保健医療科学院
我が国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究	沼口 敦	救急・内科系集中治療部	18,000,000	補 厚生労働省
医療機関における最新の院内感染対策及び発生時対応のための研究	八木 哲也	救急・内科系集中治療部	5,500,000	補 厚生労働省
薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究	山田 清文	薬剤部	7,000,000	補 厚生労働省
医療安全に専門性を有する医師人材養成および医療機関のリスク量測定に関する研究	長尾 能雅	医療の質・安全管理部	9,700,000	補 厚生労働省
学会連携を通じた希少癌の適切な医療の質向上と次世代を担う希少がん領域の人材育成に資する研究	小寺 泰弘	消化器外科学	15,000,000	補 厚生労働省
新興感染症の回復者からの血漿の採取体制の構築に向けた研究	松下 正	輸血部	4,095,000	補 厚生労働省
「一過性骨髄異常増殖症(TAM)に対する化学療法および白血病発症予防法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	村松 秀城	小児科	16,269,497	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
「若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する標準的化学療法の実効性を検証した第2相臨床試験」の開発	村松 秀城	小児科	19,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
1)臨床研究実施、2)Unifit populationに対する臨床研究に基盤整備	長谷 哲成	呼吸器内科	1,040,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
AYA世代および成人T細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用における限界年齢と新規バイオマーカー探索に関する研究	早川 文彦	病態解析学	19,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
AYA世代の精神疾患高リスク群における客観的な睡眠覚醒リズム評価を加味した予防的睡眠マネジメントに関する研究	石塚 佳奈子	親と子どもの心療科	500,000	委 学校法人東邦大学
CCR4を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞療法の実効性の非臨床試験	寺倉 精太郎	血液内科	9,100,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
CD19陽性悪性リンパ腫に対するpiggyBacトランスポゾン法によるキメラ抗原受容体遺伝子改変自己T細胞の安全性及び有効性に関する第1相医師主導治験	高橋 義行	発育・加齢医学	100,100,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
COVID-19等による社会変動下に即した応急的遠隔対応型メンタルヘルスケアの基盤システム構築と実用化促進にむけた効果検証	平田 仁	手の外科学	26,000,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
DKD,CKD・腎硬化症バイオバンク構築	丸山 彰一	腎臓内科学	2,000,000	委 学校法人川崎学園 川崎医科大学
Epstein-Barrウイルス感染がん治療薬の開発	奥野 友介	ゲノム医療センター	9,100,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
FGFR3シグナル抑制による軟骨無形成症治療薬の開発	松下 雅樹	整形外科(障害児(者)寄附講座)	108,472,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
FROM-J長期観察研究担当、地区医師会との連絡調整	丸山 彰一	腎臓内科学	195,000	委 国立大学法人筑波大学
HBVキャリアマウスにおける免疫・代謝応答解析とワクチン治療への応用	石川 哲也	病態解析学	6,500,000	委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
Histone modifications as new targets for pathophysiology of accelerated brain aging associated with mental disorders: Application for development of treatment and diagnostic method	有岡 祐子	先端医療開発部	2,012,276	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
IgG4自己抗体陽性の慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)患者を対象としたリツキシマブの有効性及び安全性評価に関する多施設共同臨床試験	飯島 正博	神経内科学	64,932,767	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
MCI及び認知症を有する人とその家族介護者へのグループ型同時介入プログラムの実現可能性検証	木下 文恵	先端医療開発部	130,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
MECP2遺伝子変異に起因する脳発達障害における分子シグナル病態の解明と新規診断・治療法の基盤開発	辻村 啓太	精神医学	9,360,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
PDX治療モデルを併用した治療抵抗性急性骨髄性白血病クローン成立過程に生じる分子病態に基づく層別化システムの確立と標的治療薬開発に関する研究	清井 仁	病態内科学	24,580,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療薬開発を目指した研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	390,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
RSウイルス感染による新生児・乳児及び幼児を対象としたバリズマブの多施設医師主導治験の推進(新規ハイリスク患者対象)	檜 顕成	希少性・難治性がん解析研究	1,950,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
t(8;21)およびinv(16)陽性AYA・若年成人急性骨髄性白血病に対する微小残存病変を指標とするゲムツスマブ・オゾガマイシン治療介入の有効性及び安全性を評価する研究	清井 仁	病態内科学	2,340,000	委 国立大学法人長崎大学
TFRと遺伝子異常の関係についての解析	清井 仁	病態内科学	520,000	委 学校法人近畿大学
ウイルス・発がんを統合的に制御するB型肝炎分子免疫治療の開発	石川 哲也	病態解析学	3,380,000	委 国立大学法人福井大学
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置溶剤を用いた標準治療確立に関する研究	齋藤 竜太	脳神経外科学	1,404,000	委 学校法人北里研究所
核酸検出等の方法を用いた原発性免疫不全症等治療可能な新生児・小児期疾患に対する新生児マス・スクリーニング法の開発	村松 秀城	小児科	650,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
拡張肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究	室原 豊明	循環器内科学	260,000	委 国立大学法人九州大学
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	加藤 太一	小児科学	221,000	委 学校法人福岡大学
局所進行胃癌に対する術前化学療法の実効性を検証する臨床第Ⅲ相試験の研究分担者業務	小寺 泰弘	消化器外科学	1,820,000	委 静岡県立静岡がんセンター
血液バイオマーカーを用いた超早期アルツハイマー病コホートの構築	中村 友彦	検査部	13,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
ゲノム情報により造血幹細胞移植の最適化を目指す研究	村田 誠	血液・腫瘍内科学	15,600,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	西田 佳弘	整形外科(147 リハビリテーション科)	390,000	委 国立大学法人岡山大学
高齢肺がん患者に対する機能評価表を用いた多施設共同臨床研究	安藤 雄一	化学療法部	325,000	委 国立大学法人島根大学
コロナウイルス等呼吸器系感染者患者の動脈血中酸素飽和度等バイタルサインモニタリングデバイス及び統合管理システムの開発と改良評価	檜 顕成	希少性・難治性がん解析研究	6,500,000	委 国立研究開発法人産業技術総合研究所
次世代シーケンサーによる網羅的がん関連遺伝子パネル解析を用いたHER2遺伝子変異陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療薬開発を目指した研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	1,950,000	委 国立大学法人九州大学
小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発	伊藤 嘉規	小児科学	273,000	委 学校法人近畿大学
診療録直結型大規模糖尿病レジストリを用いた糖尿病合併症抑制のための治療法に関するエビデンス創出するための研究	尾上 剛史	臨床研修・キャリア形成支援センター	5,980,000	委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対照試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,040,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
前臨床期を含めた認知症レジストリシステム構築における倫理支援体制の構築	飯島 祥彦	研究・臨床倫理推進室	500,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
壮年期就労者を対象とした生活習慣病予防のための動機付け支援の技術開発に関する研究	尾上 剛史	臨床研修・キャリア形成支援センター	1,261,000	委 学校法人香川栄養学園
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	安藤 昌彦	先端医療開発部	780,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
データ駆動型脳画像解析と候補フェノタイプの数理的検証	山本 真江里	精神科	6,500,000	委 国立大学法人東京大学
同種細胞を用いた再生医療のための産業利用を目的としたヒト細胞及び組織の安定供給の実証	梶山 広明	産婦人科学	2,600,000	委 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
ネフローゼ症候群の新規診断法の確立	丸山 彰一	腎臓内科学	14,079,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ノンコーディング領域・構造異常の変異の機能解析	辻村 啓太	精神医学	1,300,000	委 学校法人 慶應義塾
ヒト多能性幹細胞を用いた下垂体機能低下症に対する再生医療の技術開発	須賀 英隆	糖尿病・内分泌内科学	36,400,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
ヒト特異的RNA代謝異常とシナプス形態に基づく筋萎縮性側索硬化症の病態解明,治療法研究	横井 聡	脳神経内科	10,400,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
びまん型腱滑膜巨細胞腫(色素性絨毛結節性滑膜炎)及び根治切除不能な限局型腱滑膜巨細胞腫(腱鞘巨細胞腫)患者に対するザルトプロフェンのプラセボ対照ランダム化二重盲検比較試験(多施設共同)	西田 佳弘	整形外科(147 リハビリテーション科)	520,000	委 国立大学法人金沢大学
ヒルシュブルグ病類縁疾患診療ガイドライン改定を目指したエビデンス創出研究	内田 広夫	小児外科学	390,000	委 学校法人福岡学園福岡医療短期大学
フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病に対するボナチニブを組み込んだ治療法の確立と分子基盤の解明	早川 文彦	病態解析学	260,000	委 学校法人日本大学
不顕性慢性心筋炎レジストリ構築、遷延性慢性心筋炎レジストリ構築	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	3,250,000	委 国立大学法人三重大学
免疫チェックポイント阻害薬の安全な使用に資するirAE心筋障害スクリーニング手法と危険因子の探索研究	坂東 泰子	循環器内科	390,000	委 学校法人国際医療福祉大学
臨床病期 / / 食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 Ⅰ 相試験	安藤 昌彦	先端医療開発部	3,640,000	委 学校法人 慶應義塾
レジストリの構築(第3層:カテゴリー情報)	尾崎 紀夫	精神医学	9,750,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサパンの適応拡大のための第 Ⅰ 相医師主導治験	室原 豊明	循環器内科学	520,000	委 国立大学法人九州大学
レビー型認知症患者を中心とした非アルツハイマー型認知症登録を目指した基盤整備に関する研究	勝野 雅央	神経内科学	1,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病患者およびハイリスク者のバイオサンプル収集およびバイオマーカー開発	勝野 雅央	神経内科学	2,600,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
レビー小体病の早期予防治療を実現するためのバイオマーカー・治療標的の同定	勝野 雅央	神経内科学	7,810,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
レビー小体病ハイリスク者に対するゾニサミドの有効性・安全性に関する研究	勝野 雅央	神経内科学	82,680,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
胃癌に対する新たなモノクローナル抗体医薬の創製	神田 光郎	消化器外科学	10,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝子スクリーニング基盤(LC-SCRUM-Japan)を利用した、MET遺伝子異常陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	130,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
医薬品が自動車運転技能に与える影響の評価手法の開発	岩本 邦弘	精神医学	9,010,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
医療機関における医療機器を安全に使用するための情報共有のあり方の研究	長尾 能雅	患者安全推進部	910,000	委 国立大学法人九州大学
運動学習に着目した新規脳機能評価法を活用したエビデンス創出	勝野 雅央	神経内科学	520,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
可変形3次元画像による大規模バーチャル手術手技アトラスの構築と呼吸器外科手術ガイドシステムの創出	芳川 豊史	呼吸器外科	11,700,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
関節内変形治療骨折手術に対するカスタムメイド手術ガイド実用化のための医師主導治験	山本 美知郎	手の外科学	4,277,000	委 国立大学法人大阪大学
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	130,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
希少未診断疾患に対する診断プログラム提供のための東海地区拠点病院の体制整備に関する研究	高橋 義行	発育・加齢医学	5,200,000	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
球脊髄性筋萎縮症に対するメキシレチン塩酸塩の安全性及び有効性を検討する医師主導治験実施のためのプロトコル作成研究	山田 晋一郎	脳神経内科	3,900,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
球脊髄性筋萎縮症の適正治療に関するエビデンス構築のための臨床研究	勝野 雅央	神経内科学	10,868,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた治療開発研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	137,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
軽度呼吸不全を呈するCOVID-19肺炎患者に対するファビピラビル/ステロイド併用療法の多施設共同第Ⅱ相試験	進藤 有一郎	呼吸器内科	65,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
血液メタボローム解析による精神疾患の層別化可能な客観的評価法の確立と治療最適化への応用	尾崎 紀夫	精神医学	1,100,000	委 国立大学法人九州大学
後縦靭帯骨化症患者レジストリの構築	今釜 史郎	整形外科学	910,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
抗悪性腫瘍薬の臨床評価ガイドラインに関する研究	安藤 雄一	化学療法部	200,000	委 国立大学法人神戸大学
高齢者非小細胞肺癌患者に対する抗がん薬のPK/PDに基づく個別化医療研究	安藤 雄一	化学療法部	650,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
骨髄系腫瘍における難治性クローンへの進展・選択過程に生じる分子病態の解明	清井 仁	病態内科学	13,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脂質による体表面バリア形成の分子機構の解明	秋山 真志	皮膚科学	9,750,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自家骨採取量の削減を可能にする生体吸収性アドヒーズゲルの臨床応用	日比 英晴	顎顔面外科学	448,500	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自閉スペクトラム症に対する新規オキシトシン製剤の有効性・安全性の検討とオキシトシン反応性を予測する診断法開発	久島 周	ゲノム医療センター	8,022,108	委 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
手術動画の機械学習とAI画像解析による手術の定量化(鉗子の軌跡追跡による手術手技伝承システム、教育プログラムの開発)	内田 広夫	小児外科学	11,700,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児から成人をシームレスに対象としたB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する前方視的臨床試験による標準治療の開発研究	早川 文彦	病態解析学	286,000	委 埼玉県立小児医療センター
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症児を対象としたバルガンシクロピルの有効性及び安全性を評価する第III相多施設共同単群オープンラベル医師主導治験	伊藤 嘉規	小児科学	1,950,000	委 国立大学法人東京大学
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験:JCOG1203(対象患者への妊孕性温存治療適応拡大の可否を検証する)	梶山 広明	産婦人科学	975,000	委 国立大学法人筑波大学
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	碓氷 章彦	心臓外科学	208,000	委 国立大学法人 東北大学
心筋症における心筋病理細胞核評価による臨床病態層別化指標の開発	室原 豊明	循環器内科学	520,000	委 国立大学法人大阪大学
新規精神・発達障害治療薬の探索	辻村 啓太	精神医学	22,048,040	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
新生児の肺障害を修復する多能性幹細胞(Muse細胞)を用いた再生治療の開発	佐藤 義朗	小児科(総合周産期(新生児))	39,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発	勝野 雅央	神経内科学	2,600,000	委 学校法人愛知医科大学
診療に直結するエビデンス創出研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	5,200,000	委 学校法人藤田学園
進行性骨化性線維異形成症に対する新規治療薬の開発	三島 健一	整形外科	3,250,000	委 国立大学法人京都大学
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	西田 佳弘	整形外科(147リハビリテーション科)	650,000	委 国立大学法人大分大学
進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究	森瀬 昌宏	呼吸器内科	650,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
精神科トランスレーショナルリサーチの推進に向けた臨床研究システムの開発	尾崎 紀夫	精神医学	3,705,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
精神障害のゲノム変異を起点としたバイオリソースと臨床情報の活用による非競争的フェーズにおける産学連携創薬の基盤構築	尾崎 紀夫	精神医学	49,400,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症の成人期予後把握を目的とした多施設共同コホート研究	勝野 雅央	神経内科学	6,175,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	曾根 三千彦	頭頸部・感覚器外科学	520,000	委 独立行政法人国立病院機構東京医療センター
前頭側頭型認知症の分子標的治療薬・バイオマーカー開発によるdisease-modifyingtherapyへの展開	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	52,350,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臓器移植を革新する免疫プロファイリングによる個別化医療の開発	芳川 豊史	呼吸器外科	195,000	委 国立大学法人広島大学
多系統萎縮症の革新的治療法の開発研究	勝野 雅央	神経内科学	494,000	委 国立大学法人東京大学
体細胞復帰変異によるモザイク健常皮膚由来の培養表皮シートを用いた表皮融解性魚鱗癬の治療法開発	秋山 真志	皮膚科学	67,600,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	57,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中性脂肪蓄積心筋血管症の診療に直結するエビデンス創出研究	奥村 貴裕	循環器内科(重症心不全治療センター)	130,000	委 国立大学法人大阪大学
腸換気法を用いたCOVID-19関連重症呼吸器合併症に対する治療薬開発	芳川 豊史	呼吸器外科	6,500,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
超高精度・無侵襲早期がん診断を実現する尿中microRNAの簡易な機械解析システムの開発	夏目 敦至	脳神経外科学(脳神経先端医療学)	20,085,520	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
超高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	安藤 昌彦	先端医療開発部	1,300,000	委 埼玉医科大学
低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究	早川 昌弘	小児科(総合周産期(新生児))	560,300	委 公立大学法人大阪

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
定期モニタリング・患者集積・手術療法品質管理	芳川 豊史	呼吸器外科	1,300,000	委 国立研究開発法人国立がん研究センター
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	2,000,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
適切な医療を目指した軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	500,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
転移性ハリスク神経芽腫に対するKIRリガンド不一致同種臍帯血移植によるがん免疫療法の標準化を目的とした多施設前向き臨床研究	高橋 義行	発育・加齢医学	17,160,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
糖尿病性腎症、慢性腎臓病の重症化抑制に資する持続的・自立的エビデンス創出システムの構築と健康寿命延伸・医療最適化への貢献	丸山 彰一	腎臓内科学	1,300,000	委 学校法人川崎学園 川崎医科大学
統合失調症と自閉スペクトラム症のゲノム解析結果を活かした診断法・治療法開発	尾崎 紀夫	精神医学	83,800,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特異性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出—人工知能(AI)診断システムと新規バイオマーカーの開発—	橋本 直純	呼吸器内科	750,001	委 国立大学法人浜松医科大学
難病のゲノム医療推進に向けた全ゲノム解析基盤に関する研究開発	祖父江 元	神経内科学(特任プロ・新学術領域)	5,200,000	委 国立研究開発法人国立国際医療研究センター
乳児期発症のアトピー性皮膚炎の予後を追跡リアルワールドデータへの診療の影響と危険因子を探索する前向きコホート研究	秋山 真志	皮膚科学	650,000	委 国立研究開発法人国立成育医療研究センター
妊産婦前向きコホート研究の成果を用いた要介入群の同定法と支援策の開発	尾崎 紀夫	精神医学	8,800,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
認知症に対する非薬物療法のエビデンス創出に資するデータ品質一元管理センターの基盤構築と継続的研究支援のための体制整備	木下 文恵	先端医療開発部	390,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
認知症に対する非薬物療法のエビデンス創出に資するデータ品質一元管理センターの基盤構築と継続的研究支援のための体制整備	勝野 雅央	神経内科学	1,040,000	委 国立大学法人東京医科歯科大学
認知症予防を目指した多因子介入(ハイスコアアプローチ)	葛谷 雅文	地域在宅医療学・老年科学	3,900,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
認知症予防を目指した多因子介入によるランダム化比較研究(統計解析計画作成、解析実施)	木下 文恵	先端医療開発部	1,300,000	委 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
標準リポジット導入・インターフェース開発・電子パス改修	白鳥 義宗	メディカルITセンター	128,830	委 社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院
分泌型シアル酸認識レクチンを用いた組織再生促進作用を持つ自己免疫疾患治療薬の探索	高橋 伸典	整形外科	2,000,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
母子感染によるリスク評価や予防法を含む母子保健体制構築と技術開発研究	伊藤 嘉規	小児科学	1,248,000	委 国立大学法人東京大学
名古屋地区の精神神経疾患拠点の構築	入谷 修司	精神医療学	2,350,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
乱用防止に資する医薬品の開発のための製剤学的アプローチに関する研究	山田 清文	薬剤部	7,637,600	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
卵巣がんゲノム搭載細胞外小胞による新規キッドバイオプシー戦略	横井 暁	産科婦人科	10,010,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
臨床試験の実施・立案	島田 和之	血液内科	5,200,000	委 国立大学法人三重大
膵がんのがん関連線維芽細胞多様性の理解に基づく間質標的治療法の開発	水谷 泰之	消化器内科(救急診療等運営本部)	8,450,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
不確実な状況下における報酬動機づけメカニズムとオレキシン神経活動	溝口 博之	薬剤部	3,900,000	補 独立行政法人日本学術振興会
リスク志向な意思決定の神経基盤:行動・神経回路操作・計算論的手法によるアプローチ	溝口 博之	薬剤部	4,940,000	補 独立行政法人日本学術振興会
モデルベース行動選択試験によるガンブル障害モデル動物の情報処理システムの解明	溝口 博之	薬剤部	3,250,000	補 独立行政法人日本学術振興会
22q11.2欠失症候群の患児の前方視的追跡と早期兆候に対する支援二種の解明	山内 彩	精神科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
異種移植による末梢神経をターゲットとした新たな麻痺治療法の開発	佐伯 総太	手の外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
中皮腫オルガノイドを用いたがん幹細胞治療の臨床応用に向けた基盤構築	伊藤 文哉	生体反応病理学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
臨床応用へ向けたがん由来細胞外小胞の多様性および特異性の解明	横井 暁	産科婦人科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Meflinをマーカーとした免疫チェックポイント阻害薬効果増強法の開発	宮井 雄基	化学療法部	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マイオカインによる臓器相関に着目した新規NAFLD治療ターゲットの探索	今井 則博	光学医療診療部	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
生体吸収性ポリマーガラス化薄膜による細胞選択的接着性小口径人工血管の開発	中田 俊介	心臓外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
60分のできる脳腫瘍患者の尿のナノワイヤ捕捉ゲノムバイオプシー	Adilijiang Alimu	脳神経外科学	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌に対するTUG1の抗腫瘍効果の検討と新規治療法の開発	市村 典久	歯科口腔外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞由来細胞外小胞に含まれるmiRNAを用いた薬剤性顎骨壊死の予防	渡邊 純奈	歯科口腔外科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
救急現場における腸閉塞及び消化管穿孔画像診断補助システムの開発	安井 昭洋	小児外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人工呼吸器離脱のタイミングにおけるP0.1の有効性:診断メタアナリシスによる検討	西田 一貴	先端医療開発部	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会

計 490件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawai Y, Sugimoto M, Aikawa K, 他	血管外科	Endovenous Laser Ablation with and Without Concomitant Phlebectomy for the Treatment of Varicose Veins: A Retrospective Analysis of 954 Limbs	Ann Vasc Surg. 2020 Jul;66:344-350.	Original Article
2	Banno H, Ikeda S, Kawai Y, 他	血管外科	Early and midterm outcomes of celiac artery coverage during thoracic endovascular aortic repair.	J Vasc Surg. 2020 Nov;72(5):1552-1557.	Original Article
3	Sonohara F, Yamada S, Takeda S, 他	消化器外科二	Exploration of Exosomal Micro RNA Biomarkers Related to Epithelial-to-Mesenchymal Transition in Pancreatic Cancer	Anticancer Research. 2020 Apr;40:1843-1853.	Original Article
4	Tanaka C, Kanda M, Funasaka K, 他	消化器外科二	Detection of indocyanine green fluorescence to determine tumor location during laparoscopic gastrectomy for gastric cancer: Results of a prospective study	Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2020 Apr;13:160-167.	Original Article

5	Kanda M, Koike M, Iwata N, 他	消化器外科二	An Open-Label Single-Arm Phase II Study of Treatment with Neoadjuvant S-1 Plus Cisplatin for Clinical Stage III Squamous Cell Carcinoma of the Esophagus	Oncologist. 2020 Nov;25:e1650-e1654.	Original Article
6	Yamada S, Sato S, Takami H, 他	消化器外科二	Multicenter randomized phase II trial of prophylactic right-half dissection of superior mesenteric artery nerve plexus in pancreatoduodenectomy for pancreatic head cancer	Annals of Gastroenterological Surgery. 2021 Jan;5:111-118.	Original Article
7	Nakayama G, Takano N, Taniguchi H, 他	消化器外科二	Randomised phase II trial of capecitabine plus oxaliplatin with continuous versus intermittent use of oxaliplatin as adjuvant chemotherapy for stage II/III colon cancer (CCOG-1302 study)	European Journal of Cancer. 2021 Feb;144:61-71.	Original Article
8	Suzumura A, Kaneko H, Funahashi H, 他	眼科	n-3 Fatty Acid and Its Metabolite 18-HEPE Ameliorate Retinal Neuronal Cell Dysfunction by Enhancing Muller BDNF in Diabetic Retinopathy	Diabetes. 2020 Apr;69(4):724-735.	Original Article
9	Takagi H, Iwama S, Sugimura Y, 他	糖尿病・内分泌内科	Diagnosis and treatment of autoimmune and IgG4-related hypophysitis: clinical guidelines of the Japan Endocrine Society.	Endocr J. 2020 Apr 28;67(4):373-378.	Others

10	Sugiyama M, Banno R, Yaginuma H, 他	糖尿病・内分泌内科	Hypothalamic glial cells isolated by MACS reveal that microglia and astrocytes induce hypothalamic inflammation via different processes under high-fat diet conditions.	Neurochem Int. 2020 Jun (オンライン);136:104733.	Original Article
11	Wada E, Onoue T, Kobayashi T, 他	糖尿病・内分泌内科	Flash glucose monitoring helps achieve better glycemic control than conventional self-monitoring of blood glucose in non-insulin-treated type 2 diabetes: a randomized controlled trial.	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 Jun (オンライン);8(1):e001115.	Original Article
12	Kobayashi T, Iwama S, Yasuda Y, 他	糖尿病・内分泌内科	Pituitary dysfunction induced by immune checkpoint inhibitors is associated with better overall survival in both malignant melanoma and non-small cell lung carcinoma: a prospective study.	J Immunother Cancer. 2020 Jul (オンライン);8(2):e000779.	Original Article
13	Matsushita M, Muramoto A, Nomura E, 他	糖尿病・内分泌内科	The Smart Life Stay (SLS) program: effects of a lifestyle intervention program in combination with health tourism and health guidance for type 2 diabetes.	Nutr Diabetes. 2020 Aug 29 (オンライン);10(1):33.	Original Article
14	Miyata T, Hagiwara D, Hodai Y, 他	糖尿病・内分泌内科	Degradation of Mutant Protein Aggregates within the Endoplasmic Reticulum of Vasopressin Neurons.	iScience. 2020 Oct 7 (オンライン);23(10):101648.	Original Article

15	Iwama S, Arima H.	糖尿病・内分泌内科	Anti-pituitary antibodies as a marker of autoimmunity in pituitary glands.	Endocr J. 2020 Nov 28;67(11):1077-1083.	Review
16	Kawaguchi Y, Hagiwara D, Miyata T,他	糖尿病・内分泌内科	Endoplasmic reticulum chaperone BiP/GRP78 knockdown leads to autophagy and cell death of arginine vasopressin neurons in mice.	Sci Rep. 2020 Nov 12(オンライン);10(1):19730.	Original Article
17	Kano M, Suga H, Arima H.	糖尿病・内分泌内科	Induction of Functional Hypothalamus and Pituitary Tissues From Pluripotent Stem Cells for Regenerative Medicine.	J Endocr Soc. 2020 Dec 2(オンライン);5(3):bvaa188.	Review
18	Arima H, Goto K, Motozawa T, 他	糖尿病・内分泌内科	Open-label, multicenter, dose-titration study to determine the efficacy and safety of tolvaptan in Japanese patients with hyponatremia secondary to syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone	Endocr J. 2021 Jan 28;68(1):17-29.	Original Article
19	Ozaki H, Suga H, Arima H.	糖尿病・内分泌内科	Hypothalamic-pituitary organoid generation through the recapitulation of organogenesis.	Dev Growth Differ. 2021 Feb;63(2):154-165.	Review

20	Taki K, Takagi H, Hirose T, 他	糖尿病・内分泌内科	Dietary sodium chloride attenuates increased beta-cell mass to cause glucose intolerance in mice under a high-fat diet.	PLoS One. 2021 Mar 17 (オンライン);16(3):e024806.	Original Article
21	Tsuboi R, Sugishita M, Hirakawa Y, 他	化学療法部	Experiences and hidden needs of older patients, their families, and their physicians in palliative chemotherapy decision-making: a qualitative study.	Jpn J Clin Onco 2020 Jul 9;50(7):779-786.	Original Article
22	Urakawa H, Ando Y, Hase T, 他	化学療法部	Clinical value of serum bone resorption markers for predicting clinical outcomes after use of bone modifying agents in metastatic bone tumors: a prospective cohort study.	Int J Cancer. 2020 Jun 15;146(12):3504-3515.	Original Article
23	Maeda O, Ebata T, Shimokata T, 他	化学療法部	Chemotherapy for biliary tract cancer: real-world experience in a single institute.	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov;82(4):725-733.	Original Article
24	Nishida Y, Urakawa H, Nakayama R, 他	化学療法部	Phase II clinical trial of pazopanib for patients with unresectable or metastatic malignant peripheral nerve sheath tumors.	Int J Cancer. 2021 Jan 1;148(1):140-149.	Original Article

25	Nishida Y, Hamada S, Urakawa H, 他	化学療法部	Desmoid with biweekly methotrexate and vinblastine show similar effects to weekly administration: A phase II clinical trial.	Cancer Sci 2020 Nov;111(11):4187-4194.	Original Article
26	Inaishi T, Fujita K, Matsumoto N, 他	化学療法部	Correlation between the metabolic conversion of a capecitabine metabolite, 5' - Deoxy-5-fluorocytidine, and creatinine clearance.	In Vivo. Nov-Dec 2020;34(6):3539-3544.	Original Article
27	Nishiwaki S, Ando Y.	化学療法部	Gap between pediatric and adult approvals of molecular targeted drugs.	Sci Rep. 2020 Oct 13(オンライン);10(1):17145.	Original Article
28	Nakayama G, Takano N, Taniguchi H, 他	化学療法部	Randomised phase II trial of capecitabine plus oxaliplatin with continuous versus intermittent use of oxaliplatin as adjuvant chemotherapy for stage II/III colon cancer (CCOG-1302 study).	Eur J Cancer. 2021 Feb;144:61-71.	Original Article
29	Maeda O, Ohka F, Maesawa S, 他	化学療法部	Solitary fibrous tumor / hemangiopericytoma treated with temozolomide plus bevacizumab: a report of four cases and literature review.	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov;82(4):631-644.	Case Report

30	Maeda O, Shimokata T, Ando Y.	化学療法部	5-FU, irinotecan, nab-paclitaxel in gastrointestinal cancers.	Clin Cancer Res. 2020 Jul 15(オンライン);26(14):3889.CCR-20- 0156.	Letter
31	Arioka Y, Shishido E, Kushima, I, 他	精神科	Cell body shape and directional movement stability in human- induced pluripotent stem cell-derived dopaminergic neurons	Sci Rep.2020 Apr 2;10(1):5820.	Original Article
32	Bagarinao E, Watanabe H, Maesawa S, 他	精神科	Identifying the brain's connector hubs at the voxel level using functional connectivity overlap ratio	Neuroimage.2020 Nov 15;222:117241.	Original Article
33	Bagarinao E, Watanabe H, Maesawa S, 他	精神科	Aging Impacts the Overall Connectivity Strength of Regions Critical for Information Transfer Among Brain Networks	Front Aging Neurosci.2020 Oct 28;12:592469.	Original Article
34	Hirano M, Iritani S, Fujishiro H, 他	精神科	Globular glial tauopathy Type I presenting with behavioral variant frontotemporal dementia	Neuropathology.2020 Oct;40(5):515-525.	Case Report

35	Hirano M, Iritani S, Sekiguchi H, 他	精神科	Background of the neuropathological site in neurocognitive decline in elderly schizophrenic patients	Psychogeriatrics.2020 Jul;20(4):522-527.	Case Report
36	Ishizuka K, Yoshida T, Kawabata T, 他	精神科	Functional characterization of rare NRXN1 variants identified in autism spectrum disorders and schizophrenia	J Neurodev Disord.2020 Sep 17;12(1):25.	Original Article
37	Iwata M, Iwamoto K, Kitajima I, 他	精神科	Validity and reliability of a driving simulator for evaluating the influence of medicinal drugs on driving performance	Psychopharmacology(Berl) .2021 Mar;238(3):775-786.	Original Article
38	Kato H, Kushima I, Mori D, Yoshimi A, 他	精神科	Rare genetic variants in the gene encoding histone lysine demethylase 4C (KDM4C) and their contributions to susceptibility to schizophrenia and autism spectrum disorder	Transl Psychiatry.2020 Dec 5;10(1):421.	Original Article
39	Kubota C, Inada T, Nakamura Y, 他	精神科	Validation and factor structure of the Japanese version of the inventory to diagnose depression, lifetime version for pregnant women	PLoSOne.2020 Jun 11;15(6):e0234240.	Original Article

40	Kubota C, Inada T, Shiino T, 他	精神科	The Risk Factors Predicting Suicidal Ideation Among Perinatal Women in Japan	Front Psychiatry. 2020 May 15;11:441.	Original Article
41	Miyata S, Otake H, Ando M, 他	精神科	Patient characteristics affecting accurate detection of sleep apnea using a bed sheet-type portable monitor	Sleep Breath.2020Jun;24(2):783 -790.	Original Article
42	Mukoyama N, Nishio N, Kimura H, 他	精神科	Prospective Evaluation of Health- Related Quality of Life in Patients Undergoing Anterolateral Craniofacial Resection with Orbital Exenteration	J Neurol Surg B Skull Base.2020 Oct;81(5):585- 593.	Original Article
43	Nakamura Y, Okada T, Morikawa M, 他	精神科	Perinatal depression and anxiety of primipara is higher than that of multipara in Japanese women	Sci Rep.2020 Oct 13;10(1):17060.	Original Article
44	Nawa Y, Kimura H, Mori D, 他	精神科	Rare single- nucleotide DAB1 variants and their contribution to Schizophrenia and autism spectrum disorder susceptibility	Hum Genome Var.2020 Nov 10;7(1):37.	Original Article

45	Noda Y, Uchida M, Mouri A, 他	精神科	Involvement of nicotinic acetylcholine receptors in behavioral abnormalities and psychological dependence in schizophrenia-like model mice	EurNeuropsychopharmacol .2020 Dec;41:92-105.	Original Article
46	Sawahata M, Mori D, Arioka Y,他	精神科	Generation and analysis of novel Reln-deleted mouse model corresponding to exonic Reln deletion in schizophrenia	PsychiatryClinNeurosci.20 20 May;74(5):318-327.	Original Article
47	Sekiguchi M, Sobue A, Kushima I, 他	精神科	ARHGAP10, which encodes Rho GTPase-activating protein 10, is a novel gene for schizophrenia risk	TranslPsychiatry.2020Jul 22;10(1):247.	Original Article
48	Torii Y, Iritani S, Marui T, 他	精神科	Morphological alteration of myelin- oligodendrocytes in a schizophrenic patient with 22q11.2 deletion syndrome: An autopsy study	SchizophrRes.2020 Sep;223:353-355.	Case Report
49	Torii Y, Iritani S, Sekiguchi H, 他	精神科	The accumulation of advanced glycation end-products in a schizophrenic patient with a glyoxalase 1 frameshift mutation: An autopsy study	SchizophrRes.2020 Sep;223:356-358.	Case Report

50	Yamamoto M, Bagarinao E, Kushima I, 他	精神科	Support vector machine-based classification of schizophrenia patients and healthy controls using structural magnetic resonance imaging from two independent sites	PLoSOne.2020 Nov24;15(11):e0239615.	Original Article
51	Hibi H	歯科口腔外科	Letter to the Editor	Journal of Oral Implantolgy. 2020 Apr 1;46(2):172.	Letter
52	Watanabe J, Sakai K, Urata Y, 他	歯科口腔外科	Extracellular vesicles of stem cells to prevent BRONJ	Journal of Dental Research. 2020 May;99(5):552-560.	Original Article
53	Urata Y, Saiki W, Tsukamoto Y, 他	歯科口腔外科	Xylosyl extension of O-Glucose glycans on the extracellular domain of NOTCH1 and NOTCH2 regulates Notch cell surface trafficking	Cells. 2020 May 14(オンライン);9(5):1220.	Original Article
54	Sato K, Hayashi Y, Watanabe K, 他	歯科口腔外科	A case of Warthin tumors that were suspected to be lymph node metastases of maxillary gingival cancer	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2020 Jul;32(4):291-295.	Case Report

55	Koma Y, Fujimoto T, Uejima S, 他	歯科口腔外科	Bite injury related to oromandibular dystonia extending to the maxillary sinus: A case report	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. 2020 Nov;32(6):503-506.	Case Report
56	Toyama N, Tsuchiya S, Kamio H, 他	歯科口腔外科	The effect of macrophages on an atmospheric pressure plasma-treated titanium membrane with bone marrow stem cells in a model of guided bone regeneration	Journal of Materials Science. Materials in Medicine. 2020 Jul 23(オンライン);31(8):70.	Original Article
57	Kamio H, Tsuchiya S, Kuroda K, 他	歯科口腔外科	Chondroitin-4-sulfate transferase-1 depletion inhibits formation of a proteoglycan-rich layer and alters immunotolerance of bone marrow mesenchymal stem cells on titanium oxide surfaces	Acta Biomaterialia. 2020 Sep 15;114:460-470.	Original Article
58	Ogisu K, Fujio M, Tsuchiya S, 他	歯科口腔外科	Conditioned media from mesenchymal stromal cells and periodontal ligament fibroblasts under cyclic stretch stimulation promote bone healing in mouse calvarial defects	Cytotherapy. 2020 Oct;22(10):543-551.	Original Article
59	Ochiai Y, Yamaguchi J, Kokuryo T, 他	消化器外科一	Trefoil Factor Family 1 Inhibits the Development of Hepatocellular Carcinoma by Regulating beta-Catenin Activation.	Hepatology. 2020 Aug;72(2):503-517.	Original Article

60	Onoe S, Yokoyama Y, Ebata T, 他	消化器外科一	Impact of Perioperative Steroid Administration in Patients Undergoing Major Hepatectomy with Extrahepatic Bile Duct Resection: A Randomized Controlled Trial.	Ann Surg Oncol. 2021 Jan;28(1):121-130.	Original Article
61	Ogura A, Uehara K, Aiba T,他	消化器外科一	What is the impact of systemic chemotherapy for lateral lymph nodes in patients with locally advanced low rectal cancer?	Int J Colorectal Dis. 2020 Nov;35(11):2073-2080.	Original Article
62	Watanabe N, Yokoyama Y, Ebata T, 他	消化器外科一	The influence of the preoperative thickness of the abdominal cavity on the gastrojejunal anatomic position and delayed gastric emptying after pancreatoduodenectomy.	HPB (Oxford). 2020 Dec;22(12):1695-1702.	Original Article
63	Yamaguchi J, Kokuryo T, Yokoyama Y, 他	消化器外科一	Premalignant pancreatic cells seed stealth metastasis in distant organs in mice.	Oncogene. 2021 Mar;40(12):2273-2284.	Original Article
64	Onoe S, Ebata T, Yokoyama Y, Igami T,他	消化器外科一	A clinicopathological reappraisal of intraductal papillary neoplasm of the bile duct (IPNB): a continuous spectrum with papillary cholangiocarcinoma in 181 curatively resected cases.	HPB (Oxford). 2021 Mar 18:S1365-182X(21)00071-X.	Original Article

65	Kajiyama H, Yoshihara M, Tamauchi S, 他	産婦人科	Is standard radical surgery necessary for elderly patients with early-stage epithelial ovarian carcinoma? Propensity score matched analysis	Jpn J Clin Oncol. 2020 Apr 7(オンライン);50(4):411-418.	Original Article
66	Yoshikawa N, Kajiyama H, Otsuka N, 他	産婦人科	The Therapeutic Effects of Goreisan, a Traditional Japanese Herbal Medicine, on Lower-Limb Lymphedema after Lymphadenectomy in Gynecologic Malignancies: A Case Series Study	Evid Based Complement Alternat Med. 2020 Apr 17;2020:6298293.	Original Article
67	Yoshihara M, Kajiyama H, Yokoi A, 他	産婦人科	Ovarian cancer-associated mesothelial cells induce acquired platinum-resistance in peritoneal metastasis via the FN1/Akt signaling pathway	Int J Cancer. 2020 Apr 15(オンライン);146(8):2268-2280.	Original Article
68	Yoshikawa N, Yoshida K, Tamauchi S, 他	産婦人科	The Preoperative Prognostic Nutritional Index for the Prediction of Outcomes in Patients with Early-Stage Ovarian Clear Cell Carcinoma	Sci Rep. 2020 Apr 28(オンライン);10(1):7135.	Original Article
69	Nakao Y, Tamauchi S, Yoshikawa N, 他	産婦人科	Complete Response of Recurrent Small Cell Carcinoma of the Uterine Cervix to Paclitaxel, Carboplatin, and Bevacizumab Combination Therapy	Case Rep Oncol. 2020 Apr 9;13(1):373-378.	Case Report

70	Kajiyama H, Suzuki S, Shimbo A, 他	産婦人科	Survival after Anticancer Treatment of Terminally Ill Patients with Ovarian Carcinoma	J Palliat Med. 2020 Aug;23(8):1060-1065.	Original Article
71	Yoshihara M, Kajiyama H, Tamauchi S, 他	産婦人科	Impact of uterus-preserving surgery on Stage I primary mucinous epithelial ovarian carcinoma: A multi-institutional study with propensity score-weighted analysis	Int J Gynaecol Obstet. 2020 Aug;150(2):177-183.	Original Article
72	Nakamura T, Yoshihara M, Tamauchi S, 他	産婦人科	Follicular dendritic cell sarcoma of the uterine cervix: a case report	BMC Womens Health. 2020 Aug 17;20(1):182.	Case Report
73	Yoshikawa N, Shirakawa A, Yoshida K, 他	産婦人科	Sarcopenia as a Predictor of Survival Among Patients With Organ Metastatic Cervical Cancer	Nutr Clin Pract. 2020 Dec;35(6):1041-1046.	Original Article
74	Kitami K, Yoshihara M, Koya Y, 他	産婦人科	Microphthalmia-Associated Transcription Factor-Dependent Melanoma Cell Adhesion Molecule Activation Promotes Peritoneal Metastasis of Ovarian Cancer	Int J Mol Sci. 2020 Dec 21;21(24):9776.	Original Article

75	Kajiyama H, Suzuki S, Yoshikawa N, 他	産婦人科	The impact of systematic retroperitoneal lymphadenectomy on long-term oncologic outcome of women with advanced ovarian clear-cell carcinoma	J Gynecol Oncol. 2020 Jul;31(4):e47.	Original Article
76	Yoshihara M, Yamakita Y, Kajiyama H, 他	産婦人科	Filopodia play an important role in the trans-mesothelial migration of ovarian cancer cells	Exp Cell Res. 2020 Jul 15;392(2):112011.	Original Article
77	Yamamoto E, Nishino K, Niimi K, 他	産婦人科	Evaluation of a routine second curettage for hydatidiform mole: a cohort study	Int J Clin Oncol. 2020 Jun;25(6):1178-1186.	Original Article
78	Ushida T, Kotani T, Sadachi R, 他	産婦人科	Antenatal Corticosteroids and Outcomes in Preterm Twins	Obstet Gynecol. 2020 Jun;135(6):1387-1397.	Original Article
79	Ushida T, Kotani T, Hayakawa M, 他	産婦人科	Antenatal corticosteroids and preterm offspring outcomes in hypertensive disorders of pregnancy: A Japanese cohort study	Sci Rep. 2020 Jun 9(オンライン);10(1):9312.	Original Article

80	Tachi A, Moriyama Y, Tsuda H, 他	産婦人科	A proteome signature of umbilical cord serum associated with congenital diaphragmatic hernia	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):345-354.	Original Article
81	Maeda O, Kajiyama H, Shibata K, 他	産婦人科	Pegylated Liposomal Doxorubicin/Oxaliplatin Chemotherapy Can Overcome Cisplatin Resistance in Spectrin alpha1-Overexpressing Ovarian Carcinoma	Anticancer Res. 2020 May;40(5):2497-2507.	Original Article
82	Maseki Z, Kajiyama H, Nishikawa E, 他	産婦人科	Is cell block technique useful to predict histological type in patients with ovarian mass and/or body cavity fluids?	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):225-235.	Original Article
83	Yamamoto E, Trinh TD, Sekiya Y, 他	産婦人科	The management of hydatidiform mole using prophylactic chemotherapy and hysterectomy for high-risk patients decreased the incidence of gestational trophoblastic neoplasia in Vietnam: a retrospective observational study	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):183-191.	Original Article
84	Yoshihara M, Tamauchi S, Iyoshi S, 他	産婦人科	Does uterine preservation affect survival outcomes of patients with stage I ovarian sex cord-stromal cell tumours? A multi-institutional study	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2020 Nov;254:52-56.	Original Article

85	Muraoka A, Osuka S, Kiyono T, 他	産婦人科	Establishment and characterization of cell lines from human endometrial epithelial and mesenchymal cells from patients with endometriosis	F&S Science 2020 Nov,(1),2.195-205	Original Article
86	Hayashi S, Nakamura T, Motooka Y, 他	産婦人科	Novel ovarian endometriosis model causes infertility via iron-mediated oxidative stress in mice	Redox Biol. 2020 Oct;37:101726.	Original Article
87	Yoshida K, Yokoi A, Kato T, 他	産婦人科	The clinical impact of intra- and extracellular miRNAs in ovarian cancer.	Cancer Sci. 2020 Oct;111(10):3435-3444.	Original Article
88	Peng Y, Tang D, Zhao M, 他	産婦人科	Long non-coding RNA: A recently accentuated molecule in chemoresistance in cancer	Cancer Metastasis Rev. 2020 Sep;39(3):825-835.	Review
89	Tamauchi S, Suzuki S, Xuboya C, 他	産婦人科	Establishment of a patient-derived xenograft model and cell line of malignant transformation of mature cystic teratoma of the ovary	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Feb;47(2):713-719.	Original Article

90	Yoshida K, Yokoi A, Sugiyama M, 他	産婦人科	Expression of the chrXq27.3 miRNA cluster in recurrent ovarian clear cell carcinoma and its impact on cisplatin resistance	Oncogene. 2021 Feb;40(7):1255-1268.	Original Article
91	Owaki T, Imai T, Miki R, 他	産婦人科	Multiple cytokine analysis in gastroschisis: Association with adverse outcomes including fetal brain damage.	Cytokine. 2021 Feb;138:155406.	Original Article
92	Ukai M, Yokoi A, Yoshida K, 他	産婦人科	Extracellular miRNAs as Predictive Biomarkers for Glypican-3-Derived Peptide Vaccine Therapy Response in Ovarian Clear Cell Carcinoma	Cancers (Basel). 2021 Feb 1(オンライン);13(3):550.	Original Article
93	Shimizu Y, Suzuki S, Ukai M, 他	産婦人科	The Prognostic Significance of Peritumoral Lymphocytes' Band-like Structure in Type II Endometrial Cancer	Anticancer Res. 2021 Jan;41(1):249-258.	Original Article
94	Senda Y, Ikeda Y, Tamauchi S, 他	産婦人科	A uterine pseudotumor of immunoglobulin G4-related disease	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Jan;47(1):430-435.	Case Report

95	Kasahara Y, Osuka S, Bayasula, 他	産婦人科	Very Low Levels of Serum Anti-Müllerian Hormone as a Possible Marker for Follicle Growth in Patients with Primary Ovarian Insufficiency Under Hormone Replacement Therapy	Reprod Sci. 2021 Jan;28(1):31-36.	Original Article
96	Tamauchi S, Kajiyama H, Osuka S, 他	産婦人科	Reduced response to controlled ovarian stimulation after radical trachelectomy: A pitfall of fertility-sparing surgery for cervical cancer	Int J Gynaecol Obstet. 2021 Jan 13.	Original Article
97	Nakamura N, Ushida T, Nakatochi M, 他	産婦人科	Mortality and neurological outcomes in extremely and very preterm infants born to mothers with hypertensive disorders of pregnancy	Sci Rep. 2021 Jan 18(オンライン);11(1):1729.	Original Article
98	Ushida T, Kotani T, Kinoshita F, 他	産婦人科	Maternal low birth weight and hypertensive disorders of pregnancy.	Pregnancy Hypertens. 2021 Mar;23:5-10.	Original Article
99	Ushida T, Kotani T, Imai K,他	産婦人科	Shock Index and Postpartum Hemorrhage in Vaginal Deliveries: A Multicenter Retrospective Study	Shock. 2021 Mar 1;55(3):332-337.	Original Article

100	Mogi K, Yoshihara M, Iyoshi S, 他	産婦人科	Ovarian Cancer-Associated Mesothelial Cells: Transdifferentiation to Minions of Cancer and Orchestrate Developing Peritoneal Dissemination	Cancers (Basel). 2021 Mar 17;13(6):1352.	Original Article
101	Yoshida K, Yokoi A, Yamamoto Y, 他	産婦人科	ChrXq27.3 miRNA cluster functions in cancer development.	J Exp Clin Cancer Res. 2021 Mar 25;40(1):112.	Original Article
102	Yoshihara M, Tamauchi S, Iyoshi S, 他	産婦人科	Does complete-staging lymphadenectomy improve survival outcomes in stage I endometrioid epithelial ovarian carcinoma? A multi-institutional retrospective study with propensity score-weighted analysis	Jpn J Clin Oncol. 2021 Mar 3(オンライン);51(3):387-392.	Original Article
103	Yokoi A, Ochiya T.	産婦人科	Exosomes and extracellular vesicles: Rethinking the essential values in cancer biology	Semin Cancer Biol. 2021 Mar 31;S1044-579X(21)00082-1.	Review
104	Tano S, Ueno T, Mayama M, 他	産婦人科	Relationship between vaginal group B streptococcus colonization in the early stage of pregnancy and preterm birth: a retrospective cohort study	BMC Pregnancy Childbirth. 2021 Feb 16;21(1):141.	Original Article

105	Nakaguro M, Nagao T	病理部	Epithelial-Myoepithelial Carcinoma	Surg Pathol Clin. 2021 Mar;14(1):97-109.	Review
106	Nakaguro M, Tada Y, Faquin WC, 他	病理部	Salivary duct carcinoma: Updates in histology, cytology, molecular biology, and treatment	Cancer Cytopathol. 2020 Oct;128(10):693-703.	Review
107	Nakaguro M, Sato Y, Tada Y, 他	病理部	Prognostic Implication of Histopathologic Indicators in Salivary Duct Carcinoma: Proposal of a Novel Histologic Risk Stratification Model	Am J Surg Pathol. 2020 Apr;44(4):526-535.	Original Article
108	Okada K, Takahara T, Suzuki Y, 他	病理部	Histiocytic and dendritic cell neoplasms: Reappraisal of a Japanese series based on t(14;18) and neoplastic PD-L1 expression	Pathol Int. 2021 Jan;71(1):24-32.	Original Article
109	Suzuki Y, Kohno K, Matsue K, 他	病理部	PD-L1 (SP142) expression in neoplastic cells predicts a poor prognosis for patients with intravascular large B-cell lymphoma treated with rituximab-based multi-agent chemotherapy	Cancer Med. 2020 Jul;9(13):4768-4776.	Original Article

110	Sakakibara A, Kohno K, Ishikawa E, 他	病理部	Age-related EBV-associated B-cell lymphoproliferative disorders and other EBV + lymphoproliferative diseases: New insights into immune escape and immunodeficiency through staining with anti-PD-L1 antibody clone SP142	Pathol Int. 2020 Aug;70(8):481-492.	Review
111	Miyagi S, Ishikawa E, Nakamura M, 他	病理部	Reappraisal of Primary Epstein-Barr Virus (EBV)-positive Diffuse Large B-Cell Lymphoma of the Gastrointestinal Tract: Comparative Analysis Among Immunosuppressed and Nonimmunosuppressed Stage I and II-IV Patients	Am J Surg Pathol. 2020 Sep;44(9):1173-1183.	Original Article
112	Hattori K, Hirano Y, Kanayama Y, 他	整形外科	Efficacy of add-on iguratimod in patients with rheumatoid arthritis who inadequately respond to either tocilizumab or tumor necrosis factor alpha inhibitors.	Mod Rheumatol. 2021 Jan;31(1):80-87.	Original Article
113	Takahashi N, Asai S, Kobayakawa T, 他	整形外科	Predictors for clinical effectiveness of baricitinib in rheumatoid arthritis patients in routine clinical practice: data from a Japanese multicenter registry.	Sci Rep. 2020 Dec 14;10(1):21907.	Original Article
114	Asai S, Takahashi N, Terabe K, 他	整形外科	Periarticular osteophyte formation protects against total knee arthroplasty in rheumatoid arthritis patients with advanced joint damage.	Clin Rheumatol. 2020 Nov;39(11):3331-3339.	Original Article

115	Asai S, Takahashi N, Hayashi M, 他	整形外科	Predictors of disease flare after discontinuation of concomitant methotrexate in Japanese patients with rheumatoid arthritis treated with tocilizumab.	Joint Bone Spine. 2020 Dec;87(6):596-602.	Original Article
116	Asai S, Takahashi N, Asai N, 他	整形外科	Characteristics of patients with rheumatoid arthritis undergoing primary total joint replacement: A 14-year trend analysis (2004-2017).	Mod Rheumatol. 2020 Jul;30(4):657-663.	Original Article
117	Asai S, Hayashi M, Hanabayashi M, 他	整形外科	Discontinuation of concomitant methotrexate in Japanese patients with rheumatoid arthritis treated with tocilizumab: An interventional study	Mod Rheumatol. 2020 May;30(3):434-441.	Original Article
118	Kawashima I, Hiraiwa H, Ishizuka S, 他	整形外科	Incidence of Medial and Lateral Meniscal Tears After Delayed Anterior Cruciate Ligament Reconstruction in Pediatric Patients.	Orthop J Sports Med. 2020 Nov 19;8(11):2325967120964603.	Original Article
119	Sakai T, Hamada S, Koike H, 他	整形外科	Is mutation analysis of beta-catenin useful for the diagnosis of desmoid-type fibromatosis? A systematic review.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Jun 13;hyaa080.	Review

120	Koike H , Nishida Y, Shinomura T, 他	整形外科	Forced Expression of KIAA1199, a Novel Hyaluronidase, Inhibits Tumorigenicity of Low-Grade Chondrosarcoma	J Orthop Res. 2020 Sep;38(9):1942-1951.	Original Article
121	Okamoto M, Kawasaki M, Okura T, 他	整形外科	Effects of body mass index and range of motion on intraoperative change in pelvic tilt during total hip arthroplasty using the direct anterior approach	BMC Musculoskelet Disord. 2021 Mar 2(オンライン);22(1):240.	Original Article
122	Iida H, Seki T, Sakai Y, 他	整形外科	Low muscle mass affect hip fracture treatment outcomes in older individuals: a single-institution case-control study	BMC Musculoskelet Disord. 2021 Mar 9(オンライン);22(1):259.	Original Article
123	Osawa Y, Seki T, Okura T, 他	整形外科	Curved Intertrochanteric Varus Osteotomy vs Total Hip Arthroplasty for Osteonecrosis of the Femoral Head in Patients Under 50 Years Old	J Arthroplasty. 2020 Jun;35(6):1600-1605.	Original Article
124	Takegami Y, Seki T, Osawa Y,他	整形外科	The relationship between radiographic findings and patient-reported outcomes in adult hip dysplasia patients: A hospital cross-sectional study	J Orthop Sci. 2020 Jul;25(4):606-611.	Original Article

125	Takegami Y, Seki T, Osawa Y, 他	整形外科	Does unilateral total hip arthroplasty improve pain and function in the non-operative hip joint?	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2020 Dec;30(8):1411-1416.	Original Article
126	Koshimizu H, Nakashima H, Ito K, 他	整形外科	Risk factors of non-union in Anderson-D'Alonzo type III odontoid fractures with conservative treatment.	J Orthop. 2021 Mar 29(オンライン);24:280-283.	Original Article
127	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Bioelectrical Impedance Analysis and Manual Measurements of Neck Circumference Are Interchangeable, and Declining Neck Circumference Is Related to Presarcopenia.	Biomed Res Int. 2021 Mar 29(オンライン);2021:6622398.	Original Article
128	Machino M, Ito K, Kato F, 他	整形外科	Kinetic changes in the spinal cord occupation rate of dural sac in cervical spondylotic myelopathy.	J Orthop. 2021 Mar 11(オンライン);24:222-226.	Original Article
129	Tanaka S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	The dual presence of frailty and locomotive syndrome is associated with a greater decrease in the EQ-5D-5L index.	Nagoya J Med Sci. 2021 Feb(オンライン);83(1):159-167.	Original Article

130	Kobayashi K, Ando K, Nakashima H, 他	整形外科	Challenges for Joint Commission International accreditation: performance of orthopedic surgeons based on International Patient Safety Goals.	Nagoya J Med Sci. 2021 Feb(オンライン);83(1):87-92.	Original Article
131	Kobayashi K, Ando K, Machino M, 他	整形外科	Postoperative Syring Shrinkage in Spinal Ependymoma of WHO Grade II.	Clin Spine Surg. 2021 Mar 1(オンライン);34(2):E100-E106.	Original Article
132	Kobayashi K, Ando K, Nakashima H, 他	整形外科	Poor derivation of Tc-MEP baseline waveforms in surgery for ventral thoracic intradural extramedullary tumor: Efficacy of use of the abductor hallucis in cases with a preoperative non-ambulatory status.	J Clin Neurosci. 2021 Feb(オンライン);84:60-65.	Original Article
133	Nakashima H, Ishikawa Y, Ando K, 他	整形外科	An intraoperative 3D image-based navigation error during cervical pedicle screw insertion.	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov(オンライン);82(4):799-805.	Original Article
134	Ando K, Kobayashi K, Nakashima H, 他	整形外科	Surgical outcomes and factors related to postoperative motor and sensory deficits in resection for 244 cases of spinal schwannoma.	J Clin Neurosci. 2020 Nov(オンライン);81:6-11.	Original Article

135	Ito S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Larger muscle mass of the upper limb correlates with lower amplitudes of deltoid MEPs following transcranial stimulation.	J Clin Neurosci. 2020 Nov (オンライン);81:426-430.	Original Article
136	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Prediction of outcome following laminoplasty of cervical spondylotic myelopathy: Focus on the minimum clinically important difference.	J Clin Neurosci. 2020 Nov (オンライン);81:321-327.	Original Article
137	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Risk Factors for Poor Outcome of Cervical Laminoplasty: Multivariate Analysis in 505 Patients with Cervical Spondylotic Myelopathy.	Spine (Phila Pa 1976). 2021 Mar 1 (オンライン);46(5):329-336.	Original Article
138	Kobayashi K, Imagama S, Ando K, 他	整形外科	Dynapenia and physical performance in community-dwelling elderly people in Japan.	Nagoya J Med Sci. 2020 Aug (オンライン);82(3):415-424.	Original Article
139	Ito S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Automated Detection of Spinal Schwannomas Utilizing Deep Learning Based on Object Detection From Magnetic Resonance Imaging.	Spine (Phila Pa 1976). 2021 Jan 15 (オンライン);46(2):95-100.	Original Article

140	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Influence of Global Spine Sagittal Balance and Spinal Degenerative Changes on Locomotive Syndrome Risk in a Middle-Age and Elderly Community-Living Population.	Biomed Res Int. 2020 Sep 23(オンライン);2020:3274864.	Original Article
141	Ando K, Kobayashi K, Nakashima H, 他	整形外科	Poor spinal alignment in females with obesity: The Yakumo study.	J Orthop. 2020 Sep 16(オンライン);21:512-516.	Original Article
142	Machino M, Morita D, Ando K, 他	整形外科	Dynamic changes in longitudinal stretching of the spinal cord in thoracic spine: Focus on the spinal cord occupation rate of dural sac.	Clin Neurol Neurosurg. 2020 Nov(オンライン);198:106225.	Original Article
143	Kobayashi K, Ando K, Machino M, 他	整形外科	Trends in Medical Costs for Adolescent Idiopathic Scoliosis Surgery in Japan.	Global Spine J. 2020 Dec(オンライン);10(8):1040-1045.	Original Article
144	Nakashima H, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Associations of Serum MicroRNA with Bone Mineral Density in Community-Dwelling Subjects: The Yakumo Study.	Biomed Res Int. 2020 Jul 30(オンライン);2020:5047243.	Original Article

145	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Reply to the Letter to the Editor regarding "Postoperative Kyphosis in Cervical Spondylotic Myelopathy: Cut-off Preoperative Angle for Predicting the Post-Laminoplasty Kyphosis	.Spine (Phila Pa 1976). 2020 Sep 15(オンライン);45(18):E1213.	Original Article
146	Ishikawa Y, Watanabe K, Katsumi K, 他	整形外科	Short- versus long-segment posterior spinal fusion with vertebroplasty for osteoporotic vertebral collapse with neurological impairment in thoracolumbar spine: a multicenter study.	BMC Musculoskelet Disord. 2020 Aug 1(オンライン);21(1):513.	Original Article
147	Inoue T, Ito K, Ando K, 他	整形外科	Age-related changes in upper and lower cervical alignment and range of motion: normative data of 600 asymptomatic individuals.	Eur Spine J. 2020 Sep(オンライン);29(9):2378-2383.	Original Article
148	Nakashima H, Kanemura T, Satake K, 他	整形外科	Reoperation for Late Neurological Deterioration After Laminoplasty in Individuals With Degenerative Cervical Myelopathy: Comparison of Cases of Cervical Spondylosis and Ossification of the Posterior Longitudinal	Spine (Phila Pa 1976). 2020 Aug 1(オンライン);45(15):E909-E916.	Original Article
149	Kawabata A, Yoshii T, Hirai T, 他	整形外科	Effect of bisphosphonates or teriparatide on mechanical complications after posterior instrumented fusion for osteoporotic vertebral fracture: a multi-center retrospective study.	BMC Musculoskelet Disord. 2020 Jul 1(オンライン);21(1):420.	Original Article

150	Nakashima H, Ishikawa Y, Kato F, 他	整形外科	Postoperative iatrogenic spinal cord herniation: three case reports with a literature review.	Nagoya J Med Sci. 2020 May (オンライン);82(2):383-389.	Original Article
151	Tanaka S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Locomotive syndrome and the power spectral characteristics of body sway.	Geriatr Gerontol Int. 2020 Jul (オンライン);20(7):691-696.	Original Article
152	Kobayashi K, Imagama S, Ando K,他	整形外科	Trends in Reoperation for Surgical Site Infection After Spinal Surgery With Instrumentation in a Multicenter Study.	Spine (Phila Pa 1976). 2020 Oct 15 (オンライン);45(20):1459-1466.	Original Article
153	Kobayashi K, Ando K, Nakashima H, 他	整形外科	Scoliosis Caused by Limb-Length Discrepancy in Children.	Asian Spine J. 2020 Dec (オンライン);14(6):801-807.	Original Article
154	Machino M, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Postoperative Kyphosis in Cervical Spondylotic Myelopathy: Cut-off Preoperative Angle for Predicting the Postlaminoplasty Kyphosis.	Spine (Phila Pa 1976). 2020 May 15 (オンライン);45(10):641-648.	Original Article

155	Nakashima H, Kanemura T, Satake K, 他	整形外科	Patient-reported Quality of Life Following Posterior Lumbar Interbody Fusion or Indirect Decompression Using Lateral Lumbar Interbody Fusion.	Spine (Phila Pa 1976). 2020 Sep 15(オンライン);45(18):E1172-E1178.	Original Article
156	Nakashima H, Kanemura T, Satake K, 他	整形外科	Lateral approach corpectomy and reconstruction after anterior longitudinal ligament release in cases with fixed kyphosis: A technical note and a preliminary case series.	J Clin Neurosci. 2020 Aug (オンライン);78:164-169.	Original Article
157	Imagama S, Ando K, Kobayashi K, 他	整形外科	Risk Factors for Neuropathic Pain in Middle-Aged and Elderly People: A Five-Year Longitudinal Cohort in the Yakumo Study.	Pain Med. 2020 Aug 1(オンライン);21(8):1604-1610.	Original Article
158	Mishima K, Kitoh H, Matsushita M, 他	整形外科	Lower limb pain following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in Japanese children	J Orthop Sci. 2020 Jul;25(4):682-687.	Original Article
159	Matsushita M, Kitoh H, Mishima K, 他	整形外科	A retrospective comparative study of corrective osteotomy for tibial deformities with the multiaxial correction fixator and the circular fixator	J Clin Orthop Trauma. 2020 Jul;11(Suppl 4):S621-S625.	Original Article

160	Mishima K, Fujita A, Mizuno S,他	整形外科	Legg-Calv é Perthes disease in a patient with Bardet-Biedl syndrome: A case report of a novel MKKS/BBS6 mutation	Clin Case Rep. 2020 Sep 21;8(12):3110-3115.	Case Report
161	Matsushita M, Mishima K, Nagata T, 他	整形外科	Asfotase alfa has a limited effect in improving the bowed limbs in perinatal benign hypophosphatasia: A case report	Clin Pediatr Endocrinol. 2021;30(1):53-56.	Case Report
162	Kobayashi M, Yoshida T, Sugimoto S, 他	耳鼻いんこう科	Effect of Endolymphatic Hydrops on Acoustic Energy Absorbance	Acta Oto-Laryngologica. 2020 Aug(オンライン); 140(8):626-631.	Original Article
163	Naganawa S, Nakane T, Kawai H,他	耳鼻いんこう科	Detection of IV-gadolinium Leakage from the Cortical Veins into the CSF Using MR Fingerprinting	Magn Reson Med Sci. 2020 May; 19(2): 141 – 146.	Original Article
164	Hart ZP, Nishio N, Krishnan G, 他	耳鼻いんこう科	Endoscopic Fluorescence-Guided Surgery for Sinonasal Cancer Using anAntibody-Dye Conjugate.	Laryngoscope. 2020 Dec;130(12):2811-2817	Original Article

165	Yokoi S, Nishio N, Fujimoto Y, 他	耳鼻いんこう科	Feasibility of virtual surgical simulation in the head and neck region for soft tissue reconstruction using free flap: a comparison of preoperative and postoperative volume measurement	Int J Oral Maxillofac Surg. 2021 Mar;50(3):316-322.	Original Article
166	Mutsuga M, Banno H, Narita Y, 他	心臓外科	< Editors' Choice > Which is superior, the frozen elephant trunk technique alone or the classical elephant trunk technique followed by second-stage thoracic endovascular aortic repair for extensive aortic arch repair?	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov;82(4):657-666.	Original Article
167	Mutsuga M, Narita Y, Usui A.	心臓外科	Mid-term results of Biological Bentall using a larger valve implantation technique.	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov;82(4):645-655.	Original Article
168	Ito H, Mutsuga M, Tokuda Y, 他	心臓外科	Upper thoracoabdominal aortic repair through partial posterior incision of the diaphragm via left thoracotomy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68(12):1594-1595.	Original Article
169	Mutsuga M, Narita Y, Usui A.	心臓外科	A Floating Stitch on the Anterior Mitral Leaflet Can Eliminate Systolic Anterior Motion in Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy.	Semin Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Summer;32(2):266-268.	Original Article

170	Mutsuga M, Ito H, Usui A.	心臓外科	Exclusion Technique for Entire Shaggy Aorta Followed by One-Stage Repair of the Aortic Arch and Descending Aorta.	Heart Lung Circ. 2020 Nov;29(11):e269-e272.	Original Article
171	Yamamoto.T, Gotoh.M, Koide.N, 他	泌尿器科	Influence of human adipose stem cells on prostate cancer cell growth	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):217-224	Original Article
172	Muramatsu.T ,Noguchi.T, Sugiyama D, 他	泌尿器科	Newly emerged immunogenic neoantigens in established tumors enable hosts to regain immunosurveillance in a T cell-dependent manner	Int Immunol.2021 Jan;33(1):39-48	Original Article
173	Yoshida A, Iwatsuki K, Hoshiyama M, 他	リハビリテーション部	Disturbance of somatotopic spatial cognition and extra- territorial pain in carpal tunnel syndrome	NeuroRehabilitation. 2020;46(3):423-431.	Original Article
174	Tatebe M, Morita A, Kurahashi T, 他	手の外科	Difference in Carpal Alignment between Scapholunate Dissociation and Kienbock Disease: A Retrospective Study	J Hand Microsurg. 2020 Sep 22(オンライン) .	Original Article

175	Yamamoto M, Oyama S, Otsuka S, 他	手の外科	Experimental pilot study for augmented reality-enhanced elbow arthroscopy	Sci Rep. 2021 Feb 25;11(1):4650.	Original Article
176	Yogo N, Hase T, Kasama T, 他	呼吸器外科	Development of an immuno-wall device for the rapid and sensitive detection of EGFR mutations in tumor tissues resected from lung cancer patients.	PLoS One Nov 16(オンライン);15(11):e0241422.	Original Article
177	Ozeki N, Fukui T, Iwano S, 他	呼吸器外科	Factors associated with time change in twelve-meter stair-climbing after lung lobectomy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Feb;69(2):282-289.	Original Article
178	Fukui T, Kadomatsu Y, Tsubouchi H, 他	呼吸器外科	Prognostic factors of stage I thymic epithelial tumors.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Jan;69(1):59-66.	Original Article
179	Nishinaga Y, Sato K, Yasui H, 他	呼吸器外科	Targeted Phototherapy for Malignant Pleural Mesothelioma: Near Infrared Photoimmunotherapy Targeting Podoplanin.	Cells. 2020 Apr 20(オンライン);9(4):1019.	Original Article

180	Ozeki N, Kawaguchi K, Fukui T, 他	呼吸器外科	Psoas muscle mass in patients undergoing lung cancer surgery: a prognostic difference between squamous cell carcinoma and adenocarcinoma.	Int J Clin Oncol 2020 May;25(5):876-884.	Original Article
181	Chen-Yoshikawa TF, Fukui T, Nakamura S, 他	呼吸器外科	Current Trends in Thoracic Surgery.	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):161-174	Review
182	Nakamura S, Chen-Yoshikawa TF.	呼吸器外科	Commentary: Local chemotherapy with nanoparticles: A ray of light in the dark?	J Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Sep (オンライン);160(3):e169-e170.	Letter
183	Kadomatsu Y, Fukui T, Mori S, 他	呼吸器外科	Polyglycolic acid sheet covering to prevent recurrence after surgery for spontaneous pneumothorax: a meta-analysis	Sci Rep. 2021 Feb 9(オンライン);11(1):3392.	Original Article
184	Yamashita K, Oyama S, Otani T, 他	メディカルITセンター	Smart hospital infrastructure: geomagnetic in-hospital medical worker tracking	J Am Med Inform Assoc. 2021 Mar 1;28(3):477-486.	Original Article

185	Huang CH, Umegaki H, Makino T,他	老年科	Effect of various exercises on frailty among older adults with subjective cognitive concerns: a randomised controlled trial.	Age Ageing. 2020 Oct 23 (オンライン);49(6):1011-1019.	Original Article
186	Kikuchi R, Tsuboi N, Sada KE, 他	医療技術部臨床検査部門	VEGF-A and VEGF-A165b are associated with time to remission of granulomatosis with polyangiitis in a nationwide Japanese prospective cohort study	Ann. Clin. Biochem. 2021 Mar;58(2).86-94.	Original Article
187	Tokoro M, Tamura S, Suzuki N,他	医療技術部臨床検査部門	Aberrant X chromosomal rearrangement through multi-step template switching during sister chromatid formation in a patient with severe hemophilia A	Mol. Genet. Genomic. Med. 2020 Sep (オンライン); 8(9):e1390	Original Article
188	Suzuki A, Suzuki N, Kanematsu T, 他	医療技術部臨床検査部門	Impact of variation in reagent combinations for one-stage clotting assay on assay discrepancy in non-severe haemophilia A.	Int J Lab Hematol 2021 Feb;43(1):131-138.	Original Article
189	Sasaki Y, Ishikawa T, Kawashima H, 他	医療技術部臨床検査部門	Gender difference in the transabdominal ultrasound findings of solid-pseudopapillary neoplasm	Pancreatology. 2020 July 20 997-1003.	Original Article

190	Nishida T, Kobayashi T, Sawa M,他	血液内科	A multicenter phase II study of intrabone single-unit cord blood transplantation without antithymocyte globulin.	Ann Hematol. 2021 Mar;100(3):743-752.	Original Article
191	Terakura S, Konuma T, Tanaka M,他	血液内科	Randomised controlled trial of conditioning regimen for cord blood transplantation for adult myeloid malignancies comparing high-dose cytarabine/cyclophosphamide/total body irradiation with versus without G-CSF priming: G-CONCORD study protocol.	BMJ Open. 2020 Dec 4 (オンライン);10(12):e040467.	Others
192	Sakai T, Terakura S, Miyao K, 他	血液内科	Artificial T Cell Adaptor Molecule-Transduced TCR-T Cells Demonstrated Improved Proliferation Only When Transduced in a Higher Intensity.	Mol Ther Oncolytics. 2020 Aug 28 (オンライン);18:613-622.	Original Article
193	Tange N, Hayakawa F, Yasuda T,他	血液内科	Staurosporine and venetoclax induce the caspase-dependent proteolysis of MEF2D-fusion proteins and apoptosis in MEF2D-fusion (+) ALL cells.	Biomed Pharmacother. 2020 Aug;128:110330.	Original Article
194	Terakura S, Nishida T, Sawa M, 他	血液内科	Prospective evaluation of alternative donor from unrelated donor and cord blood in adult acute leukemia and myelodysplastic syndrome.	Bone Marrow Transplant. 2020 Jul;55(7):1399-1409.	Original Article

195	Shimada K, Yoshida K, Suzuki Y, 他	血液内科	Frequent Genetic Alterations in Immune Checkpoint-Related Genes in Intravascular Large B-Cell Lymphoma.	Blood. 2021 Mar;137(11):1491-1502.	Original Article
196	Kawashima N, Ishikawa Y, Atsuta Y, 他	血液内科	Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation at the first remission for younger adults with FLT3-internal tandem duplication AML: The JALSG AML209-FLT3-SCT study.	Cancer Sci. 2020 July; 111(7);2472-2481.	Original Article
197	Shimada K, Yamaguchi M, Atsuta Y, 他	血液内科	Rituximab, cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone combined with high-dose methotrexate plus intrathecal chemotherapy for newly diagnosed intravascular large B-cell lymphoma (PRIME-LIP-IVL): a	Lancet Oncol. 2020 Apr;21(4):593-602.	Original Article
198	Kakushima N, Yoshida M, Takizawa K, 他	消化器内科	White light and/or magnifying endoscopy with narrow band imaging for superficial nonampullary duodenal epithelial tumors	Scand J Gastroenterol. 2021 Feb;56(2):211-218.	Original Article
199	Ohno E, Hirooka Y, Kawashima H, 他	消化器内科	Endoscopic Ultrasonography for the Evaluation of Pancreatic Cystic Neoplasms	J Med Ultrason (2001). 2020 Jul;47(3):401-411.	Review

200	Ishikawa T, Kawashima H, Ohno E, 他	消化器内科	Risks and characteristics of pancreatic cancer and pancreatic relapse in autoimmune pancreatitis patients	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Dec;35(12):2281 - 2288.	Original Article
201	Ohno E, Kawashima H, Ishikawa T, 他	消化器内科	Can contrast- enhanced harmonic endoscopic ultrasonography accurately diagnose main pancreatic duct involvement in intraductal papillary mucinous neoplasms?	Pancreatology. 2020 Jul;20(5):887-894.	Original Article
202	Ishikawa T, Bishay K, Belletrutti PJ, 他	消化器内科	Giant fibrovascular polyp of the esophagus with intermittent airway obstruction	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2020 Jul;32(7):895-896.	Case Report
203	Suzuki H, Kawashima H, Ohno E, 他	消化器内科	What is the role of measuring shear wave dispersion using shear wave elastography in pancreatic parenchyma?	J Med Ultrason (2001). 2020 Oct;47(4):575-581.	Original Article
204	Ishikawa T, Kawashima H, Ohno E, 他	消化器内科	Usefulness of endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy for the diagnosis of autoimmune pancreatitis using a 22-gauge Franseen needle: a prospective multicenter study	Endoscopy. 2020 Nov;52(11):978-985.	Original Article

205	Kataoka K, Ishikawa T, Ohno E, 他	消化器内科	Endoscopic ultrasound elastography for small solid pancreatic lesions with or without main pancreatic duct dilatation	Pancreatology. 2021 Mar;21(2):451-458.	Original Article
206	Ishikawa T, Kawashima H, Ohno E, 他	消化器内科	Clinical characteristics and long-term prognosis of autoimmune pancreatitis with renal lesions	Sci Rep. 2021 Jan 11;11(1):406.	Original Article
207	Yashika J, Ohno E, Ishikawa T, 他	消化器内科	Utility of multiphase contrast enhancement patterns on CEH-EUS for the differential diagnosis of IPMN-derived and conventional pancreatic cancer	Pancreatology. 2021 Mar;21(2):390-396.	Original Article
208	Matsuda N, Imai N, Kuzuya T, 他	消化器内科	Progression After Molecular Targeted Agents: Hepatic Arterial Changes and Transarterial Chemoembolization in Hepatocellular Carcinoma	In Vivo. 2021;35(2):1185-1189	Original Article
209	Yamamoto K, Honda T, Ito T, 他	消化器内科	The relationship between oral-origin bacteria in the fecal microbiome and albumin-bilirubin grade in patients with hepatitis C	J Gastroenterol Hepatol. 2021 Mar;36(3):790-799.	Original Article

210	Hattori S, Nakamura M, Yamamura T, 他	消化器内科	The microbiome can predict mucosal healing in small intestine in patients with Crohn's disease	J Gastroenterol. 2020 Dec;55(12):1138-1149.	Original Article
211	Ito T, Ishigami M, Morooka H, 他	消化器内科	The albumin-bilirubin score as a predictor of outcomes in Japanese patients with PBC: an analysis using time-dependent ROC	Sci Rep. 2020 Oct 20(オンライン);10(1):17812.	Original Article
212	Yamamoto T, Imai N, Yamamoto K, 他	消化器内科	Safety and efficacy of percutaneous radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma patients with haemophilia	Haemophilia. 2021 Jan;27(1):100-107.	Original Article
213	Funasaka K, Miyahara R, Furukawa K, 他	消化器内科	Mutation analysis of gastrointestinal stromal tumors using RNA obtained via endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration	Transl Oncol. 2020 Nov;13(11):100848.	Original Article
214	Hashiguchi H, Tsukamoto Y, Ogawa M, 他	消化器内科	Glycoproteomic analysis identifies cryptdin-related sequence 1 as O-glycosylated protein modified with alpha1,2-fucose in the small intestine	Arch Biochem Biophys. 2020 Nov 30;695:108653	Original Article

215	Murate K, Maeda K, Nakamura M, 他	消化器内科	Endoscopic Activity and Serum TNF-alpha Level at Baseline Are Associated With Clinical Response to Ustekinumab in Crohn's Disease Patients	Inflamm Bowel Dis. 2020 Oct 23;26(11):1669-1681.	Original Article
216	Nakamura M, Yamamura T, Maeda K, 他	消化器内科	Refractory Ulcerative Colitis Improved by Scheduled Combination Therapy of Vedolizumab and Granulocyte and Monocyte Adsorptive Apheresis	Intern Med. 2020 Dec 1 (オンライン);59(23):3009-3014.	Case Report
217	Niwa Y, Nakamura M, Kawashima H, 他	消化器内科	Accuracy of carbon dioxide insufflation for endoscopic retrograde cholangiopancreatography using double-balloon endoscopy	World J Gastroenterol. 2020 Nov 14;26(42):6669-6678.	Original Article
218	Sakamaki K, Funasaka K, Miyahara R, 他	消化器内科	Low ETV1 mRNA expression is associated with recurrence in gastrointestinal stromal tumors	Sci Rep. 2020 Sep 8;10(1):14767.	Original Article
219	Suzuki H, Nakamura M, Yamamura T, 他	消化器内科	A Prospective Study of Factors Associated with Abdominal Pain in Patients during Unsedated Colonoscopy Using a Magnifying Endoscope	Intern Med. 2020;59(15):1795-1801.	Original Article

220	Zorron Cheng Tao Pu L, Maicas G, Tian Y, Yamamura T, 他	消化器内科	Computer-aided diagnosis for characterization of colorectal lesions: comprehensive software that includes differentiation of serrated lesions	Gastrointest Endosc. 2020 Oct (オンライン);92(4):891-899.	Original Article
221	Zorron Cheng Tao Pu L, Yamamura T, Nakamura M, 他	消化器内科	Comparison of different virtual chromoendoscopy classification systems for the characterization of colorectal lesions	JGH Open. 2020 Jul 7 (オンライン);4(5):818-826.	Original Article
222	Hokari N, Ogawa- Momohara M, Akiyama M	皮膚科	Multiple subcutaneous nodules symmetrically located on tendinous regions	Eur J Dermatol 2020 Apr 1;30(2):226-227.	Others
223	Suganuma M, Kono M, Yamanaka M, 他	皮膚科	Pathogenesis of a variant in the 5' untranslated region of ADAR1 in dyschromatosis symmetrica hereditaria	Pigment Cell Melanoma Res. 2020 Jul;33(4):591-600.	Original Article
224	Muro Y, Ogawa- Momohara M, Takeichi T, 他	皮膚科	Clinical and serological features of dermatomyositis and systemic lupus erythematosus patients with autoantibodies to ADAR1	J Dermatol Sci. 2020 Oct;100(1):82-84.	Letter

225	Takeichi T, Akiyama M.	皮膚科	KLICK Syndrome Linked to a POMP Mutation Has Features Suggestive of an Autoinflammatory Keratinization Disease.	Front Immunol. 2020 Apr 30(オンライン);11:641.	Review
226	Takeichi T, Akiyama M.	皮膚科	Generalized Pustular Psoriasis: Clinical Management and Update on Autoinflammatory Aspects.	Am J Clin Dermatol. 2020 Apr;21(2):227-236.	Review
227	Takeichi T.	皮膚科	SDR9C7 plays an essential role in skin barrier function by dehydrogenating acylceramide for covalent attachment to proteins.	J Dermatol Sci. 2020 May;98(2):82-87.	Review
228	Takeichi T, Suga Y, Mizuno T, 他	皮膚科	Recurrent KRT10 Variant in Ichthyosis with Confetti.	Acta Derm Venereol. 2020 Jul 2(オンライ ン);100(14):adv00209.	Case Report
229	Yoshikawa M, Takeichi T, Taki T, 他	皮膚科	A case of pemphigus with anti-desmoglein 3 and anti- desmocollin 2 and 3 autoantibodies, associated with follicular lymphoma and bronchiolitis obliterans.	Eur J Dermatol. 2020 Aug 1;30(4):424-425.	Case Report

230	Murase Y, Tanahashi K, Takeichi T, 他	皮膚科	Mild epidermolytic ichthyosis with palmoplantar keratoderma due to the KRT1 mutation p.Ile479Thr.	J Dermatol. 2020 Sep (オ ンライン);47(9):e336- e339.	Case Report
231	Murase Y, Takeichi T, Tanahashi K, 他	皮膚科	Acquired reactive perforating collagenosis with chondrodermatitis nodularis chronica helicis.	J Dermatol. 2020 Oct (オ ンライン);47(10):e362- e364.	Case Report
232	Taki T, Tanahashi K, Takeichi T, 他	皮膚科	Association of Topical Minoxidil With Autosomal Recessive Woolly Hair/Hypotrichosis Caused by LIPH Pathogenic Variants.	JAMA Dermatol. 2020 Oct 1;156(10):1030-1032.	Letter
233	Yoshikawa T, Takeichi T, Ogi T, 他	皮膚科	A heterozygous SERPINB7 mutation is a possible modifying factor for epidermolytic palmoplantar keratoderma.	J Dermatol Sci. 2020 Nov;100(2):148-151.	Case Report
234	Takeichi T, Terawaki S, Kubota Y, 他	皮膚科	A patient with CARD14-associated papulovesicular eruptions showing atopic dermatitis-like features.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2021 Jan (オンラ イン);35(1):e58-e59.	Case Report

235	Takeichi T, Akiyama M.	皮膚科	Systemic inflammatory diseases due to germ line EGFR mutations, with features suggestive of autoinflammatory keratinization diseases.	J Dermatol. 2021 Jan(オンライン);48(1):e24-e25.	Letter
236	Makihara-Inukai M, Takeichi T, Ogawa-Momohara M, 他	皮膚科	Morphea in a Crohn's disease patient undergoing ustekinumab treatment.	Eur J Dermatol. 2021 Feb 1;31(1):96-97.	Case Report
237	Arisawa Y, Ito Y, Tanahashi K, 他	皮膚科	Two Cases of Porokeratosis with MVD Mutations, in Association with Bullous Pemphigoid.	Acta Derm Venereol. 2021 Mar 31(オンライン);101(3):adv00423.	Case Report
238	Mori S, Taki T, Murakami Y, 他	皮膚科	Low plasma fibrinogen levels are associated with poor prognosis in cutaneous angiosarcoma of the head and neck	Cancer Science. 2021;00:1-4.	Letter
239	Kanematsu T, Suzuki N, Tamura S, 他	検査部	Myh9 R702C is associated with erythroid abnormality with splenomegaly in mice.	Nagoya J Med Sci. 2021 Feb;83(1):75-86.	Original Article

240	Matsushita T, Mangles S.	輸血部	An overview of the pathfinder clinical trials program: Long-term efficacy and safety of N8-GP in patients with hemophilia A.	J Thromb Haemost. 2020 Sep;18 Supp;1(Suppl1):26-33.	Original Article
241	Ogawa M, Suzuki N, Takahashi N, 他	輸血部	Higher FVIII:C measured by chromogenic substrate assay than by one-stage assay is associated with silent hemophilic arthropathy.	Thromb Res. 2020 Apr;188:103-105.	Original Article
242	Araki Y, Uda K, Yokoyama K,他	脳神経外科	Surgical Designs of Revascularization for Moyamoya Disease: 15 Years of Experience in a Single Center	World Neurosurg.2020 Jul ; 139 e325-e334.	Others
243	Natsume A, Aoki K, Ohka F,他	脳神経外科	Genetic analysis in patients with newly diagnosed glioblastomas treated with interferon-beta plus temozolomide in comparison with temozolomide alone	J Neurooncol. 2020 May;148(1):17-27.	Others
244	Motomura K, Takeuchi H, Nojima I,他	脳神経外科	Navigated repetitive transcranial magnetic stimulation as preoperative assessment in patients with brain tumors	Sci Rep. 2020 Jun 3;10(1):9044.	Original Article

245	Nishimura Y, Hara M, Natsume A, 他	脳神経外科	Complete resection and untethering of the cervical and thoracic spinal dermal sinutracts in adult patients	Nagoya J Med Sci,2020 Aug;82(3) 567-577	Others
246	Nagashima Y, Nishimura Y, Eguchi K,他	脳神経外科	Intraosseous Melanotic Schwannoma in the Sacrum Mimicking Primary Bone Tumor.	NMC Case Rep J. 2020 Jun 26;7(3):107-111.	Original Article
247	Nishimura Y, Hara M, Awaya T,他	脳神経外科	Possible Double Crush Syndrome Caused by Iatrogenic Acquired Lumbosacral Epidermoid Tumor and Concomitant Sacral Tarlov Cyst	NMC Case Rep J,2020 Sep;7(4) 195-199	Others
248	Motomura K, Chalise L, Shimizu H, 他	脳神経外科	Intraoperative seizure outcome of levetiracetam combined with perampanel therapy in patients with glioma undergoing awake brain surgery.	Journal of Neurosurgery,2021 Jan;22 1-10	Original Article
249	Kanamori F, Araki Y.	脳神経外科	In Reply to the Letter to the Editor Regarding "Brain compression by encephalo-myosynangiosis is a risk factor for transient neurological deficits after surgical revascularization in pediatric patients with moyamoya disease.	World Neurosurg. 2020 Apr;136:443.	Original Article

250	Nishihori M, Izumi T, Tsukada T, 他	脳神経外科	Levodopa-Responsive Parkinsonism Caused by Recurrence of Large Basilar-Tip Aneurysm After Stent-Assisted Coil Embolization: Case Report,	Neurol Med Chir (Tokyo),2020	Original Article
251	Nagata Y, Takeuchi K, Yamamoto T, 他	脳神経外科	Fully Endoscopic Transcylinder Trans-Magendie Foraminal Approach for Fourth Ventricular Cavernoma: A Technical Case Report.	World Neurosurg. 2020 Oct;142:104-107.	Original Article
252	Tanahashi K, Zomorodi AR, Fukushima T	脳神経外科	STA-enhanced vascularized galeal flap for revascularization of moyamoya disease: technical report	Acta Neurochir (Wien). 2020 Aug;162(8):1841-1845.	Original Article
253	Naganawa S, Nakamichi R, Ichikawa K, 他	放射線科	MR Imaging of Endolymphatic Hydrops: Utility of iHYDROPS-Mi2 Combined with Deep Learning Reconstruction Denoising.	Magn Reson Med Sci. 2020 Aug 21.	Original Article
254	Naganawa S, Ito R, Kawai H,他	放射線科	Confirmation of Age-dependence in the Leakage of Contrast Medium around the Cortical Veins into Cerebrospinal Fluid after Intravenous Administration of Gadolinium-based Contrast Agent	Magn Reson Med Sci. 2020 Dec 1;19(4):375-381.	Original Article

255	Naganawa S, Ito R, Kato Y, Kawai H, 他	放射線科	Intracranial Distribution of Intravenously Administered Gadolinium-based Contrast Agent over a Period of 24 Hours: Evaluation with 3D-real IR Imaging and MR Fingerprinting.	Magn Reson Med Sci. 2021 Mar 1;20(1):91-98.	Original Article
256	Taoka T, Naganawa S	放射線科	Neurofluid Dynamics and the Glymphatic System: A Neuroimaging Perspective	Korean J Radiol. 2020 Nov;21(11):1199-1209.	Review
257	Taoka T, Naganawa S	放射線科	Imaging for central nervous system (CNS) interstitial fluidopathy: disorders with impaired interstitial fluid dynamics.	Jpn J Radiol. 2021 Jan;39(1):1-14.	Review
258	Iwano S, Ito S, Kamiya S, 他	放射線科	Unexpected radioactive iodine accumulation on whole-body scan after I-131 ablation therapy for differentiated thyroid cancer	Nagoya J Med Sci. 2020 May; 82(2): 205-215.	Original Article
259	Iwano S, Kamiya S, Ito R, 他	放射線科	Iodine-related attenuation in contrast-enhanced dual-energy computed tomography in small-sized solid-type lung cancers is associated with the postoperative prognosis	Cancer Imaging. 2021 Jan 7;21(1):7.	Original Article

260	Kawamura M, Itoh Y, Kamomae T, 他	放射線科	A phase I/II trial of intraoperative breast radiotherapy in an Asian population: 10-year results with critical evaluation	J Radiat Res. 2020 Jul 6; 61(4): 602-607.	Original Article
261	Komada T, Tachi Y, Nagasaka K, 他	放射線科	A case of stent-graft implantation for postpancreaticoduodenectomy hemorrhage in a patient with a reconstructed gastric tube.	Radiol Case Rep. 2020 Oct 22;15(12):2710-2713.	Case Report
262	Ito R, Iwano S, Naganawa S	放射線科	A review on the use of artificial intelligence for medical imaging of the lungs of patients with coronavirus disease 2019	Diagn Interv Radiol. 2020 Sep;26(5):443-448.	Review
263	Sugiyama M, Takehara Y, Kawate M, 他	放射線科	Optimal Plane Selection for Measuring Post-prandial Blood Flow Increase within the Superior Mesenteric Artery: Analysis Using 4D Flow and Computational Fluid Dynamics.	Magn Reson Med Sci. 2020 Dec 1;19(4):366-374.	Original Article
264	Okumura M, Motegi A, Zenda S, 他	放射線科	Efficacy and safety of accelerated fractionated radiotherapy without elective nodal irradiation for T3N0 glottic cancer without vocal cord fixation.	Head Neck. 2020 August; 42 (8): 1775-1782.	Original Article

265	Nishi R, Koike H, Ohyama K, 他	脳神経内科	Differential clinicopathologic features of EGPA-associated neuropathy with and without ANCA.	Neurology. 2020 Apr 21;94(16):e1726-e1737.	Original Article
266	Koike H, Fukami Y, Nishi R,他	脳神経内科	Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in Guillain-Barré syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2020 Jun;91(6):650-659.	Original Article
267	Nishi R, Koike H, Ohyama K,他	脳神経内科	Association Between IL-5 Levels and the Clinicopathologic Features of Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis.	Neurology. 2021 Feb 2;96(5):226-229.	Original Article
268	Koike H, Mouri N, Fukami Y,他	脳神経内科	Two distinct mechanisms of neuropathy in immunoglobulin light chain (AL) amyloidosis.	J Neurol Sci. 2021 Feb 15 (オンライン);421:117305.	Original Article
269	Ishigaki S, Riku Y, Fujioka Y, 他	脳神経内科	Aberrant interaction between FUS and SFPQ in neurons in a wide range of FTLD spectrum diseases.	Brain. 2020 Aug 1;143(8):2398-2405.	Original Article

270	Hirunagi T, Sahashi K, Tachikawa K, 他	脳神経内科	Selective suppression of polyglutamine-expanded protein by lipid nanoparticle-delivered siRNA targeting CAG expansions in the mouse CNS.	Mol Ther Nucleic Acids. 2021 Feb 15;24:1-10.	Original Article
271	Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, 他	脳神経内科	Ratio of urinary N-terminal titin fragment to urinary creatinine is a novel biomarker for amyotrophic lateral sclerosis.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2021 Mar 18 (オンライン);jnnp-2020-324615.	Original Article
272	Tsuboi T, Harada Y, Suzuki M, 他	脳神経内科	Steroid-responsive recurrent tumefactive demyelination with multiple petechial hemorrhages along non-displaced medullary veins.	Clin Neurol Neurosurg. 2020 Jun (オンライン);193:105764.	Case Report
273	Tanaka Y, Tsuboi T, Watanabe H, 他	脳神経内科	Longitudinal Speech Change After Subthalamic Nucleus Deep Brain Stimulation in Parkinson's Disease Patients: A 2-Year Prospective Study.	J Parkinsons Dis. 2020;10(1):131-140.	Original Article
274	Yokoi K, Hattori M, Satake Y, 他	脳神経内科	Longitudinal analysis of premotor anthropometric and serological markers of Parkinson's disease.	Sci Rep. 2020 Nov 25 (オンライン);10(1):20524.	Original Article

275	Hattori M, Tsuboi T, Yokoi K,他	脳神経内科	Subjects at risk of Parkinson's disease in health checkup examinees: cross-sectional analysis of baseline data of the NaT-PROBE study.	J Neurol. 2020 May;267(5):1516-1526.	Original Article
276	Imai K, Masuda M, Watanabe H, 他	脳神経内科	The neural network basis of altered decision-making in patients with amyotrophic lateral sclerosis.	Ann Clin Transl Neurol. 2020 Nov;7(11):2115-2126.	Original Article
277	Kawabata K, Watanabe H, Bagarinao E, 他	脳神経内科	Cerebello-basal ganglia connectivity fingerprints related to motor/cognitive performance in Parkinson's disease.	Parkinsonism Relat Disord. 2020 Nov;80:21-27.	Original Article
278	Ohdake R, Kawabata K, Watanabe H, 他	脳神経内科	Individual changes in visual performance in non-demented Parkinson's disease patients: a 1-year follow-up study.	J Neural Transm (Vienna). 2020 Oct;127(10):1387-1397.	Original Article
279	Kato S, Lindholm B, Qureshi AR, 他	腎臓内科	Inter-leg Systolic Blood Pressure Difference Predicts Cardiovascular Events and Mortality in Incident Hemodialysis Patients.	Int J Artif Organs. 2020 Apr;43(4):217-224.	Original Article

280	Fukihara J, Kondoh Y, Brown KK, 他	呼吸器内科	Probable usual interstitial pneumonia pattern on chest CT: is it sufficient for a diagnosis of idiopathic pulmonary fibrosis?	Eur Respir J. 2020 Apr; 55(4).	Original Article
281	Nakamura R, Takanari K, Nakamura Y, 他	形成外科	Increased Defect Size is Associated with Increased Complication Rate after Free Tissue Transfer for Midanterior Skull- Base Reconstruction	J Neurol Surg B Skull Base. 2020.Apr;82(2):121- 127	Original Article
282	Fujii T, Shibata Y, Shinya S, 他	麻酔科	Transverse vs. parasagittal in-plane approaches in ultrasound-guided paravertebral block using a microconvex probe: A randomised controlled trial	Eur J Anaesthesiol. 2020 Sep;37(9):752-757.	Original Article
283	Araki K, Nakamura R, Ito D, 他	脳神経内科	NUS1 mutation in a family with epilepsy, cerebellar ataxia, and tremor.	Epilepsy Res. 2020 Aug (オンライン);164:106371.	Original Article
284	Nakamura Y, Takanari K, Nakamura R, 他	形成外科	Correlation between blood flow, tissue volume and microvessel density in the flap	Nagoya J Med Sci. 2020.May;82(2):291-300	Original Article

285	Omote N, Matsuda N, Hashimoto N, 他	呼吸器内科	High-flow nasal cannula therapy for acute respiratory failure in patients with interstitial pneumonia: a retrospective observational study.	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2).	Original Article
286	Okazaki M, Inaguma D, Imaizumi T, 他	腎臓内科	Impact of old age on the association between in-center extended-hours hemodialysis and mortality in patients on incident hemodialysis.	PLoS One. 2020 Jul 10;15(7):e0235900.	Original Article
287	Murakami Y, Sakamoto K, Okumura Y, 他	呼吸器内科	Acute Exacerbation of Pleuroparenchymal Fibroelastosis Secondary to Allogenic Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Intern Med. 2020 Nov;59(21).	Original Article
288	Suzuki S, Mori A, Fukui A, 他	麻酔科	Lidocaine inhibits vascular endothelial growth factor-A-induced angiogenesis.	J Anesth. 2020 Dec;34(6):857-864.	Original Article
289	Ozeki T, Maruyama S, Nagata M, 他	腎臓内科	The revised version 2018 of the nationwide web-based registry system for kidney diseases in Japan: Japan Renal Biopsy Registry and Japan Kidney Disease Registry.	Clin Exp Nephrol. 2020 Nov;24(11):1058-1068.	Original Article

290	Uchibori T, Takanari K, Nakamura R, 他	形成外科	Multiple Thrombi during Microvascular Anastomosis Caused by Decreased Antithrombin Activity: A Case Report	Plast Reconstr Surg Glob Open.2020.Jun(オンライン);8(6):e2872	Case Report
291	Muto R, Inagaki K, Sato N, 他	腎臓内科	Ectopic Relapse of Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Pituitary Vasculitis with No Elevation of Anti-neutrophil Cytoplasmic Antibodies after Renal Remission.	Intern Med. 2020 Dec 15;59(24):3187-3193.	Case Report
292	Tanaka M, Saka-Tanaka M, Ochi K, 他	腎臓内科	C-type lectin Mincle mediates cell death-triggered inflammation in acute kidney injury.	J Exp Med. 2020 Nov 2;217(11):e20192230.	Original Article
293	Hishida M, Imaizumi T, Menez S, 他	腎臓内科	Additional prognostic value of toe-brachial index beyond ankle-brachial index in hemodialysis patients.	BMC Nephrol. 2020 Aug 20;21(1):353.	Original Article
294	Majima S, Wakahara K, Nishio T,他	呼吸器内科	Bronchial wall thickening is associated with severity of chronic rhinosinusitis	Respir Med. 2020 Aug;170.	Original Article

295	Tamura T, Mori A, Ishii A, 他	麻酔科	Desflurane and Sevoflurane Concentrations in Blood Passing Through the Oxygenator During Cardiopulmonary Bypass: A Randomized Prospective Pilot Study.	J Anesth. 2020 Dec;34(6):904-911.	Original Article
296	Sakamoto K, Furukawa T, Yamano Y, 他	呼吸器内科	Serum mitochondrial DNA predicts the risk of acute exacerbation and progression of idiopathic pulmonary fibrosis.	Eur Respir J. 2021 Jan 21;57(1):2001346.	Original Article
297	Goto Y, Yamamoto T, Ozaki M.	救急科	Aerosol shield and tent for health-care workers' protection during the coronavirus disease 2019 pandemic	Acute Medicine and Surgery. 2020 Aug 27;7(1):e550.	Letter
298	Nakamura R, Tohnai G, Atsuta N, 他	脳神経内科	Genetic and functional analysis of KIF5A variants in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis.	Neurobiol Aging. 2021 Jan (オンライン);97:147.e11-147.e17.	Original Article
299	Koshi E, Saito S, Okazaki M, 他	腎臓内科	Efficacy of favipiravir for an end stage renal disease patient on maintenance hemodialysis infected with novel coronavirus disease 2019	CEN Case Rep. 2021 Feb;10(1):126-131.	Case Report

300	Imaizumi T, Nakatochi M, Fujita Y, 他	先端医療開発部	Glucocorticoid treatment is associated with ICU-acquired hypernatremia: a nested case-control study.	Clin Exp Nephrol. 2021 Feb;25(2):131-139.	Original Article
301	Nakamura R, Misawa K, Tohno G, 他	脳神経内科	A multi-ethnic meta-analysis identifies novel genes, including ACSL5, associated with amyotrophic lateral sclerosis.	Commun Biol. 2020 Sep 23 (オンライン);3(1):526.	Original Article
302	Ryuge A, Saito S, Morioka H, 他	腎臓内科	Acquired Fanconi Syndrome in a Patient with Nontyphoidal Salmonella Bacteremia.	Intern Med. 2021 Mar 1;60(5):761-764.	Case Report
303	Sato T, Kato Y, Yamamoto M, 他	麻酔科	Novel anesthetic agent remimazolam as an alternative for the asleep-awake-asleep technique of awake craniotomy.	JA Clin Rep 2020 Nov 17;6(1):92.	Case Report
304	Ozeki T, Nagata M, Katsuno T, 他	腎臓内科	Nephrotic syndrome with focal segmental glomerular lesions unclassified by Columbia classification; Pathology and clinical implication.	PLoS One. 2021 Jan 5;16(1):e0244677.	Original Article

305	Hachiya A, Karasawa M, Imaizumi T, 他	腎臓内科	The ISN/RPS 2016 classification predicts renal prognosis in patients with first-onset class III/IV lupus nephritis.	Sci Rep. 2021 Jan 15;11(1):1525.	Original Article
306	Ozeki T, Maruyama S, Imasawa T, 他	腎臓内科	Clinical manifestations of focal segmental glomerulosclerosis in Japan from the Japan Renal Biopsy Registry: age stratification and comparison with minimal change disease.	Sci Rep. 2021 Jan 28;11(1):2602.	Original Article
307	Suzuki Y, Mizuno M, Kojima H, 他	腎臓内科	Oral Antibiotics are Effective for Preventing Colonoscopy-associated Peritonitis as a Preemptive Therapy in Patients on Peritoneal Dialysis.	Intern Med. 2021;60(3):353-356.	Original Article
308	Omote N, Sakamoto K, Li Q, 他	呼吸器内科	Long noncoding RNA TINCR is a novel regulator of human bronchial epithelial cell differentiation state.	Physiol Rep. 2021 Feb;9(3).	Original Article
309	Yasui H, Nishinaga Y, Taki S, 他	呼吸器内科	Near Infrared Photoimmunotherapy for Mouse Model of Pleural Dissemination	J Vis Exp. 2021 Feb 9 (オンライン);(168).	Original Article

310	Yasui H, Takahashi K, Taki S, 他	呼吸器内科	Near Infrared Photo-Antimicrobial Targeting Therapy for <i>Candida albicans</i>	Advanced Therapeutics. 2021 Jan;4(2).	Original Article
311	Tanaka T, Amano H, Tanaka Y, 他	小児外科	Safe diagnostic management of malignant mediastinal tumors in the presence of respiratory distress: a 10-year experience	BMC Pediatr. 2020 Jun 10;20(1):292.	Original Article
312	Yokota K, Amano H, Kudo T, 他	小児外科	A novel Lugol's iodine staining technique to visualize the upper margin of the surgical anal canal intraoperatively for Hirschsprung disease: a case series	BMC Surg. 2020 Dec 4;20(1):317.	Original Article
313	Takimoto A, Sumida W, Amano H, 他	小児外科	Postoperative intestinal obstruction in patients with biliary atresia impedes biliary excretion and results in subsequent liver transplantation.	Pediatr Surg Int. 2021 Feb;37(2):229-234.	Original Article
314	Yokota K, Uchida H, Sakairi M, 他	小児外科	Identification of novel neuroblastoma biomarkers in urine samples	Sci Rep. 2021 Feb 18;11(1):4055.	Original Article

315	Tanaka Y, Tainaka T, Hinoki A,他	小児外科	Risk factors and outcomes of bile leak after laparoscopic surgery for congenital biliary dilatation	Pediatr Surg Int. 2021 Feb;37(2):235-240.	Original Article
316	Shirota C, Tainaka T, Sumida W, 他	小児外科	Thoracoscopic surgery for congenital lung cysts: an attempt to limit pulmonary resection in cases of lesions involving multiple lobes	Pediatr Surg Int. 2021 Feb;37(2):213-221.	Original Article
317	Shirota C, Murase N, Tanaka Y, 他	小児外科	Laparoscopic Kasai portoenterostomy is advantageous over open Kasai portoenterostomy in subsequent liver transplantation	Surg Endosc. 2020 Aug;34(8):3375-3381.	Original Article
318	Tsutsumi Y, Iwano S, Okumura N, 他	循環器内科	Assessment of Severity in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension by Quantitative Parameters of Dual-Energy Computed Tomography	J Comput Assist Tomogr. Jul/Aug 2020 (オンライン);44(4):578-585.	Original Article
319	Adachi S, Kikuchi R, Shimokata S, 他	循環器内科	Endostatin and Vascular Endothelial Growth Factor-A 165 b May Contribute to Classification of Pulmonary Hypertension	Circ Rep. 2021 Feb 19(オンライン);3(3):161-169.	Original Article

320	Mizukuchi T, Uemura T, Kondo S, 他	循環器内科	Automatic Remasking of Digital Subtraction Angiography Images in Pulmonary Angiography	J Digit Imaging. 2020 Apr (オンライン);33(2):531- 537.	Original Article
321	Ohashi K, Ouchi N, Murohara T.	循環器内科	Can Pharmacological Ischemic Preconditioning Affect Myocardial Ischemic Injury?	Circ J. 2020 May 25;84(6):891-893.	Review
322	Kawanishi H, Ohashi K, Ogawa H, 他	循環器内科	A novel selective PPARalpha modulator, pemafibrate promotes ischemia-induced revascularization through the eNOS- dependent mechanisms	PLoS One. 2020 Jun 25 (オンライ ン);15(6):e0235362.	Original Article
323	Takikawa T, Ohashi K, Ogawa H, 他	循環器内科	Adipolin/C1q/Tnf- related protein 12 prevents adverse cardiac remodeling after myocardial infarction	PLoS One. 2020 Dec 4(オ ンライ ン);15(12):e0243483.	Original Article
324	Shimizu Y, Kondo K, Fukumoto Y, 他	循環器内科	Rationale and Design of Therapeutic Angiogenesis by Cell Transplantation Using Adipose- Derived Regenerative Cells in Patients With Critical Limb Ischemia TACT- ADRC Multicenter Trial	Circ Rep. 2020 Aug 8(オ ンライン);2(9):531-535.	Others

325	Katagiri T, Kondo K, Shibata R, 他	循環器内科	Therapeutic angiogenesis using autologous adipose-derived regenerative cells in patients with critical limb ischaemia in Japan: a clinical pilot study.	Scientific Reports. 2020.Sep (オンライン);10(1):16045	Original Article
326	Suzuki J, Shimizu Y, Tsuzuki K, 他	循環器内科	No influence on tumor growth by intramuscular injection of adipose-derived regenerative cells: safety evaluation of therapeutic angiogenesis with cell therapy.	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2021 Jan 1;320(1):H447-H457.	Original Article
327	Iwakawa N, Tanaka A, Ishii H, 他	循環器内科	Impact of Diabetes Mellitus on the Aortic Wall Changes as Atherosclerosis Progresses: Aortic Dilatation and Calcification.	J Atheroscler Thromb. 2020 Jun 1;27(6):509-515.	Original Article
328	Yoshida R, Ishii H, Morishima I, 他	循環器内科	Prognostic impact of recanalizing chronic total occlusion in non-infarct related arteries on long-term clinical outcomes in acute myocardial infarction patients undergoing primary percutaneous coronary intervention.	Cardiovasc Interv Ther. 2020 Jul;35(3):259-268.	Original Article
329	Tashiro H, Tanaka A, Ishii H, 他	循環器内科	Lipid-rich large plaques in a non-culprit left main coronary artery and long-term clinical outcomes	Int J Cardiol. 2020 Apr 15;305:5-10.	Original Article

330	Tobe A, Osanai H, Tanaka A, 他	循環器内科	Comparison of Anti-factor Xa Activity Among Three Different Factor Xa Inhibitors in Non-valvular Atrial Fibrillation Patients with Renal Impairment	Clin Drug Investig. 2020 Jun;40(6):567-573.	Original Article
331	Tashiro H, Tanaka A, Ishii H, 他	循環器内科	Reduced exercise capacity and clinical outcomes following acute myocardial infarction.	Heart Vessels. 2020 Aug;35(8):1044-1050.	Original Article
332	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y, 他	循環器内科	Serial Images of Aortic Plaque Rupture During Transfemoral Transcatheter Aortic Valve Replacement	JACC Cardiovasc Interv. 2020 Nov 23;13(22):e203-e204.	Case Report
333	Nishi T, Tokuda Y, Tanaka A, 他	循環器内科	Cholesterol crystal embolization after transcatheter aortic valve replacement	Circ Rep. 2020 Oct 7;2(11):701-702.	Case Report
334	Kataoka T, Harada K, Tanaka A, 他	循環器内科	Relationship between epicardial adipose tissue volume and coronary artery spasm.	Int J Cardiol. 2021 Feb 1;324:8-12.	Original Article

335	Tobe A, Tanaka A, Tokuda Y, 他	循環器内科	Perioperative D-dimer levels after transcatheter aortic valve replacement between patients with and without anticoagulant therapy.	Cardiol J. 2021;28(1):170-172.	Original Article
336	Hitora Y, Teraoka T, Tanaka A, 他	循環器内科	Clinical outcomes following percutaneous coronary intervention for bifurcation lesions: kissing balloon inflation vs. sequential dilation.	Cardiovasc Interv Ther. 2020 Nov 9.	Original Article
337	Hiraiwa H, Okumura T, Kondo T, 他	循環器内科	Usefulness of the plasma branched-chain amino acid/aromatic amino acid ratio for predicting future cardiac events in patients with heart failure	J Cardiol. 2020 Jun;75(6):689-696.	Original Article
338	Hiraiwa H, Okumura T, Sawamura A, 他	循環器内科	Spleen size improvement in advanced heart failure patients using a left ventricular assist device	Artif Organs. 2020 Jul;44(7):700-708.	Original Article
339	Okumura T, Kimura Y, Murohara T.	循環器内科	Prediction of Thromboembolism in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy	Circ J. 2020 Apr 24;84(5):700-701.	Others

340	Oishi H, Kondo T, Fujimoto K, 他	循環器内科	Aortic insufficiency associated with Impella that required surgical intervention upon implantation of the durable left ventricular assist device.	J Artif Organs. 2020 Dec;23(4):378-382.	Case Report
341	Iwata E, Kondo T, Kato T, 他	循環器内科	Prognostic Value of Delirium in Patients With Acute Heart Failure in the Intensive Care Unit.	Can J Cardiol. 2020 Oct;36(10):1649-1657.	Original Article
342	Kimura Y, Okumura T, Kazama S, 他	循環器内科	Predictors of residual mitral regurgitation after left ventricular assist device implantation	Int J Artif Organs. 2021 Feb;44(2):101-109.	Original Article
343	Kimura Y, Okumura T, Kazama S, 他	循環器内科	Usefulness of Plasma Branched-Chain Amino Acid Analysis in Predicting Outcomes of Patients with Nonischemic Dilated Cardiomyopathy	Int Heart J. 2020 Jul 30;61(4):739-747.	Original Article
344	Kuwayama T, Morimoto R, Oishi H,他	循環器内科	Efficacy of Pulmonary Artery Pulsatility Index as a Measure of Right Ventricular Dysfunction in Stable Phase of Dilated Cardiomyopathy	Circ J. 2020 Aug 25;84(9):1536-1543.	Original Article

345	Kondo T, Okumura T, Oishi H, 他	循環器内科	Associations between hemodynamic parameters at rest and exercise capacity in patients with implantable left ventricular assist devices	Int J Artif Organs. 2021 Mar;44(3):174-180.	Case Report
346	Kimura Y, Kondo T, Mutsuga M, 他	循環器内科	Impella 5.0 for Cardiogenic Shock After Thrombectomy in a Patient With Intraventricular Thrombosis.	Can J Cardiol. 2020 Oct;36(10):1690.e13-1690.e15.	Case Report
347	Hiraiwa H, Goto Y, Nakamura G, 他	循環器内科	Relative bradycardia as a clinical feature in patients with coronavirus disease 2019 (COVID-19): A report of two cases	J Cardiol Cases. 2020 Dec (オンライン);22(6):260-264.	Case Report
348	Shibata N, Kondo T, Kazama S, 他	循環器内科	Impact of predictive value of Fibrosis-4 index in patients hospitalized for acute heart failure.	Int J Cardiol. 2021 Feb 1;324:90-95.	Original Article
349	Okumura T, Kano N, Sawamura A, 他	循環器内科	Differential Diagnosis of Mechanisms of Exercise-Induced Abnormal Blood Pressure Response in Hypertrophic Cardiomyopathy Without Left Ventricular Outflow Tract Obstruction	Circ Heart Fail. 2020 Oct;13(10):e007164.	Case Report

350	Hiraiwa H, Furusawa K, Kazama S,他	循環器内科	Fulminant myocarditis with myositis of ocular and respiratory muscles	Nagoya J Med Sci. 2020 Aug;82(3):585-593.	Case Report
351	Sugiura Y, Okumura T, Kondo T,他	循環器内科	Adolescent Kawasaki disease shock syndrome with inflammatory cell infiltration into the myocardium: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2020 Sep 9(オンライン);4(5):1-7.	Case Report
352	Kazama S, Hiraiwa H, Kimura Y, 他	循環器内科	A case of reexpansion pulmonary edema and acute pulmonary thromboembolism associated with diffuse large B-cell lymphoma treated with venovenous extracorporeal membrane oxygenation.	J Cardiol Cases. 2020 Sep 29(オンライン);23(1):53- 56.	Case Report
353	Kazama S, Kondo T, Suga K, 他	循環器内科	A case of heart failure complicated with double ventricular response triggered by beta blocker.	Heart Rhythm Case Rep. 2020 Dec 17(オンライン);7(3):174-177.	Case Report
354	Okumura T, Hiraiwa H, Araki T,他	循環器内科	Two cases of dilated cardiomyopathy with blood pressure- limited tolerability of cardioprotective agents improved by ivabradine.	J Cardiol Cases. 2020 Nov 23(オンライン);23(4):149- 153.	Case Report

355	Oishi H, Morimoto R, Shimoyama Y, 他	循環器内科	Myocardial Vasculitis Associated With the Immune Checkpoint Inhibitor Pembrolizumab	JACC Case Rep. 2020 Sep 23(オンライン);2(12):1937-1941.	Case Report
356	Murase Y, Inden Y, Shibata R, 他	循環器内科	The impact of the dominant frequency of body surface electrocardiography in patients with persistent atrial fibrillation.	Heart Vessels. 2020 Jul;35(7):967-976.	Original Article
357	Yanagisawa S, Inden Y, Ohguchi S, 他	循環器内科	Periprocedural Management of Cardiac Tamponade During Catheter Ablation for AF Under Uninterrupted DOAC and Warfarin.	JACC Clin Electrophysiol. 2020 Jul;6(7):786-795.	Original Article
358	Yanagisawa S, Inden Y, Fujii A, 他	循環器内科	Early improvement of daily physical activity after catheter ablation for atrial fibrillation in an accelerometer assessment: A prospective pilot study.	Ann Noninvasive Electrocardiol. 2021 Jan(オンライン);26(1):e12807.	Original Article
359	Fukami T, Uemura M, Terai M, 他	患者安全推進部	Enhanced hospital-wide communication and interaction by team training to improve patient safety.	Nagoya J Med Sci. 2020 Nov;82(4):697-701.	Original Article

360	Fukami T, Uemura M, Nagao Y.	患者安全推進部	Doctors-in-training support strategy from incident report point of view.	Ann Med Surg (Lond). 2020 Jun 26;56:139-141.	Original Article
361	Fukami T, Uemura M, Nagao Y.	患者安全推進部	Significance of incident reports by medical doctors for organizational transparency and driving forces for patient safety.	Patient Saf Surg. 2020 Apr 16;14:13.	Original Article
362	Fukami T, Uemura M, Terai M, 他	患者安全推進部	Intervention efficacy for eliminating patient misidentification using step-by-step problem-solving procedures to improve patient safety.	Nagoya J Med Sci. 2020 May;82(2):315-321.	Original Article
363	Wakamatsu M, Okuno Y, Murakami N, 他	小児科	Detection of subclonal SETBP1 and JAK3 mutations in juvenile myelomonocytic leukemia using droplet digital PCR	Leukemia. 2021 Jan;35(1):259-263.	Letter
364	Suzuki T, Sato Y, Yamamoto H, 他	総合周産期母子医療センター新生児部門	Mesenchymal stem/stromal cells stably transduced with an inhibitor of cc chemokine ligand 2 ameliorate bronchopulmonary dysplasia and pulmonary hypertension	Cytotherapy. 2020 Apr;22(4):180-192.	Original Article

365	Kitase Y, Sato Y, Arai S, 他	総合周産期母子医療セ ンター新生児部門	Establishment of a novel fetal growth restriction model and development of a stem-cell therapy using umbilical cord- derived mesenchymal stromal cells	Front Cell Neurosci. 2020 Jul 28(オンライン);14:212.	Original Article
366	Kato T, Mitani Y, Masuya M, 他	小児科	A non-selective endothelin receptor antagonist bosentan modulates kinetics of bone marrow-derived cells in ameliorating pulmonary hypertension in mice.	Pulm Circ. 2020 May 14 (オンライ ン);10(2):2045894020919 355.	Original Article
367	Yamamoto H, Hayano S, Okuno Y,他	小児科	Phosphorylated proteome analysis of a novel germline ABL1 mutation causing an autosomal dominant syndrome with ventricular septal defect.	Int J Cardiol. 2021 Mar 1;326:81-87.	Original Article
368	Suzuki T, Kidokoro H, Kubota T,他	小児科	Transient Cortical Diffusion Restriction in Children Immediately After Prolonged Febrile Seizures	Eur J Paediatr Neurol. 2020 Jul;27:30-36.	Original Article
369	Kidokoro H, Yamamoto H, Kubota T,他	小児科	High-amplitude fast activity in EEG: An early diagnostic marker in children with beta-propeller protein-associated neurodegeneration	Clin Neurophysiol. 2020 Sep;131(9):2100-2104.	Original Article

計369件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	古森公浩	血管外科	腹部大動脈瘤回復手術	心臓血管外科エキスパートが分析する“術中危機的状況”-ピットフォールとりカバリ- 2020.11月 222-230	Review
2	松岡歩, 安藤雄一	化学療法部	高齢者のがん薬物療法ガイドラインについて	日本病院薬剤師会雑誌 第56巻11号 p1261-1266, 2020.11月	Review
3	小池一幸, 椎葉正史, 鎌田孝広, 他	歯科口腔外科	総合病院入院患者の歯科口腔保健に関する全国調査	日本口腔科学会雑誌. 2020 Jul;69(2):179-189.	Original Article
4	岡部一登, 上嶋信知, 木下一彦, 他	歯科口腔外科	上顎洞底挙上術後20年以上経過した無歯顎症例	日本顎顔面インプラント学会誌. 2020 Dec;19(4):293-299.	Case Report
5	上原圭, 江畑智希	消化器外科1	手術のtips and pitfalls'腹腔鏡下直腸低位前方切除術におけるtips and pitfalls' 脾彎曲授動法	日本外科学会雑誌.2021 Mar;122巻2号:195-202	Original Article

6	水野 隆史, 江畑 智希, 棚野 正人	消化器外科1	【肝胆膵領域腫瘍におけるBorderline resectable/Marginally resectableとは-術前治療の可能性について-】胆嚢癌	日本外科学会雑誌.2021 Mar;122巻2号:166-171	Original Article
7	上原 圭, 相場 利貞, 小倉 淳司, 他	消化器外科1	【大腸癌術前治療up-to-date】大腸癌術前化学療法のup-to-date	日本大腸肛門病学会雑誌.2020 Oct;73巻10号:417-423	Original Article
8	江畑 智希, 水野 隆史, 尾上 俊介, 他	消化器外科1	胆道専門医講座 胆道癌の減黄と管理(第3回) 術前の胆道ドレナージ方法 外科医の立場から	胆道. 2020 Oct;34巻4号:781-789	Original Article
9	清板 和昭, 江畑 智希, 横山 幸浩, 他	消化器外科1	十二指腸前門脈を伴う遠位胆管癌の1症例	肝胆膵治療研究会誌.2020 Sep;16巻1号:115	Case Report
10	棚野 正人, 江畑 智希, 大塚 新平	消化器外科1	【良性胆道狭窄に対する診断と治療-PSC、IgG4関連疾患を除く】肝門部領域胆管癌として切除された良性胆管狭窄病変	日本消化器病学会雑誌.2020 Aug;117巻8号:679-688	Original Article
11	中村 智子	産婦人科	若年者における子宮内膜症	東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌 .2020 Sep; vol8:3-9	Review
12	渡邊絵里, 中村智子, 後藤真紀, 他	産婦人科	子宮頸管拡張操作による子宮穿孔後、経膣分娩に至った一例	東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌 2020 Sep;vol8:78-82	Case Report

13	中村 智子, 林 祥太郎, 清水 顕,他	産婦人科	虫垂子宮内膜症により完全型虫垂重積を生じた一例	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌.2020 Apr;36巻1号:185-188	Case Report
14	野坂 麗奈, 早川博生,仲川裕子	産婦人科	NT6.5mm以上の高度な肥厚を認めた症例の臨床経過と予後についての検討	東海産科婦人科学会雑誌.2021Feb;vol57:149-155	Original Article
15	池田 芳紀, 新美 薫,梶山 広明	産婦人科	妊娠合併子宮頸癌の取り扱い	東海産科婦人科学会雑誌.2021Feb;vol57:1-7	Review
16	三宅菜月,大須賀智子, 森田真未,他	産婦人科	遺伝性水頭症が疑われた先天性水頭症の3例	東海産科婦人科学会雑誌.2021Feb;vol57:157-164	Case Report
17	吉田沙矢子, 大須賀智子, 田中秀明, 他	産婦人科	副角子宮・OHVIRA症候群に対し、腹腔鏡下片側子宮摘出術を施行した4症例についての検討	東海産科婦人科学会雑誌.2021Feb;vol57:397-403	Case Report
18	舟橋康人	泌尿器科	基礎研究から見る慢性骨盤痛症候群のメカニズム	泌尿器科.2020 Dec;12(6):689-695.	Original Article
19	中川 泰伸, 岩月 克之, 栗本 秀,他	手の外科	手指変形性関節症患者に用いる日本語版 Functional Index for Hand Osteoarthritis(J-FIHOA)に対するラッシュ分析	日本手外科学会雑誌 (2185-4092)37巻2号 Page104-108(2020.12)	Original Article
20	平田 仁	手の外科	採血副作用の現状とその対応 静脈穿刺による神経損傷について 医療訴訟リスクを軽減するための提言	血液事業 (0917-7833)43巻1号 Page96-98(2020.05)	Others

21	栗本 秀, 佐伯 将臣, 徳武 克浩, 他	手の外科	尺骨神経皮下前方移動術により治療した尺骨神経内ガングリオン	末梢神経 (0917-6772)31巻1号 Page148-153(2020.06)	Case Report
22	菊地良介, 度會理佳, 横山 覚, 他	臨床検査部門	5種類のcarbohydrate antigen 19-9測定試薬による相関及び膵臓がん診断能評価	医学検査.2020 Apr;69(2):184-192	Others
23	村瀬悠理, 菊地良介, 鈴木敦夫, 他	臨床検査部門	治療薬物モニタリング測定における VITROS XT7600と Dimension EXL200の比較検証 - TDM検査の災害時患者個別支援 -	医学検査.2020 Jul;69(3):397-402	Others
24	金貞姫, 菊地良介, 鈴木敦夫, 他	臨床検査部門	新型コロナウイルス感染症に対する抗 SARS-CoV-2抗体検査試薬の比較検討 - 抗原種の違いによる特性と抗体アイソタイプの関連 -	医学検査.2020 Oct;69(4):554-561	Original Article
25	菊地良介, 金貞姫, 鈴木敦夫, 他	臨床検査部門	新型コロナ感染症の早期検出に抗SARS-CoV-2 spike protein S1 domain-IgA抗体が寄与する可能性	医学検査.2020 Oct;69(4):546-553	Original Article
26	菊地良介, 松山浩之, 度會理佳, 他	臨床検査部門	VITROS XT7600による3日間の停電を想定した過酷環境下におけるウェット試薬とドライ試薬の安定性評価	医学検査.2021 Jan;70(1),86-92	Others
27	鈴木敦夫, 菊地良介, 安藤善孝, 他	臨床検査部門	フロントエンド分注装置IDS-CLAS3600を用いた自動搬送血液凝固検査システムの構築と運用	医学検査. 2020 Jul; 69(3):353-359	Others
28	鈴木敦夫, 鈴木伸明, 兼松毅, 他	臨床検査部門	血小板膜糖蛋白質 GPIb変異体を用いた von Willebrand因子活性測定試薬「INNOVANCE® VWF Ac」の基本性能評価	日本血栓止血学会誌. 2020 31(4): 409-419	Original Article

29	渡邊友美,加藤千秋,遠藤比呂子,他	臨床検査部門	0.8%赤血球浮遊液における不規則抗体の検出	日本輸血細胞治療学会誌.2020 Jun;66(3):538-544	Original Article
30	浅野 栞奈,大滝 周,大木 友美,他	看護部	看護学生の一次救命処置に対する自信度の実態調査 蘇生技術への自信のなさに関する基礎的研究	性ところ.2020 Jun;11(1):151-155.	Original Article
31	角嶋直美,廣瀬崇,藤城光弘	消化器内科	[十二指腸 診断]内視鏡治療適応の判断は大きさ?拡大観察?	消化器内視鏡 2021;33(2)298-300	Review
32	川嶋 啓揮,橋本 千樹,大野 栄三郎,他	消化器内科	8mm径と10mm径のFully covered Self-Expandable Metal Stentsの比較試験 切除不能遠位胆管悪性狭窄患者に対する多施設共同前向き試験	Gastroenterological Endoscopy. 2020 May; 62(5): 593-603.	Original Article
33	石川 卓哉,川嶋 啓揮,大野 栄三郎,他	消化器内科	胆嚢隆起性病変の評価における経腹壁3Dエコーの有用性に関する検討	胆道. 2020 May; 34(2): 145-152.	Original Article
34	大野 栄三郎,廣岡 芳樹,川嶋 啓揮,他	消化器内科	自己免疫性膵炎の活動性評価を目的とした超音波内視鏡下shear-wave測定 of 臨床の実現可能性と有用性の検討 前向き探索的研究	超音波医学. 2021 Jan; 48(1): 35-44	Original Article
35	米田 耕造,久保 亮治,乃村 俊史,他	皮膚科	掌蹠角化症診療の手引き	日本皮膚科学会雑誌 2020 Aug; 130 (9): 2017-2029.	Others
36	川上 民裕,秋山 真志,須賀 康,他	皮膚科	穿孔性皮膚症(perforating dermatosis)の診療の手引き	日本皮膚科学会雑誌 2020 Aug;130(9):2007-2016.	Others

37	熊野 友華, 岩田 洋平, 山北 高志, 他	皮膚科	色素性痒疹様皮疹を呈した成人Still病の1例	臨床皮膚科 (0021-4973)74巻8号 Page579-582	Case Report
38	石黒 裕梨, 武市 拓也, 宮 一朗,他	皮膚科	高齢者の顔面に生じたAtypical Fibroxanthomaの1例	皮膚科の臨床 62巻4号 Page483-486(2020.04)	Case Report
39	安達 ルナ, 武市 拓也	皮膚科	["顔の赤み"鑑別・治療アトラス]天疱瘡に伴う顔の赤み 落葉状天疱瘡の1例	Derma. 294号 Page193-196(2020.04)	Case Report
40	鈴木 由以佳, 武市 拓也	皮膚科	【まるわかり皮膚科生体検査 診断ツールを完全マスター】(Part.2)皮膚の機能を評価しよう 遺伝子検査 遺伝性疾患	Visual Dermatology 19巻臨時増刊号 Page136-138(2020.06)	Original Article
41	武市 拓也, 秋山 真志	皮膚科	【新しい角化異常症の世界】総説 新しい角化異常症の世界	皮膚病診療 42巻8号 Page656-661(2020.08)	Review
42	渡邊 友美, 加藤 千秋, 遠藤 比呂子, 他	検査部	0.8%赤血球浮遊液における不規則抗体の検出	日本輸血細胞治療学会誌 2020.6 66巻3号、538-543	Original Article
43	鈴木 敦夫, 菊地 良介, 亀山 なつみ, 他	検査部	災害時の運用を想定したVITROS XT7600によるDダイマー測定 of 検討	医学検査 2020.04 69巻2号 Page193-197	Original Article
44	菊地 良介, 度會 理佳, 鈴木 敦夫,他	検査部	5種類のcarbohydrate antigen 19-9測定試薬による相関及び膵臓がん診断能評価	医学検査 2020.04 69巻2号 Page184-192	Original Article

45	鈴木 敦夫, 菊地 良介, 安藤 善孝, 他	検査部	フロントエンド分注装置IDS-CLAS3600を用いた自動搬送血液凝固検査システムの構築と運用	医学検査 2020.07 69巻 3号 Page353-359	Original Article
46	村瀬 悠理, 菊地 良介, 鈴木 敦夫,他	検査部	治療薬物モニタリング測定における VITROS XT7600と Dimension EXL200の 比較検証 TDM検査 の災害時患者個別支援	医学検査 2020.07 69巻 3号 Page397-402	Original Article
47	鈴木 敦夫, 鈴木 伸明, 兼松 毅, 他	検査部	血小板膜糖蛋白質 GPIb変異体を用いた von Willebrand因子 活性測定試薬 「INNOVANCE VWF Ac」の基本性能評価	日本血栓止血学会誌 2020.08 31巻4号 Page409-419	Original Article
48	金 貞姫, 菊 地 良介, 鈴木 敦夫, 度 他	検査部	新型コロナウイルス感染症に対するSARS-CoV-2抗体検査試薬の検討 抗原種の違いによる特性と抗体アイソタイプの関連	医学検査 2020.10 69巻 4号 Page554-561	Original Article
49	菊地 良介, 金 貞姫, 鈴木 敦夫, 他	検査部	新型コロナ感染症の 早期検出に抗SARS- Cov-2 spike protein S1 domain-IgA抗体 が寄与する可能性	医学検査 2020.1069巻4 号 Page546-553	Original Article
50	菊地 良介, 松山 浩之, 度會 理佳, 他	検査部	VITROS XT7600による3日間の停電を想定した過酷環境下におけるウェット試薬とドライ試薬の安定性評価	医学検査 2021.01 70巻 1号 Page86-92	Original Article
51	奥田誠,池本 純子,石丸 健, 他	輸血部	赤血球型検査(赤血球系検査)ガイドライン(改訂3版)	日本輸血細胞治療学会誌 2020.12 第66巻 第6号 695-717	Others
52	前澤 聡	脳神経外科	検査からみる神経疾患 てんかんに対するSEEG(stereotactic electroencephalography)(解説)	Clinical neuroscience,2020 年11月,38(11)1478-1480	Others

53	水野聡美, 前澤 聡	脳神経外科	成人の健常加齢と高次脳機能における脳形態解析(VBM)	高次脳機能研究,2020年9月,40(3)377-384	Original Article
54	菅野 秀宣, 原 恵子, 前澤 聡, 他	脳神経外科	【てんかん診療連携の現状と課題】都市部におけるてんかん診療連携の現状と課題	精神科,2020年6月,36(6)445-451	Original Article
55	高井 想生, 前澤 聡, 中坪 大輔, 他	脳神経外科	Broca野を摘出した皮質形成異常を伴う焦点性てんかんの1例	脳神経外科ジャーナル,2020年4月,29(4)298-306	Original Article
56	金森史哲, 荒木芳生, 横山欣也, 他	脳神経外科	小児もやもや病血行再建術後のperiventricular anastomosis.	脳外誌,2020;29 442-447	Original Article
57	竹内和人, 永谷哲也, 渡邊督, 他	脳神経外科	下垂体機能温存を目的とした頭蓋咽頭腫摘出への挑戦	日本内分泌学会雑誌,2020;96 10-Aug	Original Article
58	永田雄一, 竹内和人, 山本太樹, 他	脳神経外科	下垂体腺腫における手術操作と術後中枢性尿崩症の発生についての検討	日本内分泌学会雑誌,2020 Aug;96 Suppl.	Others
59	永田雄一, 竹内和人, 山本太樹, 他	脳神経外科	経鼻内視鏡手術における閉創法の工夫	日本内分泌学会雑誌,2020 Aug;96 Suppl.	Others
60	竹内和人, 永谷哲也, 渡邊督, 他	脳神経外科	下垂体機能温存を目的とした頭蓋咽頭腫摘出への挑戦	日本内分泌学会雑誌,2020 Aug;96 Suppl.	Others

61	長縄慎二	放射線科	第21回山形めまい研究会 特別講演 MR imaging of endolymphatic hydrops; What is right, what is wrong, and what is new.	耳鼻咽喉科山形 (日本耳鼻咽喉科学会山形県地方部会誌) 2020 Sep, 24: 54-55.	Original Article
62	長縄慎二	放射線科	【基調論文】CTおよびMRIなどの画像診断装置の今後の展望	月間新医療データブック・シリーズ 医療機器システム白書 2020 Dec, 2021: 14-18.	Original Article
63	長縄慎二, 田岡俊昭, 川井恒	放射線科	MRによる頭蓋内間質液・脳脊髄液動態の解明	脳とこころの研究センター 脳疾患克服に向けた次世代創薬開発のためのコホート・コンソーシアム型研究拠点形成 23	Original Article
64	竹原康雄	新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座	特集1 JRC2020web 開催徹底分析! Part2 2020web私の〇と×	Rad Fan 2020 Sep, 18 (9): 44-45.	Others
65	田岡俊昭	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	1. 脳脊髄液の動態	日獨医報 2020 Jun, 64 (2): 88-98.	Original Article
66	伊藤倫太郎	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	特集2 2030年放射線科はこう変わる CLINICAL REPORT 2030年の放射線医	Rad Fan19(2):52-53.	Others
67	伊藤倫太郎	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	MY BOOK MARK ~ 本当に使いやすい製品がこの中に ~ File No. 8 放射線科診断 専門医の私とデバイスについて	Rad Fan19(2):74-76	Others
68	伊藤倫太郎, 岩野信吾, 長縄慎二	革新的生体可視化技術開発産学協同研究講座	コロナウイルス肺炎のAi診断	臨床免疫・アレルギー科 75(2):189-193.	Original Article

69	石垣聡子, 佐竹弘子, 松本篤子, 他	放射線科	【特集】 マネジメントに苦慮する疾患: Is it benign, malignant or insignificant? 1. 甲状腺病変の診断とマネジメント	日獨医報 2020 Dec, 65 (1): 5-11.	Original Article
70	遠藤継良, 佐藤潤一, 川鱈昌吾, 他	薬剤部	経皮吸収型鎮痛消炎剤エスフルルピロフェン・ハッカ油製剤(SFPテープ)の処方変更による粘着特性の検討.	医療薬学. 2020 46 (2):109-117	Letter
71	堀田彰悟, 肥田裕丈, 松原匡希, 他	薬剤部	ベンゾジアゼピン系薬の長期使用患者におけるスポレキサントの導入に関する後方視的調査.	医療薬学. 2021 47(3):123-131	Original Article
72	野田幸裕, 岩永周子, 鳥居綾, 他	薬剤部	薬剤師外来における吸入療法指導を支援する患者シート、評価基準と連携ツールの高構築.	日本薬剤師会雑誌. 2020 72(10):1063-1072	Original Article
73	川原田由佳梨, 岸里奈, 宮川泰宏, 他	薬剤部	服薬中の授乳婦への薬剤管理指導に関する実態調査.	日本薬剤師会雑誌. 2021 57(3):329-334	Original Article
74	尾崎紀夫, 山田清文, 鳥本真由美, 他	薬剤部	精神疾患の適切な診断と評価に基づく向精神薬の適正使用	臨床精神薬理. 2021 24(5): 443-445	Original Article
75	亀井讓, 神戸未来	形成外科	顔面神経の再建	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2020.Aug;92(9):720-724	Original Article
76	伊藤 弘幸, 高成 啓介, 中村 優, 他	形成外科	膝蓋骨および大腿四頭筋の広範欠損に対して大腿筋膜付き前外側大腿皮弁による機能的再建を行った1例	日本形成外科学会会誌 2020.Sep; 40(9):489-496	Case Report

77	酒井 喜規, 後藤 縁, 田 井中 貴久, 他	救急科, 小児外科	複数個の磁石玩具の誤飲により胃穿孔および結腸穿孔を来した小児の1例(Gastric and colon perforations caused by ingestion of multiple magnetic toys in a pediatric patient: a case report)	日本救急医学会雑誌. 2021; 32: 208-12	Case Report
78	内田広夫	小児外科	知っておくべきサブスペシャルティ領域別トレーニングプログラム 知っておくべきサブスペシャルティ領域別トレーニングプログラム 小児外科(解説)	日本外科学会雑誌, 2020.7, 121(4)477-478	Others
79	田井中貴久	小児外科	基礎編 ナビゲーション Indocyanine green	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント, 2020, 62-63	Others
80	田中裕次郎	小児外科	手術術式編 胸部 および縦隔 / 食道 食道閉鎖症A型 / long gap[根治術]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント, 2020, 71-73	Others
81	城田千代栄	小児外科	手術術式編 胸部 および縦隔 / 肺, 胸腔 乳び胸[胸管結紮]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント, 2020, 97-98	Others
82	田井中貴久	小児外科	手術術式編 腹壁 および胸壁 鼠径ヘルニア[ヘルニア根治術 / SILPEC]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント, 2020, 128-130	Others
83	田中裕次郎	小児外科	手術術式編 腹部 / 胃 胃食道逆流症 [食道空腸吻合]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント, 2020, 164-166	Others

84	内田広夫	小児外科	手術術式編 腹部 /胆道 胆道閉鎖症 [肝門部空腸吻合術]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント,2020,256-260	Others
85	村瀬成彦	小児外科	手術術式編 腹部 /副腎 神経芽腫[腫瘍生検術]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント,2020,307-308	Others
86	大橋研介, 多田実, 堀佑太郎, 他	小児外科	手術術式編 泌尿器・生殖器 精巣静脈瘤[結紮術(単孔式)]	スタンダード小児内視鏡外科手術 押さえておきたい手技のポイント,2020,385-386	Others
87	千馬 耕亮, 田中 裕次郎, 城田 千代栄, 他	小児外科	腹壁破裂を合併した結腸閉鎖症に対して、器械吻合による一期的結腸吻合後 sutureless腹壁閉鎖を施行した1例	日本小児外科学会雑誌,2021.2,57(1)22-26	Case Report
88	長尾 能雅	患者安全推進部	COVID-19と患者安全	医療の質・安全学会誌. 2020 ; vol.15 no.3 (266-277)	Original Article
89	長尾 能雅	患者安全推進部	患者安全のために; 最高質安全責任者(CQSO)養成プロジェクトについて	小児科診療. 2020 ; vol.83 No.12(119-123)	Original Article
90	長尾 能雅	患者安全推進部	患者安全管理の全体像	日本整形外科学会雑誌別刷. 2020 ; 94(11)(1041-1048)	Original Article
91	長尾 能雅	患者安全推進部	[共著]病院内の医療安全(部署別管理者の注意点)	改訂第2版 医療安全管理実務者 標準テキスト. 202102;(112-115) へるす出版	Original Article

計91件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の内容 倫理審査委員会業務（利益相反マネジメント、試料等の保管、対応表の管理、有害事象、審査受託、教育等）及び 研究者の申請についての手順・方法等	
倫理審査委員会の開催状況	年46回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の内容 利益相反の定義、教職員等の責務、委員会の組織等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年5回
・ 研修の内容 「倫理委員会の歩みとこれから」「臨床介入研究（特定臨床研究）における留意点」「臨床観察研究の倫理審査」「最近の臨床研究の課題」「フルゲノム解析研究の実施に関する倫理的問題点について」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科に所属して、初期研修によって習得された基本的診療能力に上乘せられる、医師としての総合的診療能力の習得に加えて、当該診療科で実施されている先進的な医療に特化した研修を行うことで、医師としての広くかつ専門的経験を蓄積しながら、専門医資格の取得等を目指す後期研修を実施している。

また、新しい専門医制度の平成30年4月開始に伴い、全19領域の基幹病院として、日本専門医機構に提出した各領域のプログラムに基づき、専門医師資格の取得を目指す後期研修を実施している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	197人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
佐藤 寿一	総合診療科	病院教授	35年	
葛谷 雅文	老年内科	教授	38年	
清井 仁	血液内科	教授	35年	
室原 豊明	循環器内科	教授	36年	
石上 雅敏	消化器内科	准教授	30年	
橋本 直純	呼吸器内科	准教授	27年	
有馬 寛	糖尿病・内分泌内科	教授	33年	
丸山 彰一	腎臓内科	教授	32年	
勝野 雅央	脳神経内科	教授	26年	
江畑 智希	消化器外科一	教授	31年	
中山 吾郎	消化器外科二	准教授	28年	
古森 公浩	血管外科	教授	39年	
小倉 靖弘	移植外科	病院教授	30年	
菊森 豊根	乳腺・内分泌外科	講師	32年	
碓氷 章彦	心臓外科	教授	40年	
芳川 豊史	呼吸器外科	教授	24年	
亀井 譲	形成外科	教授	36年	
内田 広夫	小児外科	教授	32年	
西脇 公俊	麻酔科	教授	37年	
高橋 義行	小児科	教授	29年	
梶山 広明	産科婦人科	教授	26年	
尾崎 紀夫	精神科	教授	39年	
今釜 史郎	整形外科	教授	24年	
西口 康二	眼科	教授	24年	
秋山 真志	皮膚科	教授	35年	
加藤 真史	泌尿器科	准教授	25年	
曾根 三千彦	耳鼻いんこつ科	教授	34年	
長縄 慎二	放射線科	教授	34年	

齋藤 竜太	脳神経外科	教授	23年
後藤 縁	救急科	病院講師	13年
西田 佳弘	リハビリテーション科	病院教授	33年
日比 英晴	歯科口腔外科	教授	34年
下山 芳江	病理部	准教授	24年
八木 哲也	中央感染制御部	教授	33年
小谷 友美	総合周産期母子医療センター	准教授	25年
安藤 雄一	化学療法部	教授	31年
錦織 宏	卒後臨床研修・キャリア形成支援センター	教授	23年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>【看護部】 看護部は、専門職として自律し、主体的に看護活動ができる看護師の育成を目指して、研修・教育を実施している。新人を対象とする卒後臨床研修制度は、基礎的な看護の知識・技術・態度の習得を図る、看護師としての実践力を身につけること、を目標としている。この制度の研修の1つにフィジカルアセスメントを中心とした Savinglifeナース育成研修がある。これは患者の変化を早急に気づき、患者の早期回復に向けた看護実践ができる看護師を育成するための研修である。看護職員全員が3年間をかけてこの研修を修了している。この他に、高度急性期病院の役割を果たすための病院研修として救命講習会があり、全職員が2年に1度一次救命講習会に参加している。また、手術室、集中治療室等、ハイリスクエリアと定めた部門の職員は、2年に1度二次救命講習会に参加している。全看護職員は、2年間をかけこの講習会に参加している。</p> <p>【医療技術部】 「ロジカルシンキング」論理的なコミュニケーション方法に関する研修</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>【看護部】 2020年4月～2021年3月 48のプログラム、延べ429時間（オリエンテーション時の研修含む） 一次救命、二次救命講習会は12回開催</p> <p>【医療技術部】 令和3年2月19日（金）18：00～19：00・1回</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>【看護部】 延べ5409人（オリエンテーション参加人数：延べ2292人含む）</p> <p>【医療技術部】 113名</p>
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>【臨床研究セミナー】 臨床研究を担う人材の育成を目的とし、臨床研究に従事する職員（医師及び歯科医師含む）、研究者、大学院生等を対象として、先端医療開発部が毎月1、2回程度開催している。講習内容は毎回異なり、法規、知財、モニタリング等、多岐に渡るテーマでセミナーを実施している。</p>

- ・研修の期間・実施回数
1 セミナーにつき 1 時間半
令和 2 年度は延べ 17 回開催した。(DVD上映でのセミナー 4 回を含む)
- ・研修の参加人数
令和 2 年度は延べ 3,392 名が受講した。(DVDでの受講者 410 名を含む)

他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 小寺 泰弘
管理担当者氏名	副病院長、患者安全推進部長 長尾 能雅 副病院長、電子カルテ管理室長 松下 正 病院長補佐、薬剤部長 山田 清文 総務課長 正木 純一 医事課長 土屋 有司

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	中央管理
		処方せん	中央管理
		手術記録	中央管理
		看護記録	中央管理
		検査所見記録	中央管理
		エックス線写真	中央管理
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央管理
		・ 疾病分類 ICD-10	
		・ 管理形態 外来カルテ・入院カルテ 1患者1電子カルテで 中央管理(一部紙媒体にて保存)	
		・ 持ち出しに関する取扱い 診療録の持ち出しは原則禁止としている。エックス線写真の持ち出しは、名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項第12及び第13のとおり の取扱とする。(別添参照)	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営企画課, 医事課
		高度の医療の研修の実績 閲覧実績	人事労務課 総務課, 医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	患者安全推進部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	患者安全推進部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	患者安全推進部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	患者安全推進部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	患者安全推進部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	患者安全推進部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	患者安全推進部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	患者安全推進部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課 ,臨床工学技術部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	患者安全推進部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	患者安全推進部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	患者安全推進部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	電子カルテ管理室
		医療安全管理部門の設置状況	患者安全推進部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	患者安全推進部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	患者安全推進部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者安全推進部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	監査室
		職員研修の実施状況	患者安全推進部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項

(趣旨)

第1 名古屋大学医学部附属病院(以下「病院」という。)における病歴等の管理については、この要項の定めるところによる。

(目的)

第2 病歴等の管理は、医学部、大学院医学系研究科及び本院(以下「病院等」という。)における診療・教育及び研究に資することを目的とする。

(定義)

第3 この要項において病歴等とは、本院の患者に係る診療録、X線フィルム及びそれらの付属書類(以下「診療録等」という。)をいう。

(退院時要約の作成)

第4 全診療科において医師は、全退院患者についての退院時要約を作成する。

2 前項に規定する退院時要約の作成に関し必要な事項は、名古屋大学医学部附属病院病歴等管理要項実施細則第2条及び第3条に定める。

(プライバシーの確保)

第5 病院等の職員及び診療録等の閲覧又は貸出(以下「閲覧等」という。)を希望する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 一 診療情報の秘密保護に関する事項
- 二 患者情報等の秘密保護に関する事項
- 三 複写の禁止に関する事項
- 四 データの保護に関する事項
- 五 その他診療録等の情報管理に関する事項

(診療録等の管理責任者)

第6 診療録等を適正に管理するため、診療録等管理責任者(以下「管理責任者」という。)を置き、診療担当副院長をもって充てる。

(診療録等の管理区分)

第7 診療録等の管理は、管理責任者及び医事課が行う。

2 平成29年12月31日以前の電子媒体上に記録されていない、名古屋大学医学部附属病院病院情報管理システム管理運用要項施行細則(以下「施行細則」という。)第11条に規定する対象文書等については、電子媒体上にスキャン取込み後、原本を保管する。

3 平成30年1月1日以降に電子媒体上にスキャン取り込みされた施行細則第11条に規定される対象文書等については、電子化された情報を原本とする。

(診療録等の保存)

第8 診療録等の保存期間は、次のとおりとする。

- 一 外来診療録、入院診療録等 受診した診療科の最終受診日から5年間
- 二 診療録等をマイクロフィルム化及び電子化したもの 永久

2 診療録等の保管方法及び保存期間を経過した診療録の取扱いについては別に定める。

(診療録等の閲覧及び貸出)

第9 診療録等は、原則として診療、教育・研究、公法上の規定及び医事調査等による目的以外は

閲覧等を許可しないものとする。

- 2 診療録等の閲覧等及び検索に係る遵守事項については、別に定める。
- 3 診療に必要な外来診療録，入院診療録等は各診療科の依頼に応じ，医事課が迅速に提供する。

（診療録等の閲覧等の資格）

第10 診療録等の閲覧等ができる者は，次の者とする。

- 一 病院等に所属し，診療に従事している医師及び歯科医師
- 二 診療従事者として病院長の承認を得た医師及び歯科医師
- 三 前各号に掲げる者のほか，病院長又は管理責任者が許可した者

（診療録等の閲覧等の申請及び許可）

第11 医事課が管理する診療録等の閲覧等を希望する者は，医事課が管理する「診療録等閲覧・貸出申込書」（以下「申込書」という。）を医事課に提出し，許可を得るものとする。

- 2 医事課は，前項の申込書を受理した場合は，閲覧等の資格及び利用目的を確認し，適当であると判断した場合に閲覧等を許可するものとする。
- 3 閲覧は医事課内で行うこととし，貸出は病院等の範囲内とする。

（X線フィルムの院外貸出）

第12 前条第3項の規定にかかわらずX線フィルムの院外貸出については，次に掲げる要件を満たす場合に許可することができるものとする。

- 一 都道府県及び市町村の条例等により，公費負担医療受給申請書等にX線フィルムの添付が求められている場合の患者（患者が未成年の場合の保護者を含む。）への貸出
- 二 労災認定等の資料としてX線フィルムの提出が求められている場合の労働基準監督署への貸出
- 三 診療上の必要事由による他の医療機関への貸出

2 前項第一の貸出の判断は，当該患者が受診している診療科の主治医が行うものとし，主治医が退職している場合にあっては，当該診療科長が判断する。

（診療録等の閲覧等の期間）

第13 診療録等の閲覧等の期間は14日間とする。

2 X線フィルムの院外貸出期間は，前項の規定にかかわらず原則として次のとおりとする。

- 一 公費負担医療受給申請及び労災に係るもの 1月以内
- 二 その他のもの 2週間以内

3 閲覧等の期間終了後なお閲覧等の必要がある場合は，医事課の許可を得るものとし，継続できる閲覧等の期間は，前回の閲覧等期間満了日から14日以内とする。

4 閲覧等の期間内であっても，診療上，当該診療録等が緊急に必要な場合は，直ちに返却するものとする。

5 医事課が管理する診療録等は，医事課内の所定の場所に返却するものとする。

（時間外及び休日等の閲覧等）

第14 土曜日，日曜日，祝祭日及び12月29日から翌年1月3日における医事課が管理する診療録等の閲覧等については，あらかじめ許可を得ているものを除き，診療上，当該患者の診療録等が緊急に必要な場合にのみ許可する。

2 前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う者は，当該診療録等の所在確認のため，申込書に必要事項を記載して所定の整理箱に投函しておくものとする。

3 前項により医事課が管理する診療録等の閲覧等を行う場合は、閲覧等を行う者が警務員室から医事課の鍵の貸出を受けて入室し、退出時は消灯、施錠等の確認を行い、貸出を受けた鍵は退出後速やかに警務員室に返却するものとする。。

(雑則)

第 15 この要項の実施に関し必要な事項は、名古屋大学医学部附属病院病歴管理委員会の議を経て病院長が定める。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 22 年 3 月 10 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 24 年 4 月 11 日から実施し、平成 24 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この要項は、平成 28 年 9 月 14 日から実施する。

附 則

この要項は、令和 3 年 4 月 14 日から実施し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	総務課長 正木 純一		
閲覧担当者氏名	総務課課長補佐 嶽盛 幸枝		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要 病院の管理及び運営に関する諸記録は、公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、保有する法人文書ファイルとして、名称、保存期間、文書管理者、保存場所、その他の事項を記載した法人文書ファイル管理簿を作成し、一般の閲覧に供するとともに、公表しています。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者安全管理に関する基本的な考え方 ・ 組織に関する基本的事項 ・ 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針 ・ 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者との間の情報の共有に関する方針 ・ 患者からの相談等への対応に関する基本方針 	
医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 ((有) 無) ・ 開催状況：年 17 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療事故発生の防止に努め、かつ、発生した医療事故への適切な対応及び病院全体の医療の質向上を積極的に図るため、次の事項を審議する。 ・ 医療事故の防止及び医療安全推進に関する事項 ・ 医療上の紛争処理に関する事項 ・ 医療の質向上に関する事項 	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： ・ 全職員、外注業者を対象として、「IPSG.1患者を2つの方法で正しく確認する」「IPSG.2コミュニケーションを効果的に行う」「IPSG.6入院患者における転倒・転落による傷害リスクを低減する/IPSG.6.1 外来患者における転倒・転落による傷害リスクを低減する」「患者安全に関する外部情報の活用」「さらなる安全文化の醸成へ向けて」「患者確認手順の遵守のお願い」「“インシデント患者影響度レベル”の変更について」等をテーマとした研修を実施 ・ TeamSTEPPS研修 (導入コース) を計2回実施し、79名が受講した ・ TeamSTEPPS研修 (アドバンスコース) を計3回実施し、125名が受講した ・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に患者安全ポケットガイドの内容について研修を実施 ・ 平成28年度からは、各種会議で患者安全推進部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。 	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門とのインシデント検討会にて報告事例を審議し、改善に結びつける。(25回開催) ・ 重大事故に関しては外部委員主導の事故調査委員会などを開催し、そこで得られた分析結果や提言を踏まえ、再発防止に結びつける。(5回開催) ・ 多職種が関連した事例等については、カンファレンス形式による検討会を開催し、改善に活かしている。(0回開催) ・ インシデント報告総件数 (13,183件) 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策のための委員会と組織 ・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する事項 ・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 病院感染リスクアセスメントに基づいた感染対策の立案 ・ 抗菌薬適正使用の推進 	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <p>院内感染の防止に努めるとともに、発生した感染事例について適切な対応を図る。 これらの活動のため、次の事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染の予防及び対策等に関する事項 ・ 患者の取扱いに関する事項 ・ 医療従事者への感染予防に関する事項 ・ その他院内感染、難治感染症対策及び抗菌薬適正使用に関する事項 	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員、外注業者を対象として、「院内感染対策と抗菌薬適正使用について」「名大病院における新型コロナウイルス感染症対策について」「手指衛生について」「抗菌薬適正使用」「院内感染対策と抗菌薬適正使用そしてCOVID-19 対策について」等をテーマとした研修を実施 ・ 清掃業者を対象として、「病院の清掃で必要なこと」「自分が感染しない・自分が感染を広げないために必要なこと」をテーマとした研修を実施 ・ 新規・中途採用職員を対象として、採用時に「針刺し・血液体液曝露」などをテーマとした研修を実施 	
感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全病棟と外来、部門を対象に感染対策の知識、手指衛生などの感染対策の実施状況、環境整備のチェックを中心としたICTラウンドの実施 ・ MRSAなどの薬剤耐性菌等の新規検出症例数の独自介入基準を設け、基準に合致した部署に対して手指衛生観察巡回などを実施し、手指衛生や感染経路別対策感染対策の強化を図っている ・ NICUとの定期的なミーティングの実施、SICU/EMICUのミーティングへの参加 ・ 抗菌薬適正使用の推進を目的とした薬剤部とのミーティング ・ 診療科横断的な感染症症例コンサルテーションと血液培養陽性例への介入 ・ 4職種の実務的メンバーによるICTコアミーティングを週1回行い、全病院的に感染対策が漏れなく実施されるよう検討・管理している 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>医薬品安全管理責任者の配置状況</p>	<p>○有・無</p>
<p>従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況</p>	<p>年 6 回</p>
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用：医薬品覚醒剤原料の取扱い変更、ハイアラート薬・外観・名称類似薬リストの変更、濃厚電解質の安全な使用の管理、定数配置約使用時の注意点)を実施した。 ・ 医師・歯科医師・看護師・薬剤師・医療技術部職員を対象とした医薬品の安全使用に係る研修(薬剤の管理と使用：オキシコンチンTR錠 慢性疼痛使用時の留意点、IPSG 3 (ハイアラート薬の安全性を高める)方針・手順書のポイント、MMU (薬剤の管理と使用) 方針手順書のポイント)を実施した。 ・ 入職時職員を対象とした研修(入職時オリエンテーション：医薬品)を実施した。 ・ 中途採用者を対象とした研修(入職時オリエンテーション：医薬品)を実施した。 ・ 新任看護師を対象とした研修(薬剤管理、薬剤管理)を実施した。 ・ 研修医を対象とした研修(薬剤安全プログラム・医薬品の取り扱いについて)を実施した。 	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (○有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品安全管理責任者の業務に関する事項、医薬品の採用・購入に関する事項、医薬品の管理に関する事項、患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項、患者に対する与薬や服薬指導に関する事項、医薬品の安全使用に係わる情報の取り扱いに関する事項、ハイアラート薬の取り扱い、名称類似および外観類似薬の取り扱い、他施設との連携に関する事項、適応外の使用、禁忌等の処方に係わる確認および指導に関する事項、院内製剤の取り扱いに関する事項、外来化学療法に関わる事項、重大な有害事象の予防・対応に関する事項、医薬品関連の情報システムに関する事項、医薬品の安全使用のための業務手順書に基づく業務の遂行に関する事項 	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <p>【1】 総合周産期母子医療センター新生児部門の医師より、生後15週目以降のNICU/GCU入室中の患児に対するロタウイルスワクチンの使用について以下の質問があった。 質問：「ロタリックスの添付文書の接種対象者・接種時期の項目について『生後6週から初回接種を開始し、少なくとも4週間の間隔をおいて2回目の接種を完了する。遅くとも生後24週までには接種を完了させること。また、早期産児においても同様に接種することができる。なお、初回接種は生後14週6日までに行うことが推奨されている。』と記載されている。また、接種不适当者の中には、15週以降の児という項目はない。学会からの文書より使用にあたり説明同意書は必要と考えているが、添付文書の記載からは、15週以降の初回接種者が適応外使用に該当しないと思われるが、どうか。」 総合周産期母子医療センターでは、2020年10月よりロタウイルスワクチンが定期接種となったため、NICU/GCUに入院中の患児にもロタリックスの接種を検討していた。ただし、NICUの超早産児や重症児では、病状から初回接種の時期が推奨(15週未満)から外れてしまう可能性があった。また、小児科学会、日本新生児成育医学会からはいずれも、原則として生後15週以降の初回接種は推奨しないが、長期入院等の何らかの医学的理由により接種機会を得られなかった乳児については、十分な検討と保護者への説明と同意の上で接種することが提言されていた。 本件の対応として、推奨時期に関する情報収集を収集した。 はじめに国内でのロタウイルスワクチンの初回接種時期についての資料を確認した。2012年4月24日薬食案発0424第1号の改訂指示により、初回接種の推奨時期が追記となっていた。ロタリックスイ</p>	

ンタビューフォームにはその経緯として、米国アメリカ疾病予防センターから recommendation が公表されていること、国内外の臨床試験ならびに過去に発売されていたロタウイルスワクチン接種後の腸重積症発現状況（初回接種時の年齢が高いほど腸重積症の発生率が高いこと、また初回接種時の月齢が6カ月の乳幼児で腸重積症の発生率が高いこと、また初回接種時の月齢が6カ月の乳児で腸重積症発生率のピークであること）に基づき接種時期を添付文書の通りに設定したとされていた。また、初回接種が生後15週以降の乳児は臨床試験の対象患者ではないため有効性及び安全性のデータはないこと、投与量は初回接種が生後15週以降でも同じであること、添付文書には「早期産児においても同様に摂取することができる。」と記載あることも確認した。

次に海外での情報として米国・欧州・オーストラリアの添付文書を確認し、生後15週以降の初回接種については禁忌や不適合者といった記載はなく、記載内容としては、本邦の添付文書と大きな違いはないようであった。

薬剤部で確認した内容を医師に情報提供し、診療部門内で添付文書および各資料の内容、医療上のリスク等を踏まえての検討の依頼をした。その後、初回接種が15週0日以降になる場合のロタウイルスによる胃腸炎の予防を対象として適応外使用申請された。その申請は未承認新規医薬品等評価委員会にて審査、承認され、医薬品安全管理責任者により適当と判断された。

【2】

当院ではこれまでに産婦人科、歯科口腔外科から院内製剤の染色用ルゴール液が申請され、使用されていた。その院内製剤とは別に消化器内科で試薬ヨウ素液を胃カメラでの検査および治療時に使用しているとの情報を得たため確認したところ、試薬を使用していることがわかった。消化器内科に他科より同様に染色目的で院内製剤のルゴール液の適応外使用申請されていることを情報提供し、院内製剤ルゴール液が適応外使用申請されることとなった。

適応外使用申請書類の確認の過程でルゴール液による副作用軽減のためにチオ硫酸ナトリウム注射液を染色部位に噴霧する適応外使用をしていることを確認したため、それらをお合わせた使用として申請することになった。

適応外使用申請の書類には説明同意文書が含まれるが、本件についてはルゴール液を用いた胃カメラによる検査・治療について患者にわかりやすく説明すること、適応外使用と胃カメラそれぞれについての説明同意の取得忘れ防止のため、それらをお合わせた説明同意文書を作成した。院内製剤ルゴール液の適応外使用の審査で未承認新規医薬品等評価委員会の委員より、胃カメラについては同意するが、ルゴール液の使用は同意しない場合にどのように対応するかとの指摘があり、議論となった。消化器内科からはひとつの説明同意文書で患者の意思を確認できる説明同意文書の書式の希望があった。患者安全推進部所属の弁護士に意見を聞き、説明文書に「適応外使用の薬剤を用いる検査であることについて」の項を設け、同意書に他の説明と併せて適応外使用についての説明を受けたかを確認するボックスを作成した。更に、同意文書内にある、説明を受けて患者の意思を示す欄に「適応外使用の薬剤を用いた検査に同意いたします。」、「適応外使用の薬剤を用いず、検査を行うことに同意いたします。」、「今回は同意いたしません。」、「セカンドオピニオン等、再度検討させていただきます。」を設定し、そのうちひとつをチェックすることで意思表示をする書式とした。なお、本件の説明同意文書は、適応外使用であるルゴール液については未承認新規医薬品等評価委員会、胃カメラに検査および治療についてはインフォームドコンセント委員会で審査した。

・その他の改善のための方策の主な内容：

- ・薬剤部のペイシエントセイフティマネジャーおよび病棟担当薬剤師が、診療科（部）、病棟、中央診療施設などにおいて、患者安全推進部と連携して、各部署内における医薬品の安全管理に関する指導を行っている。
- ・医薬品に係わる適正使用に関する情報や副作用情報を薬事委員会や患者安全推進委員会等で報告している。
- ・必要に応じて薬品情報室から安全使用のための情報を文書にて各病棟、外来診療科、その他の部署に配布するとともにメールにて配信している。さらに、電子カルテのDI参照のお知らせ画面、薬剤部ウェブサイトにも安全使用のための情報を掲載し職員への周知徹底に努めている。
- ・重要度の高い情報については、電子カルテのトップページや院内広報：薬剤部ページにも掲載している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	① 有 無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	随時
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器・除細動器など特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる機器に関して、医療機器総合管理部が年2回実施。 ・放射線部門にて直線加速器と放射線照射装置に関する年2回の定期研修を実施。 ・その他の医療機器についても各部署にて適宜勉強会を実施。 (随時実施) ・新卒者のオリエンテーションにて、医療機器の安全使用のための研修を実施。 ・研修医や看護師を対象に臨床工学技士・メーカーによる研修の実施。 	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (① 有 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器の管理を医療機器管理ソフトにて行っており、購入日・使用場所・保守点検状況等の管理を行っている。 ・臨床工学技士が生命維持管理装置(人工心肺・血液浄化・不整脈・心臓カテーテル・OPE・ICU関連)の操作・保守点検・管理を行っている。 ・院内で中央管理する機器の定期点検は電気安全解析装置などのシミュレーターを用いて実施している。また交換パーツについてはメーカー講習会を受講し、供給を受けて院内で行っている。 ・ダヴィンチやX線撮影装置など保守契約を結んでいるものについては、機器の空き状況を確認し実施している。 ・手術室および臨床工学技術部に委託業者が常駐して医療機器の日常点検や不具合発生時の対応などを行う、医療機器保守管理業務契約を締結している。 ・その他医療機器についても、必要に応じ定期点検等の保守契約を結んでいる。 	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (① 有 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ・ 未承認については、生体分解性食道ステントを適用外使用した事例。 小児の特殊型先天性食道閉鎖症の吻合部狭窄に対してバルーン拡張術を3週間毎に5回施行するも、著明な胃食道逆流症の影響により数週間で再狭窄を生じ、経口摂取が困難となっている症例。成人ではこの場合食道ステント治療が実施されるが、小児に適した製品が存在しない。米国など海外において承認され、良性の食道狭窄に対して使用されている生体分解性食道ステントの最も小さな規格であれば小児患者にも使用可能であるが、国内では未承認である。食道の吻合部狭窄に対しては、成長を待って再手術を検討中であるが、それまでの間、小児の発達に重要な嚥下や咀嚼を可能にするため、生体分解性食道ステント留置を実施した。 ・ 適用外については、R2年度の実績は下記3件。 1. 原発性膜性腎症に対するLDL吸着器リポソームLA-15を使用したLDLアフェレーシス療法 2. 胎児総排泄腔遺残に伴う胎児腹水に対するダブルバスケツトカテーテルを使用した胎児腹腔羊水腔シャント術 3. 栄養カテーテル/エンテラルフィーディングチューブ/胃瘻チューブによる腸管減圧 	

- その他の改善のための方策の主な内容：
PMDAやメーカー、納入業者からの報告を受理し、CEニュース(臨床工学技術部による院内広報)や医療機器総合管理部が発出するMDI(Medical Device Information)通知メール、電子カルテに掲載するなど電子媒体を利用して関連部署での情報共有を実施している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格(医師 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者を配置しており、患者安全推進部長、患者安全推進委員会委員長を務め、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有(10名)・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報は、整理した上で薬事委員会月例報告として院内へ周知している。周知状況の確認は、各診療科の薬事委員が周知完了報告を薬剤部薬品情報室に提出することにより行っている。また、各診療科の周知状況は薬事委員会にて報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>(適応外)</p> <p>適応外については、薬品情報室が未承認新規医薬品等評価委員会承認した適応外使用医薬品を「適応外投与(承認)一覧」として部内に配信し情報を共有している。薬剤師は処方監査時に適応外使用を把握した場合は、患者への説明及びカルテへの記載が必要であること、未承認新規医薬品等評価委員会への申請が必要であることを医師に指導して記録を残している。</p> <p>(禁忌)</p> <p>禁忌処方をチェックするシステムは電子カルテ上にあり、医師が処方確定時にアラートが表示される。また、薬剤部で印字された処方せんの下部にもアラートが印字される。薬剤師は処方監査時にこのアラート情報を確認し、個別に医師へ連絡し、当該医師の対応方針を確認した後に記録を残している。</p> <p>(未承認薬)</p> <p>未承認薬は未承認新規医薬品等評価委員会へ申請し承認を得た上で使用されている。副作用報告や個別の経過報告を行っている。</p> <p>未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門については、「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品取扱要項」および「名古屋大学医学部附属病院未承認新規医薬品等評価委員会に関する要項」を制定した。</p>	

<p>・担当者の指名の有無(有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有) 無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有) 無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：目的、方針、適応範囲、定義、役割と責任、遵守と監視、手順、説明と同意の種類、説明と同意の確認のプロセス、説明・同意書の文書様式、説明及び同意に関し問題が起こった場合、等</p>	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>「診療録等内部監査要項」に基づいてカルテ記載の確認し、その結果を毎月病院機能改善本部会議で報告をしている。該当診療科の病歴管理委員へフィードバックし診療情報の精度向上に努めている。</p>	
医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<p>・所属職員：専従(9)名、専任()名、兼任(8)名</p> <p>うち医師：専従(3)名、専任()名、兼任(5)名</p> <p>うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任(2)名</p> <p>うち看護師：専従(3)名、専任()名、兼任()名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全部門からのインシデント・アクシデント情報の集積と分析 ・ 院内の伝達会議、安全研修、学生教育等による周知、啓発 ・ 重大アクシデントに対し、病院全体で対応できる治療連携体制の起動 ・ 医療事故に対する第三者による事例検証(医療事故調査) ・ 適切なインフォームド・コンセント体制の整備 	

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（12件）、及び許可件数（11件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・活動の主な内容：
 - ・申請内容を確認するとともに、委員会に対し提供の適否等について意見を求める。
 - ・部門の長は、委員会の意見を踏まえ提供の適否等について決定し診療科長へ通知。
 - ・部門の長は、適正な手続きに基づいて提供されたかについて、定期的、又は患者が死亡した場合には、手術記録、診療録等の記載内容を確認。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有 無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有 無）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・医薬品における前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(0件)、及び許可件数(0件)
- ・医療機器における前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数(1件)、及び許可件数(1件)
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）

活動の主な内容：

(医薬品の場合)

診療科の申請医師は申請書類を薬剤部未承認新規医薬品等管理室に提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は申請書類(申請書、説明同意文書、確認表)と引用文献等の内容を確認し、疑義等について申請者に回答の依頼をする。その後、未承認新規医薬品等評価委員会にて評価委員が申請内容を審査する。事前に評価委員から指摘事項等を挙げ、その内容を申請医師に連絡する。申請

医師は書類の修正等委員会前にできるだけ対応し、未承認新規医薬品等評価委員会で申請内容の説明、指摘事項等の回答等をする。

申請が適当と判断され、患者に使用された後、申請医師は定期的に経過報告書を提出する。未承認新規医薬品等管理室の薬剤師は、同意の取得、副作用がモニタリングされているか等遵守状況について確認を行う。

(医療機器の場合)

未承認新規医療機器等の使用の適否及び使用条件について、医療機器選定委員会にて審議した。使用医療機器の必要性や安全性、患者への同意書の内容について重点的に審議した。また、過去に承認し、継続的に使用している未承認新規医療機器についても、使用状況、不具合事例がなかったかを審議した。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 309 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 728 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
死亡状況の確認及び審議

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：浜松医科大学) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：岐阜大学) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

インシデントやアクシデントの報告等の状況、医療安全管理委員会の業務の状況、医薬品等の安全使用体制の状況、高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の適否等を決定する部門の運用状況、監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況について紙面調査を受けたが、立ち入り病院からは疑義・確認させていただきたい事項は無い旨の通知があった。当院では引き続き、現在の安全に係る運営体制の実効性を維持するように努めていく。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

地域連携・患者相談センター：相談窓口にて一次対応を行なっている。

安全管理に関連する事案については、医療の質・安全管理部と連携しながら適切に応じる体制を整えている。

各種相談については、担当者が対応。

地域連携・患者相談センター：相談員 4名、MSW 11名、看護師 10名

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- ・全職員、外注業者を対象とした研修で、インフォームドコンセント、公益通報窓口の設置等について説明を行った。
- ・TeamSTEPPS研修を計5回実施し、204名が受講した。
- ・新規・中途採用職員を対象として、採用時に医療安全ポケットガイドの内容について研修を実施。
- ・平成28年度からは、各種会議で医療の質・安全管理部から周知した重要伝達事項について、各職員の理解度を確認するため、簡易なテストを実施し、解説を行っている。
- ・e-learning研修を導入し、研修実施後の学習効果の測定を行っている。

(注) 前年度の実績を記載すること(の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修」を受講した。

(注) 前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2019年2月にJCIによる認証を受けており、2022年2月に再審を受ける予定。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

病院ホームページの学内専用サイトに掲載する等して、構成員向けに周知している。

・評価を踏まえ講じた措置

特に改善を要すると指摘された9項目について改善計画を策定し、毎月の関係会議にて対応状況を報告させることでモニタリングを実施している。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

1. 人格が高潔で、学識が優れ、医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。
2. 医学部附属病院等における学生への教育、学術研究及び社会貢献に関して、調和のとれた運営を行うことができる者であること。
3. 医学部附属病院の運営にあたり、構成員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。
4. 診療、臨床教育、臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち、多職種からなる構成員に対して、優れたリーダーシップを発揮できる者であること。
5. 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。
6. 医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。
7. 国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。
8. 医学部附属病院の現状を正確に分析するとともに、中長期的な目標に向かって将来ビジョンを具体的かつ明確に示し、全学及び医学部附属病院の課題について、総長と連携して取り組むことができる者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法

ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無			有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の経営，管理及び人事に関する企画，立案及び方針を決定する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会において各診療科長に報告するとともに、病院連絡会において各医局長に決定事項を周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 (無)) ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
小寺 泰弘		医師	病院長
西脇 公俊		医師	副病院長
曾根 三千彦		医師	副病院長
丸山 彰一		医師	副病院長
長尾 能雅		医師	副病院長
松下 正		医師	副病院長
藤井 晃子		看護師	副病院長
永家 清考		事務	副病院長
安藤 雄一		医師	病院長補佐
白鳥 義宗		医師	病院長補佐
山田 清文		薬剤師	病院長補佐
阿部 真治		診療放射線技師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 無 ）

- ・ 公表の方法
名古屋大学ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容

病院長の権限に関する内容は下記のとおり

- ・ 病院長は、病院の管理、運営をつかさどり、所属職員を統督する。
 - ・ 病院長は、病院で行われる診療について、その実施状況の報告を求め、又は自ら調査し、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる
 - ・ 部長、科長、センター長、部門長等（以下「部長等」という。）の任命は、病院長が行う。
 - ・ 病院長は、部長等が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、これを免ずることができる。
 - 一 勤務実績がよくない場合
 - 二 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
 - 三 その他必要な適性を欠く場合
 - ・ 部長等は、別に定める手続きを経ることなく、その意に反して免ぜられることはない。
 - ・ 病院長は、第4項の規定により部長等を免じたときは、その理由を明らかにしなければならない。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長は、病院長から指示された具体的な事項を担当し、及び病院長が海外渡航等で不在の場合は、あらかじめ病院長が指名した副院長が、病院長の職務を代行する。
副院長は、病院長の職務を円滑に遂行させるため、病院の管理・運営等に関する企画・立案にかかわるとともに、広報の職務又は病院の教育・研究・診療にかかわる職務を分担する。
病院長補佐は、病院全体の立場に立ち、病院の管理・運営等に関し提案された企画立案等を検討し、病院長に提言する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修」を受講。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下に掲げる事項を監査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に係る体制 ・ 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況 ・ 医療の質・安全管理部の業務の状況 ・ 医療の質向上と安全推進委員会の業務の状況 ・ その他医療安全管理に関して必要な事項 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>名古屋大学医学部附属病院ホームページにおいて公開</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会		愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
三島 信彦	A01 名古屋病院		A01 名古屋病院 病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
長谷川 ふき子	成田・長谷川法律相談所		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	有・無	1

芦田 豊	全国健康保険協会愛知支部		全国健康保険協会愛知支部長を務めており、医療を受ける者として、医療に係る高い見識を有しているため。	有・無	2
中東 正文	名古屋大学		総長が指名する理事・副総長	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

名古屋大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規程、内規等の整備状況及び実施状況、年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況、人事管理状況などについて監査を行っている。

また、「東海国立大学機構における内部統制システムの整備及び運用に関する規程」を整備し、病院も含めた全学の業務状況を確認するため、内部統制委員会を年一回開催することとしている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法

名古屋大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 東海国立大学機構役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長、又は副病院長が出席し審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況 (年 26 回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) (年 2 回) ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 名古屋大学ホームページで公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 名古屋大学ホームページに掲載するとともに、職員に配付している「医療安全ポケットガイド」においても掲載し、案内している。

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容

1. 人格が高潔で、学識が優れ、医学部附属病院内外の信頼を得ることができる者であること。
2. 医学部附属病院等における学生への教育、学術研究及び社会貢献に関して、調和のとれた運営を行うことができる者であること。
3. 医学部附属病院の運営にあたり、構成員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う強い指導力を発揮することができる者であること。
4. 診療、臨床教育、臨床研究など大学病院特有のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を持ち、多職種からなる構成員に対して、優れたリーダーシップを発揮できる者であること。
5. 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。
6. 医学部附属病院の安定的財政基盤の確立と効率的な組織編成を実現できる総合的運営能力を有する者であること。
7. 国際的な視野を持って医学部附属病院の運営を行うことができる者であること。
8. 医学部附属病院の現状を正確に分析するとともに、中長期的な目標に向かって将来ビジョンを具体的かつ明確に示し、全学及び医学部附属病院の課題について、総長と連携して取り組むことができる者であること。

- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

- ・ 公表の方法

ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関 係
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院の経営，管理及び人事に関する企画，立案及び方針を決定する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 病院部長会において各診療科長に報告するとともに、病院連絡会において各医局長に決定事項を周知している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (有 (無)) ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
小寺 泰弘		医師	病院長
西脇 公俊		医師	副病院長
曾根 三千彦		医師	副病院長
丸山 彰一		医師	副病院長
長尾 能雅		医師	副病院長
松下 正		医師	副病院長
藤井 晃子		看護師	副病院長
永家 清考		事務	副病院長
安藤 雄一		医師	病院長補佐
白鳥 義宗		医師	病院長補佐
山田 清文		薬剤師	病院長補佐
阿部 真治		診療放射線技師	病院長補佐

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 無 ）

- ・ 公表の方法
名古屋大学ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容

病院長の権限に関する内容は下記のとおり

- ・ 病院長は、病院の管理、運営をつかさどり、所属職員を統督する。
- ・ 病院長は、病院で行われる診療について、その実施状況の報告を求め、又は自ら調査し、必要に応じて是正又は停止を命ずることができる
- ・ 部長、科長、センター長、部門長等（以下「部長等」という。）の任命は、病院長が行う。
- ・ 病院長は、部長等が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、これを免ずることができる。
 - 一 勤務実績がよくない場合
 - 二 心身の故障のため職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合
 - 三 その他必要な適性を欠く場合
- ・ 部長等は、別に定める手続きを経ることなく、その意に反して免ぜられることはない。
- ・ 病院長は、第4項の規定により部長等を免じたときは、その理由を明らかにしなければならない。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長は、病院長から指示された具体的な事項を担当し、及び病院長が海外渡航等で不在の場合は、あらかじめ病院長が指名した副院長が、病院長の職務を代行する。
副院長は、病院長の職務を円滑に遂行させるため、病院の管理・運営等に関する企画・立案にかかわるとともに、広報の職務又は病院の教育・研究・診療にかかわる職務を分担する。
病院長補佐は、病院全体の立場に立ち、病院の管理・運営等に関し提案された企画立案等を検討し、病院長に提言する。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2020年度特定機能病院管理者研修」を受講。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下に掲げる事項を監査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に係る体制 ・ 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況 ・ 医療の質・安全管理部の業務の状況 ・ 医療の質向上と安全推進委員会の業務の状況 ・ その他医療安全管理に関して必要な事項 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>名古屋大学医学部附属病院ホームページにおいて公開</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
柵木 充明	愛知県医師会		愛知県医師会長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
三島 信彦	A01 名古屋病院		A01 名古屋病院 病院長を務めており，医療安全に精通しているため。	有・無	1
長谷川 ふうき子	成田・長谷川法律相談所		医療安全管理を得意とする弁護士であり，法律に関する高い識見を有しているため。	有・無	1

芦田 豊	全国健康保険協会愛知支部		全国健康保険協会愛知支部長を務めており、医療を受ける者として、医療に係る高い見識を有しているため。	有・無	2
中東 正文	名古屋大学		総長が指名する理事・副総長	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

名古屋大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規程、内規等の整備状況及び実施状況、年度計画に基づく組織及び制度全般の運営状況、人事管理状況などについて監査を行っている。

また、「東海国立大学機構における内部統制システムの整備及び運用に関する規程」を整備し、病院も含めた全学の業務状況を確認するため、内部統制委員会を年一回開催することとしている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法

名古屋大学ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p style="margin-top: 20px;">東海国立大学機構役員会をもって充てることとし、病院の経営に関する事項については病院長、又は副病院長が出席し審議を行うこととしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況 (年 26 回) ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) (年 2 回) ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 名古屋大学ホームページで公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 名古屋大学ホームページに掲載するとともに、職員に配付している「医療安全ポケットガイド」においても掲載し、案内している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類(任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1. 附属病院における臨床研究成果を①名古屋教育記者会会員15社へFax、記者会見を通じてプレスリリースを行い、医学系研究科ホームページに研究トピックスとして掲載し、広く学外・院外に向けて情報発信している。</p> <p>2. 診療内容・医療サービスや診療実績等の医療情報について、附属病院ホームページにおいて公開している。</p> <p>3. 患者や地域向けに広報誌を作成し、広く頒布している。また、一般市民を対象とした公開講座を毎年度開催し、地域市民に向けた教育・啓発活動にも取り組んでいる。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>ア. 補助人工心臓を用いた重症心不全治療...心臓移植治療、心臓外科、循環器内科、ICU、麻酔科、精神科の診療科の他に、看護師、臨床工学技士、理学療法士(心臓リハビリ)、臨床心理士、栄養管理部、薬剤部が合同して患者管理を行っています。植込型補助人工心臓治療は心臓移植適応患者を対象とするため、多職種カンファレンスで適応を審査し、補助人工心臓移植から在宅管理、将来的な心臓移植までのシームレスな重症心不全治療を多職種で行っています。</p> <p>イ. 肝臓移植はチーム医療で行っている。(図1)</p> <p>ウ. 神経線維腫症1型患者に対して、15歳までと15歳以降に分け、それぞれ基本的に診療を担当する科を決め、他は症状に合わせて診療科を決めるシステムを構築した。15歳までの診療システムを示す。(図2)</p> <p>エ. 肉腫患者に対するサルコーマボード：整形外科、化学療法部、放射線科、緩和ケア科、外科</p>	

- 、泌尿器科などが参加して、肉腫患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している
- オ. 骨転移患者に対する骨転移ボード：整形外科、リハビリテーション科、化学療法部、放射線治療科、緩和ケア科、外科、泌尿器科、乳腺外科、呼吸器内科、などが参加して、骨転移患者に対する診療方針に関する検討会を月1回開催している
- カ. 大動脈疾患における人工血管治療とステント治療の同時ハイブリッド手術...心臓外科と血管外科が合同して手術を行っている。
- キ. 閉塞性動脈硬化症、血管炎、バージャー病による四肢虚血に対する血管新生療法...循環器内科と血管外科が合同で適応検討、諸検査、治療を行っている。
- ク. NST、褥瘡対策チーム、RSTなど、複数診療科の医師と看護師、及びコメディカルからなる専門チームを整備し、定期回診や職員に対する教育活動を行っている。

図 1

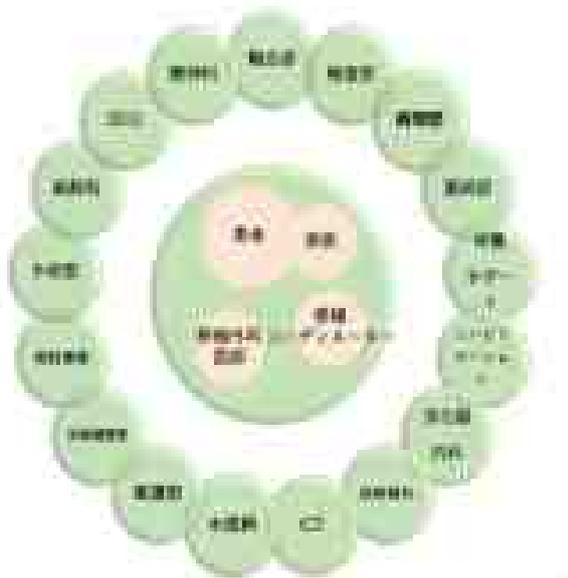


図 2

